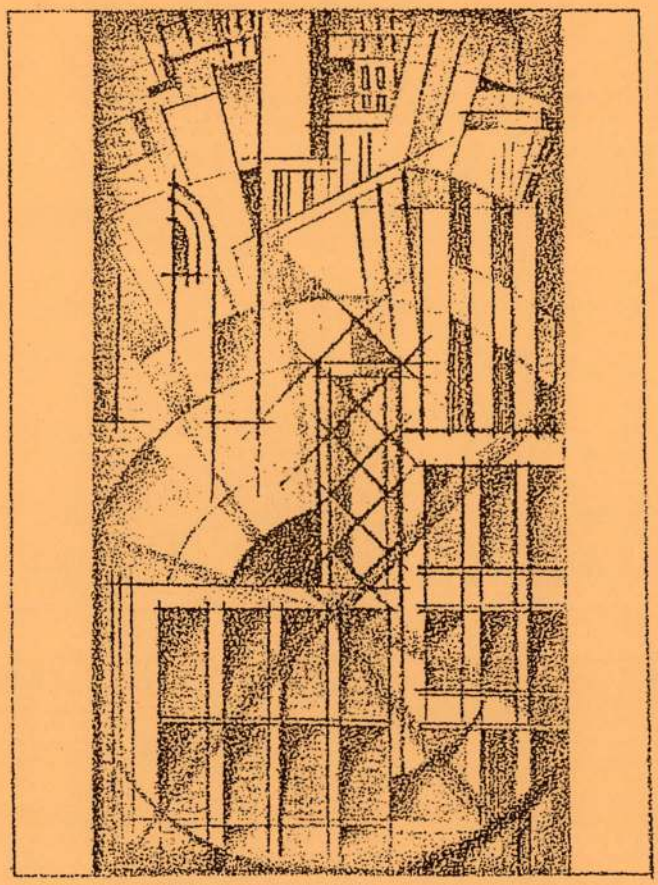
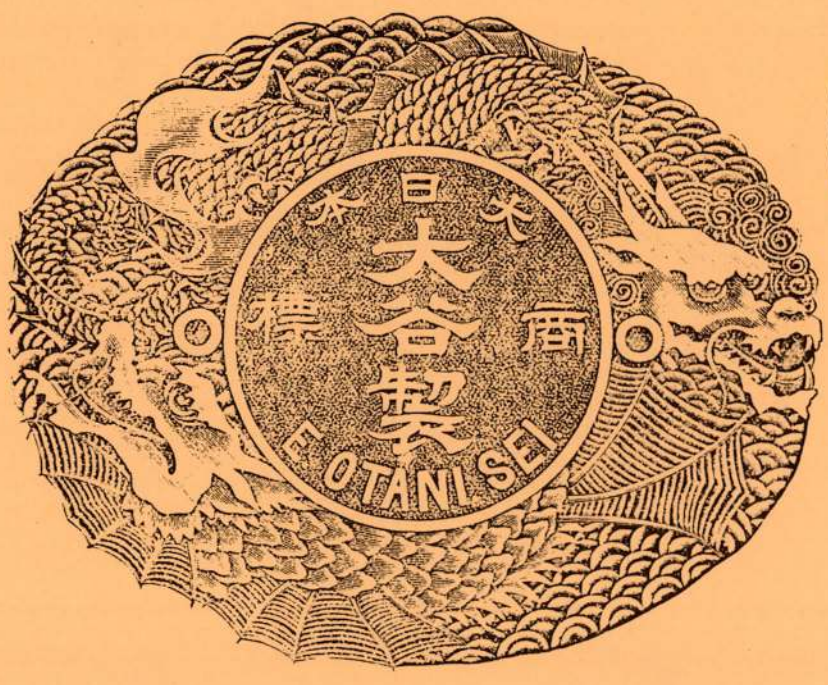
建築と社會

第八輯　第貳號



大正十四年二月一日





大谷金庫破壊
トスハエレトノレコルア

東京大谷金庫店

京橋區岡崎町二丁目廿五番地
電話京橋三一三四番
振替口座東京二九九六番

京都大谷金庫店

松原通東洞院東入
電話下(一長五三二番
一九〇番
振替口座大阪八六三三番

大阪大谷金庫店

東區淀屋橋筋道修町北入
電話本局三九三四番
振替口座大阪八六三三番

神戸大谷金庫出張所

楠町六丁目交叉點西
電話本局四八〇七番
振替大阪六〇九一〇番

現出器房暖的想理

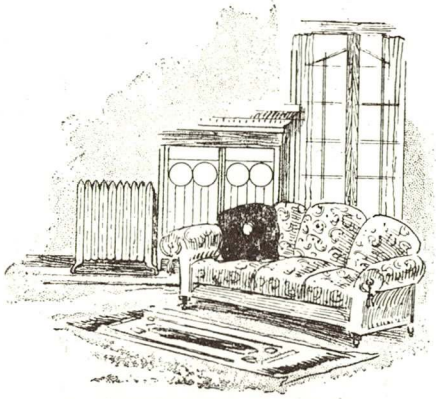
THE AUTOMATIC
Gas Steam Radiator

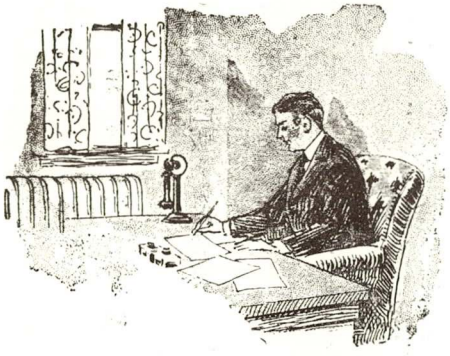
MANUFACTURED BY
Automatic Gas Steam Radiator Co.
U. S. A.

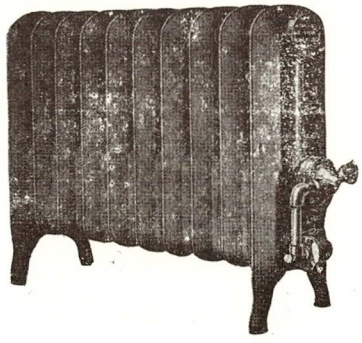
經費節約
衛生第一
取付簡單
體裁優美

詳細最寄支店ニ御問合被下度候

日本總代理店
內田商事株式會社
神戸　東京　大阪









第　社　會　と　築　建

口繪

一　木水榮太郎氏の新邸外觀
二　客間及居間其三寢室と臺所
三　居間より食堂を望む
四　同上平面圖及外觀側面

●表紙畫＝懸賞第一等當選
●カット凸版＝齋藤與里氏

■模倣と過程……（一）
◎住の問題……津田鑿…（二）
◎家族を含む自畫像……本野精吾…（三）
◎住居問題の統計的研究……楠原祖一郎…（六）
◎都市美學……稻津圭之…（一六）

研究二則

◎剛節架構の彎曲力率解法考察と其研究……大野直平…（二二）
◎木材利用の研究……藤園…（三六）
▲誤まられたる文化生活……中尾保…（六二）



◎希臘時代の彫刻論(二)……古塚正治…(二九)
◎加茂遺跡雲雀ヶ丘の石槨と其の追憶……澤部實之介…(五三)
▲友人木水君の住宅設計に就いて……小川安一郎…(六三)
▲都市計畫展覽會追記……大屋靈城…(四〇)
◎回教寺院と博物館……八戸成蟲樓…(四五)
▲爐邊雜記……廣岡峯太郎…(四二)

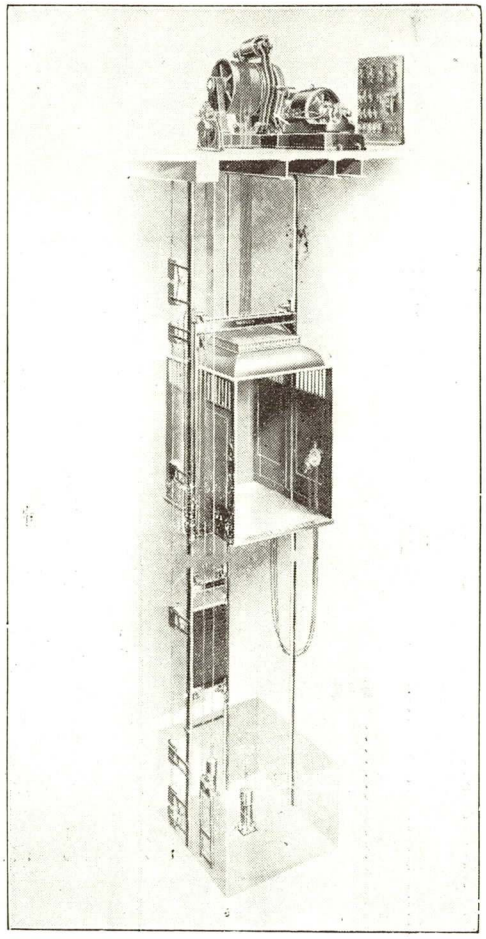
創作
喫茶店ロダン……三島沒虛…(六五)

■俳壇……溪舟選…(七四)
■俳句とは……溪舟…(七五)
■時事……(七六)
▲編輯小言……
■主要建築材料値段……(七九)

THE WARNER ELEVATOR MFG. CO.
CINCINNATI, OHIO.

最新式高級エレベーター

◎カアーに惰力を有する時其惰力と反對の方向にスキッチを入るゝも故障を生ずる事なく上下何れの方向の場合に於ても一定の整限時間を經過しカアーの停止したる後始動すべき樣特殊の安全裝置を有す
◎最新式にして設計巧妙運轉圓滑にして絶對安全なり
◎見積を要する節はカアーの容量（荷客の別重量又は何人乘用）全昇降呎數及階數一分間の昇降速度明記の上御照會を乞ふ



米國ウオーナーエレベーター會社
日本總代理店
ミドリ商會機械部

神戸市播磨町二十八番地
電話三宮 長三一一九番
五五〇九番

熟練せる技術者に依り据付試運轉結了迄充分の監督を爲し試運轉完了の上御渡しす

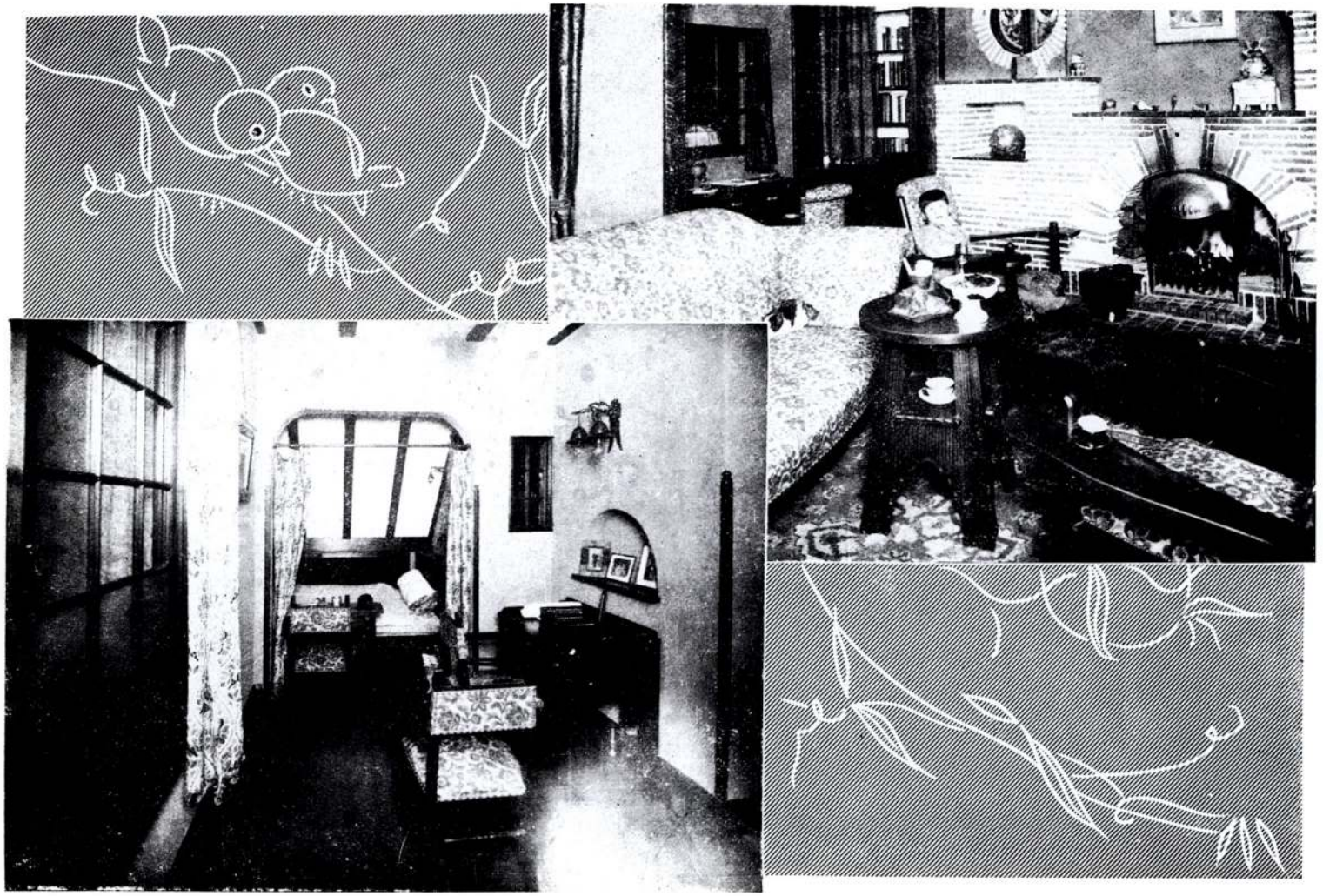
營業課目

米國ウオーナーエレベーター會社、エレベーター
米國ドライアンフ製氷機會社、製氷機
米國ノーウオーク鐵工會社、空氣壓縮機
米國ダヽンポート發動機會社、石油發動機
米國ブラックマーロータリーポンプ會社、ロータリーポンプ
米國ケーシヘッヂス會社、水管式汽罐各種
米國ロトスピード會社、輪轉復寫器

右各社日本總代理店として輸入取扱申候

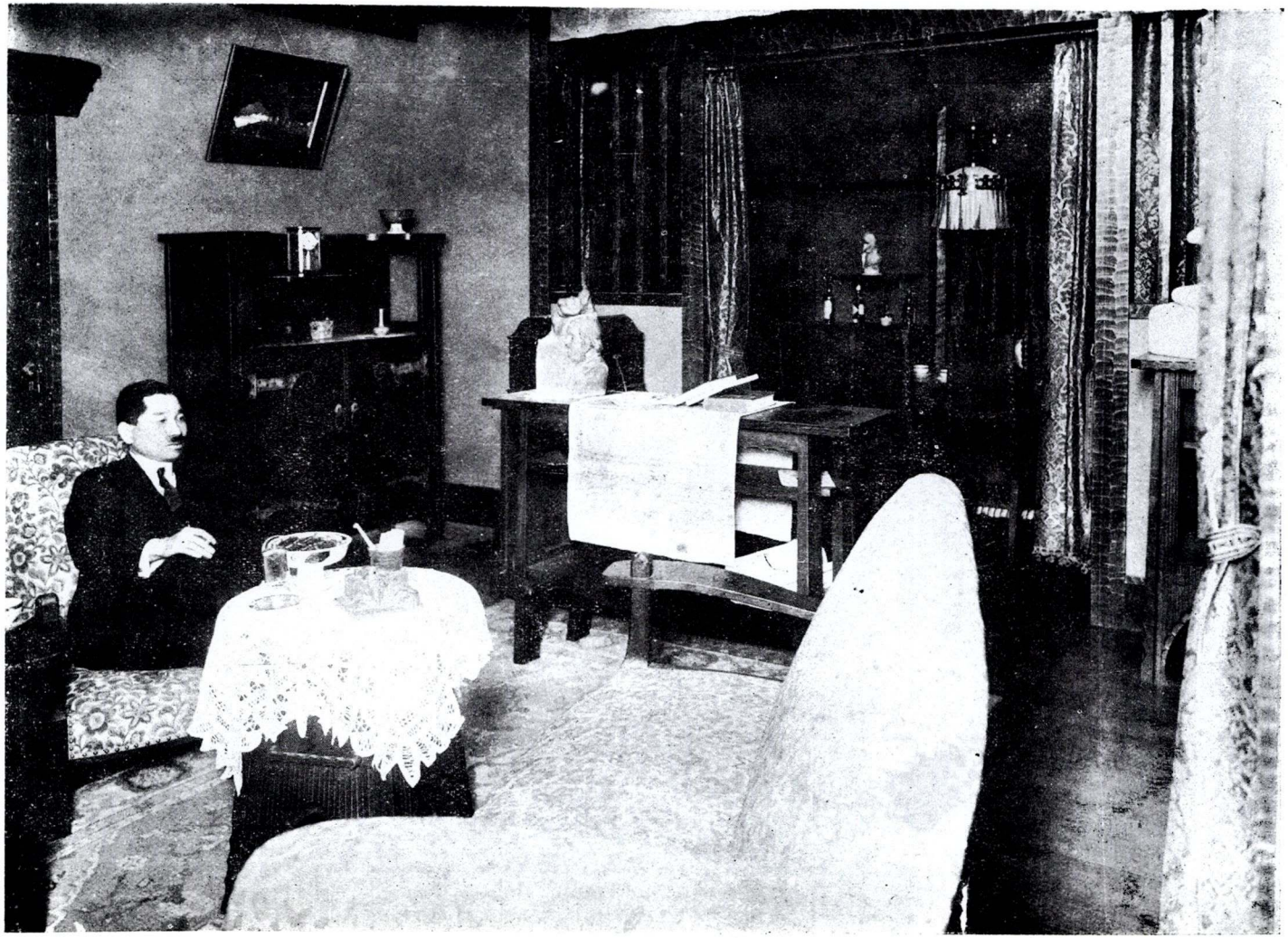


木水榮太郎氏邸——大阪市外阪急沿線御影（本誌六十三頁參照）

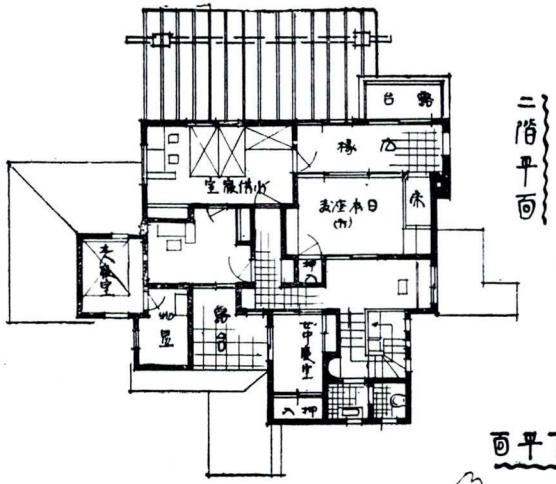


（その二）客間兼居間

（その三）主人寝室と書斎

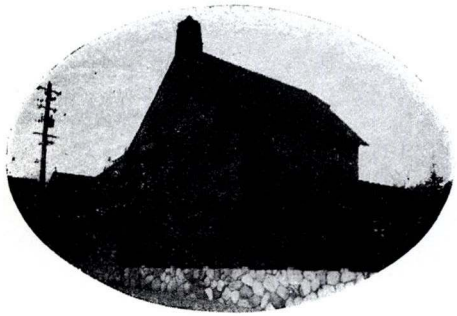


（その四）居間より食堂を望む





東方より見たる外觀



西南隅より見たる外觀

圖面平（五のそ）

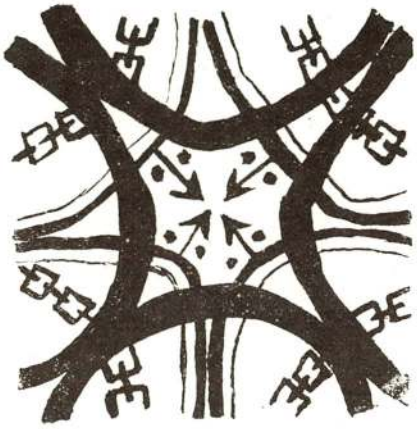


模倣と過程

模倣は必ずしも沈滯ではない。而して、亦た、無生長でもない。模倣の一つ〳〵から、必ず新しい何ものかを抽出し得る。蓋し、その凡ては獨立した個性の動きであるからだ。模倣に絶對性を考へるは、個性に絶對の無差別を考へるのと同樣な非論理である。個性はその各に於て絶對である。即ち、模倣の裡には、新しい何ものかを創る。斯る觀點に於て、模倣も創造の或る過程とも謂ひ得る。されど、創造を憧憬せず關心なき模倣は、竟に、その心的過程に於て、無生長である。少くとも日本の凡ゆる方面に於て「行き詰り」なる聲を聞くのは、斯る無生長の過程に在る模倣生活に由來して居るものと觀て可い。所詮は、日本國民に創造的藝術の缺けてゐることを語るものである。

エドワアド、カアペンタアは、「創造の藝術」を說いて『創造は隨時に吾等自身の心と身體とに於て認められる過程であり、不斷に感情と欲望から形相を造化するに在り而して、漸次に鮮明の程度を增し、透明不可見のものより具象的にして觸感すべきものに轉化す。即ち「情緒」より「思想」への進轉、「思想」より再び「動作」及び「外部世界」への推移に於て、その過程を吾等の裡に經驗し得る。卉は實に、凡ゆる「藝術」の基本なり。詩家、彫刻家、音樂家等、恒に彼等の「美」と「完全」の夢を心情の最も內密なる幽所と寶庫より持ち出して、世界に於ける彼等の地位を與ふ。而して、單り「藝術家」「音樂家」のみにあらずして、事物を製作する職工も亦同樣の範疇を出でず。斯くて、「人間」の世界は斯の過程によつて創造さる』と。

〔郊邨〕



「住」の問題

津田鑿

國民性と趣味——時代の要求する住宅
——住宅と經濟的建築費——
今後の住宅問題——住宅之歴史

改良された住宅は其實質如何によつて始めて價値が定まるものである。折角改良したものが實用に適せざれば何等の利益がない、貴い習慣を犧牲にして迄切り詰めた坪數が多くの場合、浴室、女中部屋、脫衣室に及ぼし自然と餘り無理をする結果殆んど他室との連絡又は其の室の職責を盡さない場合が多い。火焚場や土間の餘りに狹過ぎ僅かの不注意から臺所設備道具の配置に無理が生じ爲めに歩行距離は徒らに長く却つて不便を感ずること又は居室に日光の射入不充分で便所或は階段室の位置と取替へるのが當然である様な間取りや又時としては洗濯式に思ひ切つて改良した便所が構造の複雜過ぎ併せて用法の不慣から不便を感ずることがある勿論之は現時の服裝と生活の程度が歐米と異なる結果に基く點もあるが必ずしも歐風が全部好結果とは云ふべきものでなく細心の注意を必要とする。

立式の部屋を造つたとき服裝の關係から採温の設備を忘れた改良住宅は防寒上故障が多く實用に遠いことを感ずる要するに改良は其の實質が住むべき人の家庭の事情を斟酌し時代の風潮生活の程度とよく一致して其の目的に達し必ず有意義になつて居る必要がある。

國民性と趣味

國民性を現はすものに種々なものがあらうが、住宅の如きは其の一部で歐米到る處に何れも其の國らしい住居がある尤も趣味として我が國風の家を海外に建て或はバンガローヤ、スイス、コッテージを隨處に模倣することは勿論差支へないことで隨つて歐風の住宅も現時我が國到る處に造られ、所謂文化的に誇る様であるが、實際はどうしても周圍の文物と調和して居らぬ、其れは色々の事情から充分國民性を現はすことが出來ないからで輸入文化の爲めに無暗にバタ臭くなつて譯の分らぬ様式の家になるのは寧ろ醜態といふべき有様である。幸に交通不便の場所には我

國らしい住宅が幾分か未だ散在して居るのは心強い尚ほ一般に近時甚だ國粋を捨てたがるのは考へもので風俗、習慣、經濟の點から時代に適應する歐風も或る程度迄は用ひらるゝが到底全部を其儘受け入れる事は出來ぬ相談で、假令へば青島を受け繼いだ外人の住宅に吾々の知巳はどうして住居して居つたか其れは多くの人が洋館の中に更に又床を上げ疊を敷いて生活した有樣は其處に國民性が存するからで尚ほ且つ不幸にして現時之が日本の住宅であると誇り得るものが甚だ少ないことは愧しい。今後は科學の力を充分別用し併せて我國民性を表現した立派な住宅を建てるべき事であるそうして住宅には必ず趣味が伴い、各自の考へで之を相應加へる事は決して差支へないが其程度の高尚と低級で出來上るものに非常な相違がある。

時代の要求する住宅

耐震耐火諸設備の經濟的施設は勿論として、幾分か立式を採用する傾向が多くなることと臺所の改良各室職能の區別居間本位の住宅は著しく增すであらう、其の代に數寄屋風の趣味は茶室位に止め餘裕なき場合には不得止多少殺かれ實用的になることであらうと思はれる。

現時はどんな住宅が要求せらるゝか坪數は少なく用途に充分であり、經濟費の少ない且つ理想としては勿論防火耐震のものであるが建築材料の性質から兩者を兼ねるものには鐵筋コンクリート構造又は之に伴ふものより外にない。併し工費と形態の點に申分があるので木造を全く捨てる事は不可能である。木造を捨てないとすると之を出來る丈補強し且つ努めて防火的にし幾分でも安心の出來る住宅を造ることになる、其れには適當のものは未だ見當ないが差當り木骨金鋼コンクリート塗りの樣なものを造る事にならう尚他家と間隔距離の關係隣地との境界には非常時の設備を忘れない樣に適當の方法を講ずる必要がある。そうして間取りが著しく變化する傾向を持つて居ることは爭へないことで便利な椅子式の少なくとも一二室を要求する結果家具の配置と室の使用法にしても狹い椽側を取込み室を擴くするか、或は一層巾を廣げてベランダーを附けるとか、食堂に造り附け配膳棚其他居間の押入に代用する設備或は寢室に適當の寢臺、採温設備等を用意するとせば其の結果室の面積に變化が起り從つて在來の間取りでは不便の點から多少歐化した風になる譯である。

住宅と經濟

姿も同樣に座式が多少の部分にても立式を用ひるとなれば窓の高さ又は戸の開閉具合床や壁其れ等材料の關係から幾何か是れ迄の分とは違つた形が出來、其れに文化的の設備が加り、採温電化とも餘程從來とは趣きを異にすることになる。臺所は是れ迄の考へを捨て人に見せて愧かしくない丈けの設備を施して實用衞生上に注意が增し且つ各室の獨立は望むことであり、無駄な客間を最上位に置かず食堂、居間の邊を便利にし尚ほ衞生、經濟的の設備が發達し多少折衷になるのは不得止とするも大勢は最早居間本位に近づき各自思ひ〳〵に新らしき味を加へた住心地のよい住宅は日を追ふて盛んになる傾向である。

從來の住宅には餘り舊慣を墨守するのと且つ趣味を加味することが多い爲め統一を缺ぎ、結局經濟的になつて居らぬ間取りの變化を好み、同じものを造るのは愧なる樣な考へから、自然異つた種類が多過ぎる嫌がある。例令へば內法の高さに五尺七寸、五

濟的建築費

尺八寸、六尺の差がある樣に廊下でも三尺、四尺五寸、六尺甚だしい事は京間、田舍間と部屋の大さに差があり、從つて木材は一地方の六尺物を單位とすれば京間には長さの不足を生じ割高きものを使用する結果自然不經濟になり勝ちである今後は規格を統一して經濟的に出來合の品質を揃へて向上し使用するに躊躇せぬ樣に一般に努力すべき事である。

甲の利益は延いて乙の利益となり、區々に流れて不便を感ずる無駄の建築費を仕拂ふことを幾分なりとも防ぐことが出來れば非常な利益であるこのことは識者間には既に古くより唱へられてのありながら種々の關係から實行難が何時迄も伴ふて居る問題で其解決は急を要することである。

今後の住宅問題

今後の住宅に起る問題は如何にすれば簡易生活に適應すべきかと云ふ事になる、そうして敷地はその根本のものであらう。商業地と住宅地とは當然區別さるべきものであるが商品の貯藏又は加工の關係から全く區別しがたいものは一部の混合住宅となる譯である。併し保健、經濟其他の利害は一得一失でも理想としては區さるべきものである。住宅地を郊外に定むるとすれば都會とは周圍の事情を異にして思ひ切つて延ひ〳〵としたものが建築される利益がある。そうして相當に發展して行きつゝあることは喜こばしい。市中のものは相當拘束されることは當然で致し方がない、隨つて其の間取りは到底田園にある樣な衛生的なものは求める丈け無駄で若し不得止とすれば勢ひ商業地ではアパートメントの必要が生ずる、例令へば同一の建物でなくとも營業所の附近に又郊外の遠き場所を不便とすれば比較的近い場所に設備完全の共同住宅が必要である只問題は服裝と習慣の點から最初は多少無理があつても考究して經營の方法がよろしければ相當の成績を擧げ得らるゝことであらう。

建築費は低利資金借り入れ建築會社の月賦住宅組合に對する政府の補助機關等を願ふも今日の處では未だ完全に要領を得て居らぬ爲め個人が、みすぼらしい住宅で不滿ながら辛抱するより方法がない。共同設備例令へば汚水排除の方法、電燈、水道、瓦斯の給與等建築費の負擔を多少輕減すべき方法があつても更に徹底しないのは遺憾千萬である。

田園住宅の發達は關西に多く東京附近は聲のみ大にして更に進まない一部の人士には組立家屋を米國から輸入して急速を喜ぶ人があるが之は考へもので國情を異にする吾々の住宅は吾々の要求する間取りと設備を必要とし。雜貨品を輸入するのとは少しく相違がある。但し趣味的又は別莊向きには必ずしも惡い事はないが工費其他一考の餘地があり住む人の要求を入れて造つた組立家屋で我國で出來る工費以下なれば問題は別と云ふ事になるが之は到底望まれぬことであらう。

住宅と歴史

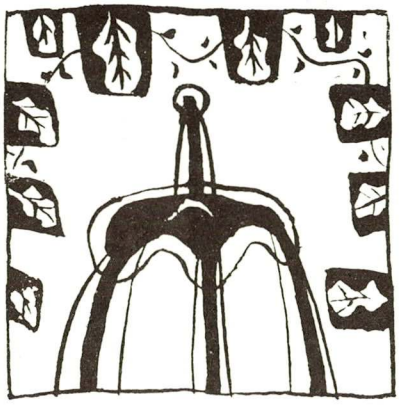
永い間に造り上げられた住宅の歴史は尊いもので舊來のものに又無理に捨てがたい多くを持つて居るのと加ふるに民家の形式は又見逃すことの出來ない國民性を帶び同時にどうしても取り去る事の出來ない何ものかをいつの時代にも殘す樣である。近く明治時代より急速に進歩をした住宅は更に上野に出來た文化村或は大阪住宅博覽會實物の陳列で目覺しい刺戟を社會に與へ加へて講演宣傳等に有力なる識者努力の結果其の功績は新たに大正の歴史を飾るに特筆すべき事柄で新住宅の建築に影響する點も決して

僅少ではない、勢い舊來の住宅に多くの改良を促進てたことは既に廣く知られた事實であらう、併し舊來の住宅にも甚だ捨て難い點がある。

其れは風俗習慣氣候に關係して永い間に出來上つた住宅は經濟、實用、趣味各方面から相應の研究を積まれたと云ふ事は首肯せらる、先づ風土に關係することは當然で、防風或は耐震に關する構造を始めとして夏と冬の用意をする外梅雨期の如き厄介な氣候を持つ我國では其れ等に對し細心の注意を必要とせられ加ふるに海岸線の長い北海道と九州の端と中國とは自然に其の構造や間取りに影響することは致し方のないことである。

史上に現はれた住宅は昔から種々に研究され穴居から柱を建て屋根を置き床を高め建具を用ひ疊を敷込み壁を塗る樣になつた經路は蓋し數千年を費して漸く改良されたもので其の遲々たる點には色々の原因があるからで武家造りや書院造茶室の發達明治初年歐米文化の輸入と共に洋風の燒直し流行とは實に驚嘆すべきことである。今後尙如何に發達するか住宅問題は頗る注目に値する。

本當に家を建てる立場からいふと部分的にはよく思はれないものも、何時の間にかよい家が成りあがる處に建築家の仕事があると思ひます、能率とか、便利とかいふことから割出しても、結局便利でも、能率が增進するのでもないことが多いものです、個々の箇條にひきづられてゐる間は、決してよい家は出來ないでせう建築家として、先づ考へればならぬのは、家を建てよう、と註文した人の考を十分訊く事い、家族の人數その人の趣味などで、家はのび〳〵としたのがよいかも考へるのです。考へが纏まつたなら、その上で頭、內臟、手足などになる部分をはつきりさせ、各部分を十分にせめて行きます、例へば內臟なり五臟なり六腑なりの位置を完全に、お互によくします、大來れから小さい處へと及ぼし、一度二度、何度も推考して、次第に建物をよくして行くのです、箇條書によつて建築をはじめると、思ひもつかぬ處に行つて、本と末を顚倒して、折角考へた事は役に立たず新に考へ直さればならなくなるのです、考へに考へて建たといふ家も見當無しに考へ且つ建たのでよく出來る筈が無いのです。一度考へた事は必ず二度役に立ち、用ゐられなくてはならぬと思ひます、家を建てるには、自然から考へて行けば、屹度生活の實際に落て來るには違いありません、建築家は、自然と家を建てる人との仲介者であります、自分が自然を信ずる淺さ、深さはそれが卽ち建築のよしあしとなるので、家を建た人が、自分は此處に苦心した、彼處に工夫したといふのはつまらぬ問題で、建築家のいふ言葉は、建築物が、その總てを說明してゐると思ひます。斯意味から、生活改善とか、文化生活とか小部分的な意見に對して、餘り賛成しないのです、人間として、必要であるものは千人萬人皆必要なので、たゞそれには按配が肝要であつて、部分的にいふべきでないと思ひます、部分的といふことは大體の考へが生んだ產物であるに外ならぬので、此複雜な人間生活が極めて原始的な、單純さに歸ることは面白いと思ひます、建築家は自分の氣分を入れてはいけません、極めて嚴格な意味で、自然に從つて行かればなりません、これは建築が他の美術或は藝術と相違してゐる點です（遠藤新氏）



住宅問題の統計的研究

楠原祖一郎

緒論

住宅問題は現代社會の諸問題の中、最も重要なる意義を有する問題であることは、今更ら私共の論議を俟つまでもなく明白なる所である。而し乍ら我邦では住宅問題が、社會問題として論ぜらるゝ樣になつたのは、極めて最近のことに屬するので、主として、大戰後に於て私共の前に展開さるゝに至つた問題である。それだけに我國に於ける住宅問題は、短い期間の裡に於て、幾多の社會學者、又は技術家の間に論議せられた問題で、事實上それが社會問題として取扱はるゝに至つてからまだ極めて短日月であり且つ淺いものである。從つて住宅問題の發展は、尙今後に俟つ所が多いのである。

就中住宅問題と云つても、それの都市問題としての住宅問題であつて、村落に於ける問題ではない。それは我國のみの問題ではないが、比較的我國は村落に於ては社會問題としての住宅問題から離れて居るのである。之は都市と村落との生活組織が、全然別個のものであるからでもあろうが、少くとも各個が其の形に滿足するや否やは別として、如何に小農と雖も、自己の住宅位は自己の中で維持して居るからで、從つて當面の住宅難又は住宅改造の問題に接觸する必要がないからでもあろう。かく一樣には云ひ得ないにしても、之が殆んど其の原則となつて居るのである、されば都會の如き、焦眉の急を要する問題としては、考へられて居らないのである。我が國ではどの意味から云つても、住宅問題は都市問題の一分議として見るべきものである。

而して、毎年我國の都市に於ける傾向を見るに、何故にさほどまで住宅が不足するのであるかと云ふに、這の直接の原因は都市人口の急激なる膨脹に求めなければならぬ。之は世界都市の共通の現象であつて、獨り我日本のみに限られた問題ではないが、何故に都市の人口が、かく急激なる膨脹を來すかと云へば、それは言を俟つまでもなく都市にのみ文化が停滯するからである。

今都市にのみ文化が停滯して、それが村落に向つて放射さ

れない場合、村落の住民中、文化的意識に目醒めたものは、此の停頓して動く所を知らざる都市文化に憧憬して、年々歳々機會ある毎に彼等は居村を離るゝに至るので、都市は年々都市自體の內部的人口增加よりも、他より移住せる外部的人口增加、換言せば寄生的人口增加によつて、これが膨脹の原因を作つて居るのである。之れが第一に目立つのは、他の何物よりも住宅に及ぼす關係に於てゞある。都會に寄生し、都會より流さるゝ諸多の分泌物に集中するものは、先づ落ちつくべき住宅を求めなければならぬ、歐洲大戰の當時の如く、戰時工業が著しく殷盛を告げた時、勞働力が需要せられて、一般勞働者が一時に多數都市に向つて集中した時の如き、忽ちにして住宅の沸底を告ぐるに至つた。住宅問題が即ち茲から發生するのである。若し是の一時的移住者が、從前の都市區域內に抱和さるゝ時は、そこには一地區に於ける居住人口密度の激增が現出し、從來の區域外に向つて放散さるゝ時、無節制にして無計畫なる都市の延張となりて、茲にスラムが發生する。而していつの時、何れの社會に於ても、投機業者は營利のためには其の目の働きは極めて銳敏である。故に、一端家屋建築の事に投資することが有利である場合、直ちにその遊資を之に投じて、利調をスペキュレーションするに至る。そのために急造家屋が生れるのである。而して凡ての文化的條件即ち人口密度の集中緩和、一人宛所有坪數の增加計畫、非衞生地區の改善等を無視して、集中的に——尤も集約式建設に則らねば、彼等は自己の營利の觀念に滿足を與へ得る結果を見る事が困難であるから——非文化的家屋を建て連ね、人口密度を增加し、一人宛所有坪數を益々狹少ならしめ、而して狹少なる地區に多人數を住はしむることより生ずる風儀の頽廢、衞生觀念の弛緩が齎す非衞生地區の現出が、數年ならずして、その地區をこの點より見てもスラムたらしむるに至るのである。

斯くの如き現象は、寔に悲しむべき事と思ふが、然しそれが從前よりの事實として、私共の前に存在して居るのであるから、否認することは出來ないのである。家屋を利用するものに於ては、急を要するものなるにより、自分の利用せんとする家屋の文化的價値について、批評等を加へんとする餘地がない。そして又一般に文化價値評定の知識を持つてゐないから、その點に就ては極めて無頓着である、その家屋を利用し得る條件にして、自己の力に妥當するものなる限り、何の批評をも加へず無條件に、その家屋を利用する。又一方家屋の所有者は　文化的な理由等は彼等に對して何等の意識にも上らない。只だ自己の所有せる家屋が、何人かによつて利用されゝばそれで目的が達成されて居るのだから、利用されてから後の問題に就ては、其の態度は極めて冷淡である。之は彼等の立場に起つて見れば寧ろ當然と見られる。

この事實がついに不良住宅地區を構成するに至り、都市の疾患即ち貧乏と犯罪が、諸種の形を呈して現れて來るのである、かくなれば住宅問題は單なる住宅問題ではない、一つの綜合的なる都市問題としての意義を持つ事になるのである。

此の狀態は世界各國何れの都市についても、同一の見地と理由の下に判斷され得るのである。ロンドンにしても、パリーにしても、ベルリン、東京、ハンブルグ、大阪、マンチエスター等にしても、其他人口過多症に侵されてゐる都市では不良住宅の改造は、單に一義的の住宅問題に止まらずして、綜合的なる都市問題を生み出すのである。

× × ×

さて、我が國に於ても戰後社會狀態の進化により、社會政策の諸問題が有力に研究さるゝに至り、その研究の結果が社會事業として現れることゝなつたが、その結果、當時としては極めて新企の計畫としての公營住宅問題が論議さるゝに至り、現に東京、大阪、等を初めとし、全國の主要都市では數の多少を問はず、公營住宅を實施するために、大規模の社會事業として之を經營した、而して政府は此の適切なる事業を助成するために、低利資金を融通し、住宅公營のために便益を供したのである。此の低利資金は、今や殆んど之を利用しない府縣がない迄に、全國的に普及されたのである。而して地方府縣及都市の當局は、その資金を以て公營住宅の經營、住宅組合又は住宅會社への轉貸を行ひ、間接的には一般社會事業として公設市場、簡易食堂、公設浴場、公設質屋、公設託兒所、共同宿泊所等を建設した。併して公營住宅の經營、住宅組合への轉貸を除く他の事業は、今私が本項に於て論述する範圍外の問題であるから省略するが、全國各府縣で住宅組合の現狀が如何になつて居るか。又全國の家賃が地方別に見て、果して如何に取扱はれて居るか。そして住民の收入と家賃支出との割合、及敷金との關係、家賃と室數、並に疊數の割合は如何になつて居るか。而して又俸給生活者と勞賃生活者との關係、そしてそれ等が過去數年間の間に如何なる變化を經て今日に至つたか、以下それ等の事實に對して統計的な研究を試みたいと考へるのである。

さて私は住宅問題は之を二つの方面から考察する必要があると思ふ。私は之を、住宅建設又は改造に於ける基礎的意義を提供するための經濟政策乃至は社會政策と、改造途上に於ける技術的方面との二つに分つを便利と考へる。又かくあるのが原則と見るべきであるが、私共はどの方面に於て研究しても、要するにそれは基礎的意義を確立し、條件づけるための經濟政策乃至社會政策の範圍に出で得ないのである。技術的見地によるものは私共の取扱ひ得る範圍外のものである。私共の見地は都市問題としての住宅問題であると同時に、經濟政策の一派生としての住宅問題である。この立場に起つ時私共論述の範圍は、自から明瞭である。

全國に於ける住宅組合の現狀

今更に住宅組合の意義を論ずるのも不必要であるべき筈だが、而し中には往々にして住宅組合を誤解して居るものがある。住宅問題は云ふまでもなく、一種の產業組合である。各自が出資して組合を造り、各自の消費貨物を購買する消費組合と、同一の理由に基づくものである。故に一定の法の下に或る拘束を受けなければならぬ性質のものであるは云ふまでもない。その點は住宅組合を造らむとする間には理解されて居る所であるが、さて何故に住宅組合が起つたか。政府は地方廳を通じて只だ無暗みと巨額の資金を融通する筈がない。そはどこまでも社會政策として行つて居るのである。所がその低利資金が融通されて、一定員のメムバーが住宅組合を作る時、この本來の意味を理解してゐるものは極めて稀れである。たゞ目的の上に於ては如何であろうと、それを利用し得るならば、利用する方が却つて利益であるからとの考へによつて、利用を企つものが多いのである。政府をして之を云はしむれば實に其の不可なるを指摘することゝ思ふ。而し地方

廳としても同じ貸出すべき資金であるから、何人に貸出すも同一であるとはまさか考へてはゐないだろうが、併し實際に行はれた住宅組合の動機を見ると　かゝる批評を免るゝことが出來ないのである。私は何を根據としてこの批評を爲すかと云ふに、住宅組合を作り、低利資金を利用するものゝ多くは、年收數千圓以上の中產階級に屬するのである。之の事實を見る時、之は無批判に看過することの出來ない問題であると思ふ。今日年收數千圓に達する人々は、政府の低利資金を融通することによつて、其の住宅を建設せずとも、それは立派に自己の收入の範圍内に於てなし得らるゝのである。眞に社會政策の本義に則り、住宅組合を作りその組合員に住宅を所有せしむる必要のあるのは、年額千圓以下の小額收入者でなければならぬ。廣い意味から云へば、今日の經濟生活の標準から見れば、年收千圓以下の所有者は之を貧乏人の範圍に加へなければならぬのである。この意味に於て、彼等に居宅の自由と安靜を與ふるために、住宅組合は專ら彼等に向つて起さるゝ筈だと私は考へる。然し乍ら事實に於ては此の反對の結果を呈して居るのである。私は此の事實に對して實に心細く感ぜざるを得ない。卽ち彼等小額收入者は、他の生活上の不安に襲はれつゝあるため、居宅の建設等に思ひ至るものが少ない。又此の利用の道さへ知らざる有樣で、從つて住宅組合は一般に、知識ある中流以上の家庭に利用せらるゝ傾向である。而して私の此の所說に對する反駁の辯として、住宅組合は中流以上の家庭に於て利用せしむべきものである。而して之等の組織を利用し得ざる小額所得者に對しては、市に於て市營住宅を經營するのであるから、それを利用せしむべきであると云ふかも知れない。而し乍ら住宅組合は換言せば住宅の組合組織による生產である。自己の住宅を生み出すための生產である、が然し市營住宅は、家屋を彼等に賣り渡すものではない。それは社會政策を基礎としたる普通の賃貸家屋と何等異る所はないのである。何年間家賃の支拂を續行しても、それは決して自己に戻るものではない。住宅組合と市營住宅とはかゝる大なる變異があるのであるから、右の如き說は決して取るに足るべきものではない。住宅問題解決の一助としての住宅組合は、本來から云へば小額所得者本位のものでなければならぬものである。社會政策の客體となるべきものゝ保護善導の爲めの社會政策でなければならぬ、年收數千圓以上の所得者を以て、果して保護善導を必要とする社會政策の客體と見得るであろうか。若し彼等をも其の客體として見るならば、彼等は甚だしく不滿に思ふであろう。前言せる如く住宅問題は社會政策の一派生としての問題である。故に社會政策の客體となり得ざる人々より、社會政策の對象たる此の組織を自己の範圍に取り容るゝは、甚しき矛盾と言はざるを得ないのである。

× × ×

私は前言の如く、住宅組合の性質から其の利用の可否に及むだが、此の住宅組合は手續上から云へば、何れも政府の低利資金を地方廳より轉貸せられ、地方廳の施行細則によつて布令せられたる規定に準則して、一定數の人々によつて作られるものである。

今この住宅組合が、最近の統計によつて其の設立の認可せられたるものゝ數を見るに、總數は全國に亘つて六百十二組合に達して居る。而して之が組合員の數は、九千七百九十一人に達し、建築費總額が貳千貳百五拾六萬七百九拾參圓に及

むで居るのである。即ち六百十二組合の人々は、これだけの建築費總額を低利資金として融通され、又されむことを申出でて居るの狀態である。之を一組合宛に見積つて見ると、一組合平均所要額が參萬七千圓弱に當り、組合員一人の平均所要額が、約三千圓である。又一組合の平均組合員は約十六人である。而して組合設立許可數の最も多いのは、東京府の百の一組合を初めとし、大阪の四十六、兵庫の四十一、神奈川長崎の各三十四、福島の二十七、福岡京都の各二十四の順位で、德島の二、香川、大分、山形の各一を最低として、北海道より沖繩の端に至るまで、住宅組合が行き渡つて居るのである。次に其の統計を掲出して見やう。

住宅組合數（大正十三年五月末現在）

府縣別	組合數	組合員數	所要建設費
北海道	七	一五四	一七九、四五〇
東京	一〇一	一、五九六	四、九二四、五三六
京都	二四	二一六	一、六九〇、三五六
大阪	四六	五七一	一、四一八、八八七
神奈川	三四	三〇七	六九八、四〇〇
兵庫	四一	五三二	一、六九二、八〇三
長崎	三四	三八五	九四一、四五〇
新潟	六	一八六	二六五、二二〇
埼玉	三	二八三	四一八、四〇三
群馬	一三	二三三	二七七、一一九
茨木	三	二九	六三、三〇〇
奈良	九	一一〇	一五五、八五〇
三重	五	六九	一四〇、二三三
愛知	一〇	四六七	一、一〇七、七四〇
静岡	三	七九	一一七、三〇〇
山梨	五	四七	四八、〇〇〇
滋賀	五	九二	一五〇、八〇〇
岐阜	一四	一六八	二六一、〇四二
長野	一四	一六二	四三一、九〇〇
宮城	八	一七一	六一一、四〇〇
福島	二七	二七五	三〇八、三五〇
岩手	三	五四	九三、五〇〇
青森	八	一〇九	一六五、九〇〇
山形	一	六五	九四、九一一
秋田	六	三九〇	四八一、二五〇
福井	一四	一五一	二七五、〇〇〇
石川	一一	一〇一	二一六、八六〇
富山	一八	九〇	一六一、四〇五
鳥取	四	一六六	三二〇、九七五
岡山	四	二〇〇	八八〇、〇七四
廣島	一九	二一五	六〇一、〇〇八
山口	八	一三五	二三三、四九五
和歌山	一一	一九八	三一一、一七二
島根	一四	二一三	一八八、九〇〇
德島	一	一一	一八、〇〇〇
香川	二	三五	五四、五〇〇
愛媛	一四	一四三	二四〇、五三〇
高知	一二	一三〇	一八五、九八二
福岡	二四	五一五	一、〇六六、一〇〇

大分	一	二〇	四〇、〇〇〇	
佐賀	六	六四	一九五、四八六	
熊本	八	二三一	五三五 二六〇	
鹿兒島	三	二七〇	八八一、七〇〇	
沖繩	四	四二	六九、〇〇〇	
合計	六一二	九、七九一	二二、五六〇、七九二	

さて右に示した統計に見れば、極めて明瞭であるが、さて次の統計の數字を無意識に看過してはならぬ、此の數字の配列を注意して見ると、そこには必要に迫られた住宅難のための組合と、前言の如く中產階級のみの住宅經營の目的として行はれたものと、それを明に看取し得るからである。東京を今其の一例に取るに、一千五百九十六人のメムバーが四百九拾貳萬四千五百餘圓を利用するのであるが、一人宛の所要額が、約參千八拾六圓弱に當つて居る。又山形縣の如き一組合六十五人が、九萬四千餘圓を利用して、一人宛壹千四百圓强の建築費を使つて居る。又大分縣の例に見るに、二十八人の組合員が四萬圓の金を利用してゐるのもある。京都府の如きに至つては、一人宛所要額實に七千八百貳拾六圓餘に相當して居る所もある。東京以下、大抵の府縣では、一人宛の所要額は參千圓內外で、先づ住宅建設の最低所要額と見るべきであるが、京都府の如き、一人で七千八百餘圓の費用を投じて其の居宅を建てむとするものゝ如き、果して住宅組合によつて低利資金の融通を、受けなければならぬ人々であろうかを疑はざるを得ぬのである。一概に統計の數字を以て論じ去る事も出來ないが、私共は個々の組合の實情に就て知る事は出來ないから、やはり總括されたる統計を基礎にして論ずるより他に道がない。而して今この統計によつて論ずればかくの如き結果を見るのである。讀者はこの統計に對して、其の裏に流れて居る事實を想像さるゝ事を希望する。（未完）

子供がふたん遊んだり、勉强したり又寢たりする部屋と子供の健康とは大變に關係あるものである、從つて子供の部屋に對しては保護者達も充分に注意してやらねばならない、子供の部屋として第一に必要なのは日の當る南向きであらねばならぬと云ふ事である。これは子供が丈夫に育つのに日光が必要なばかりでなく日光は種々の病菌、殊に子供のよく罹り易い結核菌やインフルエンザ菌を容易く殺す力を有つて居るからである、其好例として顏色の惡い元氣のない子供が部屋を換へて日光浴を實行させたばかりで食慾も進んで元氣も出で血色もよくなつた場合が多い、次には新鮮な空氣が必要である子供の居ぬ時は晴た日であれば明け放して外の空氣を入れるに越した事はない、又斯んな日には子供が日常に使ふ衣服、玩具、書物類等も日光に曝し寢具類も日にかすやうにしてやらねばならぬこうすれば一方では殺菌にもなり又一方では子供を夜分非常に氣持よく寢つかせる結果にもなる、さて部屋の暖め方であるが電氣や瓦斯等の設備の行き屆いた家ではこれ等を利用するに苦しくはないが然し日本の家庭ではさうも行かず炭火を利用して居るのが今でも多い然し炭火は缺點が多いから注意せねばならぬ、炭から出る有毒瓦斯を防ぐ爲には子供の部屋には眞赤に起り起つた火を用ゐることも必要なら又室內の空氣の乾燥を防ぐ爲に湯を沸す事も忘れてはならない、又炬燵は絕對的に子供には惡いからよほどの弱子供でないい以上は使用せぬ方がよろしい。



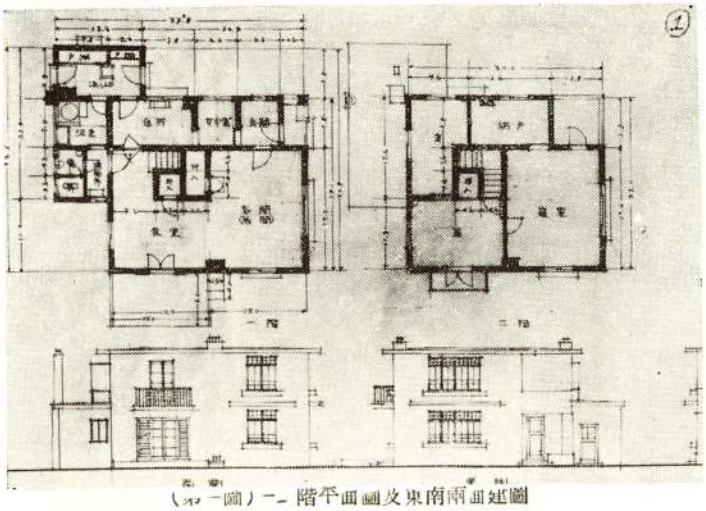
(第二圖)東南街路ヨリ見たる透視圖

家族を含む自畫像

本野精吾

自畫像――私は今度自分と自分の家族の住む家を建てゝ這入りました。其の心持は丁度一人の畫家がアトリエで家族を含む自畫像を描く時の心持と似通つたものでしやう。ソコには何の束縛もなく外界との交渉から放れ靜かに自分を見つめる時眞の意味の自畫像が生れるのであります。私の今度の家は丁度コウ云ふ心持で建てた家でありますソレですからソノ中には建てゝ人に示さうとする心持は勿論少しも這入つて居ません。又何か物珍らしい事をして、ソレを世に問はうと云つた風な心持も少しもありません。コウ云ふ家の事を書いて見る事、しかも『建築と社會』と云ふ極めて社會的な雜誌に書く事が何となく見當違ひの事の樣にも想へます。けれども私は常に自分の一生を人生に對する一ツの供試體、即ち自分を人生のモルモットとして

歩いて居る心持ですから、今度の家は一ッの自畫像ではありますけれども、其の中には可なり思ひ切つた試みをやつて見ました。コウ云ふものを諸賢の前に展開したならば、何かの參考資料になるであうと云ふ心から、此の項に筆を採る事に致します。唯御斷りして置かなければならないのはまだ這入つて間もない事でありますから、此の家を基本とした生活の經驗はまだ極淺いのであります。新らしい家に這入つてから少なくとも一年を經過しなければソレから或る結論を引き出す事は出來ない譯であります。ソレですから理想を現實に移した實際の結果に就て述べる事は餘り多く出來ません。此の事を御斷はりして項を進める事に致します。



圖建面兩南東及圖面平階二（圖一第）

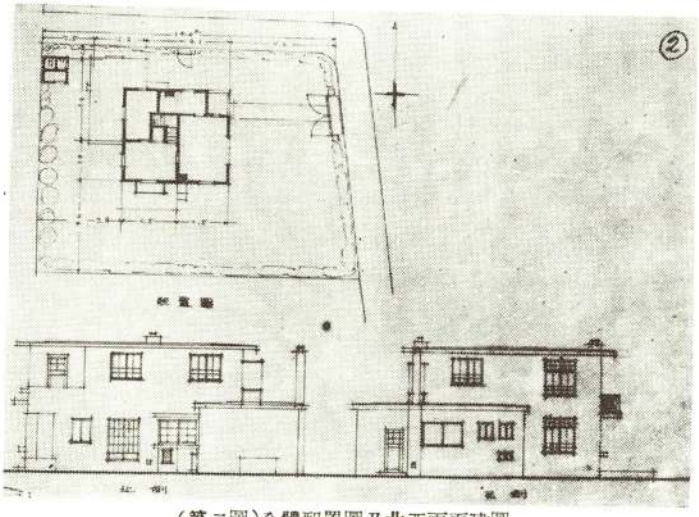
家族生活の基調——家を計畫する場合には先づ家族生活の基調が何んなものであるかを極めなければ、計畫の最初の一歩を踏み出す事さへ出來ません。家族生活ソレは一つの集團生活である事は申す迄もありません。唯ソレが何んな集團であるかと云ふ考へ方に依てソノ基調が分れるのであります。私の考へでは家族は各異なつた人格の所有者の集團で、各の人格は各の　目を果し乍ら全體として一つのシンフォニーを構成すると云ふのであります。丁度幾つかの樂器が各の役目を持ち乍ら全體として一ッのオーゲストラを構成する樣に。唯一ッの殘された問題は指揮者の問題であります。ある外國の音樂論者が將來のオーゲストラには指揮者が無くなるであらうと云ふ事を申して居ります。之れは何を意味するかと云ひますと、極度に發育したオーゲストラは指揮者なしに各自の役目を果す事に依て完全に樂曲が演奏されると云ふ事であります。現に近時歐洲樂壇の優れたオーゲストラ團では指揮者が最初の一ト振りを動かせば後は自ら樂曲の終り迄進行する位に訓練されて居ると云ふ事であります。此の考へ方を家族生活に擴張すれば最も訓練された家族生活にあつては指揮者を必要としないと云ふ事に歸着します。之れが家族生活の理想鄕として私の考へて居る點であります。家族生活を包含する住宅の計畫はこゝに基本を置いて出發し樣とするのであります。

プランニングの問題——此の問題は二ッの要素から成り立ちます。一ッは內部の家族生活自身の運轉。一ッはそれと外界との接觸點の解決。此の二ッの要素を解決する事が出來ればソレでいゝのであります。言葉で申せば極めて簡單でありますが、住宅計畫の主要點は此の一事に盡きて居ると申しても過言ではありません。普通に此の事を便利と云ふ安値な言葉で云ひ表はして居りますが、私は此の點にモット深い意義を認めて居ます。即ち住宅の生命もソノ藝術的價値の基本も

あらゆる主要なる分子は總てコヽから出發すると云ふ考へであります。以下此の事に就て少しく詳しく述べて見様と思ひます。

動線と靜點――此の言葉は私が勝手に用ひて居る言葉ですから言葉の意味から說明しなければいけないと想ひます。動線と云ふのは人々が家の内を動き廻る場合を考へて其の軌跡を指します。靜點とは動線を避けて人々が靜かに落ち付く多くの點を指します。先づソの動線の事から申しますと、此の線は勿論三次の線でありますが其の形がリズミカルであり純一なシステムの中に熔かし込まれて居る事が最も肝要であります。丁度樹の幹の一方は根の方に分れて行き一方は枝葉の方にリズミカルな線を描き乍ら分れて行く様に、又は人體の内部に血管が流れる線の様に。住宅の動線は最も有機的に構成される事が必要であり、茲に住宅の有機性が胚胎されるのであります。

部屋の配置に就て――動線の構成が最も有機的になつた時部屋は適當に案配された事を示すものでありまして、此の間に矛盾撞着の起る事は先づ無いと云つていゝと想ひます。唯動線を構成する以前に部屋の方位に關しては充分の考慮を費して置く事が必要事である事は申す迄もありません。私の場合には居間客間食堂等を南東面に集め臺所、勝手、浴室、便所等を西北に集める事に依て室の案配を調和せしめました。ワウして其の中央部に階段を置いてソレと住宅の發動機能の中心點即ち臺所方面と密接の關係を保たしめました。ソウすれば階段の上り口の邊は動線が最も集中する點即ち人間の脈管に比較すれば大動脈に當る部分になります。



（第二圖）全體配置圖及北西兩面建圖

靜點に就ては特に記す程の必要を認めませんが動線が家の中軸に最も緊縮して構成される場合に靜點はソレを避けた部分に自ら適當に配置される譯であります

必要の表現――私が今度の建築に就て特に重きを置いた點は必要即ち動線の構成や室の案配と表現との關係であります私の家に就て一貫して流れて居る事は表現は必要の自然の發露を基礎とすると云ふ事であります。ソレで先づ此の必要と云ふ事柄に就て少しく細部に亘つて書いて見ますと。

一、家の内部から外部への聯絡を最も自然に保つ事。之れは玄關と車寄との關係、食堂からベランダへの聯絡、臺所と勝手口との關係等出入口のある部分の注意深き取扱ひに依て解決する事が出來ます。私が此の部に就て一貫して保持した條件は之等の部分に格段の急遽な高低の差をつけずして外部から内部へ自然に移り行く事であります。

二、庇の問題。私の意見として庇は絶對必要條件であります

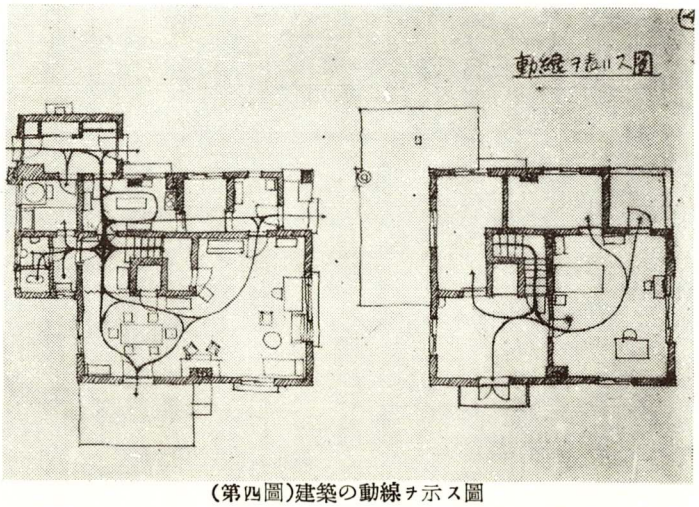
日本の様に風雨の荒い、従つて氣候の不安な土地では庇のないか又は少ない家は不適當であると想ひます。私の短かい經驗でありますが、僅か二尺の庇が風雨に對して何れ丈の効果を奏したか殆んど考へられない程大きい様に想ひます。此の庇は風雨に對して壁面を防禦するのと、一面には窓を通して内部から外氣への感覺の聯絡を何れ程和げるか分りません。斯う云ふ意味で全體に庇をつけました。

三、天井の高さ。之れは私の可なり大膽な試みの一つでありますが、心持の許し得る最小限度を取りました。即ち階下で七尺五寸階上で七尺二寸と云ふ思ひ切つた低いものであります。之れは最初の費用を少なくする點は勿論考慮の中に這入つて居ますが、動線を短縮する、殊に上下の連絡の處で極度に短縮し様とした點に主眼點があります。階段の部分で動線の短縮される事は全體の運轉の効果に多大の關係を有します。

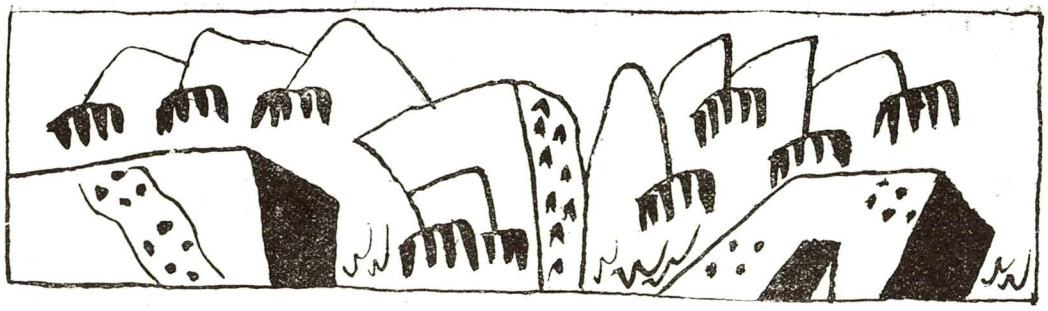
四、引違窓、之れは巾廣い窓を自由に取り得る爲めに最も都合いゝものでありまが。私が擇んだ理由はソレと構造を簡單にすると云ふ二ツの理由にとまります。ソウして窓臺の高さを二尺位に止め室内と室外との感覺の聯絡を密接にする事を企てました。之れは勿論主要な室に就てゞありまして、特殊な室は勿論此の標準の外であります。

之等の必要物件の自然的表現と云ふ事を一貫したモットーとしたのであります。茲には私の來るべき建築様式と云ふものに對する考へも含まれて居るのでありまして過去に存在した繁雜にして不合理な建築様式からの解放と云ふ事と、内面的にせまられて來る處の精神的及肉體的要求と云ふ二ッの點に立脚して全體の表現を試みたものであります。ソレですから此の中には私の全過去即ち深い傳統の上にはぐくまれた或る物が根底の基調を形造つて居る譯でありますソウして總ての外面的表皮を洗ひ流して新たに髮を梳つた様な心持が全體の計畫を支配して居るのであります。ソレですからソコには多くの冒險的な試驗的企劃が行なはれて居ます。以下其の事に就て記述して見様と想ひます。（未完）

×　×　×



圖ス示ヲ線動の築建（第四圖）



都市美學

稻津圭之

近代に於ける都市の社會的効果は、今更ら縷々しくこゝに詳說するまでもなく、まことに超計算的に重大である。近代の都市が、裡に全らゆる障礙と惡と曲歪とを育み乍らも、單に產業上とのみ言はず、人類の生活生存上に必要なりと思惟さるゝ百般の施設を集中しやうと言ふ暴食的傾向に基いて、殆んど躍進的に發達膨脹しつゝあるのは事實である。一言で言つて、都市とは人爲の世界である。かゝる人爲の世界に於いて美の眞相を把握しやうとの努力は、言ふまでもなく、當初から徒勞である。筆者がこゝに貧しい考察を初めやうとするのは、その人爲の世界なる都市の美に就いてゞはなく、都市を建築叢として見るか或は一大建築として見るかの如何を問はず、都市を一個の生命ある藝術と推定したる場合に於ける、都市の美とその學とに就いてである。

アロイシス・ロオザアの『美』の序は、『美は一切のものゝ榮冠的なる輝きである。』との一句から初められる。まことに、美は一切のものゝ不滅の榮光である。美の世界は永劫の世界である。その輝きは千古にきらめく。その存在は一切の目的と過程と手段とから恣に獨立自存する。美は一切の認識を越える。美は輕く世界の外表に現はれず、深く宇宙の內底に潛む。美を無下に捕へ得べき如何なる牢獄も、いまだ、人類の世界にはあらぬ。古來、幾多の優れたる美學者の研討考察も、その激しく痛ましき努力に報いらるゝところは、極めて些僅でしかなかつた哀しき歷史を有つ。美は、畢竟、人類への哀しき謎である！而も、この美の氣味惡き不可解程、大古藝術の創生時代より今日に到るまで、蠱惑的なる、迫心的なる、致命的なる　底知れない魅力を私達へ投げかけたものは他にないのである即ち、美は藝術の母國だからである。從つて、エドウアルト・ハンスリックがその『音樂美論』の卷頭に於いて、音樂美學の今日までの方法は殆んど全て大なる誤謬に滿ちてゐる、そは、音樂に於ける美自體の闡明に從事しないで、寧ろこれに依つて動かされたる私達の感情の敘述を事としてゐるのである、この研究の方法はかの古き美學派の立場に全く符合するのであるが、

古き美學派は、即ち、美を唯一人に依つて喚起されたる感覺に關聯してのみ觀察しやうとするのであると論じてゐるのは妥當である。然らば、美學とは絶望の學であるか。美とは、實に、不可解そのものであるか。

言ひ得べくんば、美の本然は『よきものゝ存在』である。再び言ひ得べくんば、美はそれを感得するものに愉快を與へる或る物である。愉悦、歡喜、恍惚、好愛、崇高、調和、秩序、整頓、均等、統一等の快き感情が、美を無條件的に感得することに依つて、私達の情緒を豊富にし、明るくし、力づけ、天國的ならしむるのは事實である。これに反して、美ならざるもの及び醜が、私達を絶望、失意、嫌惡、憤怒、悲嘆、曲歪、下卑、混亂、錯雜、不安等の地獄的なる暗らき世界へ導くのも事實である。從つて、美はしばしばその快感の度合の濃淡に依つて計算され、認識される。美の性狀の或る一部が不快感よりも快感に近いことは事實である。而も、私達は、官能的、肉感的、享樂的、頽廢的、刹那的の快感が、必ずしも美と一致するものではないことをすでに早く經驗してゐるのである。快き感覺の刺戟が必ずしも美を要しない場合も、たしかに、あり得るのである。然らば、快感は決して直ぐそのまゝ美ではないのである。快感は全く美的ではないのである。美は快感とは別個のものである。即ち、快感は美の享樂に對する單に一つの性向であつて、その歡喜は唯に美の活動の結果であるに過ぎないのである。從つて、快感を說くことは美自體を明らかにする所以ではないのである。

美が客觀的なものであるか、或は主觀的なものであるかに就いての研討は、古來、幾多の美學者達に依つて試みられた論爭の好題目なのであるが、その結論が、美が、かゝる相對的なる騷がしき論爭に依つてその價値を左右せられるには、あまりにも美しく、あまりにも獨自性を有つてゐることを發見するに止まるのは、哀しい皮肉である。美の動かし得ざる主觀性と言ふ考へには疑義と困難とを感じると論ずる者は、美が、均等や整頓や調和や秩序等の性向を有つてゐることから、美が客觀的なものであると論斷するのである。即ち、或る一物を構成する要素と要素との間に存在する關係からのみ均等や整頓や調和や秩序等が生ずると言ふのである。そしてかゝる要素は客觀的なものだと信じ、かゝる要素と要素との裡に構成され育生されるものが美である以上、美は客觀的な存在であると論結するのである。而も、この論者はすでに快感が即ち美であると信ずると同程度の早計をしてゐるのである。即ち要素と要素との秩序等が美を構成するのではなく、美が秩序等をその性向として構成するものであることを考へやうとしてゐないのである。また、或る種の藝術に對しては非常に鋭感であり得る人が、別個の藝術に對しては、例へそれが如何に優れたものであらうとも、その快感を充分に感得することが能きないからとの理由に依つて、美の主觀的性向を拒否しやうとするのは、繪畫に於ける美の本質と音樂に於ける美の本質とを、相違せるものと盲斷するものである。また、美の客觀性に對持しての美の主觀性を主張する論旨にも同樣の誤謬を發見することは容易な業であらう。從つて、美が絶對的必至的なる自存物であつて、美自體には何等の計畫的な目標野心を有たず、その强激なる伏在的魅力が永劫の世界に連り、永劫は絶對なる神より出づることに想達することに依つて、客觀性主觀性等の論爭はこゝに消滅さるべきものである。美は、しばしば繰り返して言ふやうに、永劫不滅の

ものであつて、永劫不滅の世界はすでに絶對の世界である。即ち、藝術に於ける美の創造的開展は、直ぐ、神の永劫に於ける創造的開展である。地上に於ける全らゆる創造美は、疑ひもなく、神性美の微かな光榮ある反映である。『被造物の有つ美は事物の裡に賦與されたる神の美に外ならない。』と斷言した聖トオマスは誤つてはゐない。美の光輝は神の光輝である。美の充實は神の充實である。美的對象が神の理想に近づけば近づく程、その美の光輝は增大する。美は徹頭徹尾天國的のものである。從つて、その美を、在來必ずさうであつたやうに、精神的實在としての美と物質的實在としての美とに分ち、或は超感官美と感官美とに解き、若しくは理想美と現實美とに並存せしめやうとの努力は、多分、徒勞にしか過ぎはしないのである。

美はしばしば善並びに眞と同一視される。私達がその對象が善並びに眞でない限り、眞正の深き美を感得し得ない事實から來てゐるが、この同一視は極めて喜ぶべき同一視である事物が美であると言ふことは、第一義的に於いては、萬物は無限なる神の創造であるとの絶對的な觀念から生じてゐることは上述で充分であらうが、一切のものが神の叡智に對して絶體的の一致を有つてゐるのは動かし得ない事實である。この一致は眞を生み善を生み、ひいては美を生む。美は神と俱に全きことを意味する。美は完全と同意義である。一體、感覺的印象を充分總括し得る藝術家にして、對象の美のみを精確に感得して、そこに同程度の善並びに眞を認察し得なかつた者はなかつたのである。善並びに眞と、美とがその根元に於いて同一の神に直即してゐる限りに於いて、この三者は、そこに生得的なる激しき相違性を認知し乍らも、常に相提携しつゝあることは事實である。この三者の親しき同一性こそは、この世界が神の世界である雄渾なる辯證である。

シュウォンが『或る一つの藝術の美學は他の藝術の美學である。唯その材料が異つてゐるに過ぎない。』と言つた意味の言葉は、そのまゝ事實なのであるが、これには多くの偏見を伴ふものであるとの意見を有つ美學者がある。彼に依れば、即ち、或る特種の一藝術の美學は、勿論各々の藝術に於いて多少の新しき差違を生ずるのであるが、唯一般的の哲學的な美の概念をこれに當嵌めることは謬見であつて、特種美學は一般美學の最高の哲學的原理に隷屬すべきものでは決してなく、各々の藝術はその特有の技巧上の規約に依つて認識されそれ自身の中からのみ理解されやうとするものであると言ふのである。この言葉も確に半面の眞理を指示するものではあるが、今美の本質が絶對的實在であつて唯一不變のものであるとすれば、その造形藝術であるか言語藝術であるかを問はず、或る一個の美學は、全らゆる藝術の美學であつて誤謬はないやうである。唯、藝術が學として論ぜらるゝ場合には、その美の顯示の過程が相違し、實現の手段に於いて幾分の等差を認めらるゝのみである。從つて、かゝる意味に於ける學としての都市美學は、他種の美學と立派に對持して確立され得べきものである。

都市の內容は社會的に運動する一つの人爲的なる形式であるが、その純粹なる萠芽が人類の集團性衝動に發し、その心理が個人の自己表現より發してゐる事實より考察して、都市が完全なる藝術として生長することが望ましいのである。感情のみが唯一の美的基礎ではないのであるが、藝術は一面に於いて感情傳達の具である。私達の美的觀照はその藝術品自

體をのみ觀察することによつて到達されるのであるが、藝術的に組成されたる形式をそれ自體に於いて存在せるものと見なさないのは事實である。私達は何等精神の關與なしには如何なる美をも承認し得ず、何等感覺の助與なしには美の眞相の秘密を認知し得ない。故に、美の學としての都市は、都市が或る藝術的なる精神の能動的なる發露として感得される時に、その生命を有つのである。

その搖籃時代に於いては、都市が未だかゝる意味での眞の美を表現し得なかつたことは止むを得ない。都市の感覺も人格も未だ充分の生長發達を遂げず、その精神的文化は極めて幼稚草蒙であつた。一つに都市居住者の精神的教養の不熟未開に依つたのである。かゝる狀態の都市が、やうやく發展的に變化して、美しき形式と組織とを生み初めたのはギリシャ時代に屬する。言ふまでもなく、單に物質的に豊富に裝はれたる都市が直ぐ眞實の意味での都市ではない。物資の集散や産業の發達や、或は建築の集團が、即ち都市であるのではない。都市は單に實利上　政治上のものではない。都市の雰圍氣は形而下のものではない。都市は表現されたる美である。美示の顯は藝術である。藝術は抽象的な人間性的理念を表はすための絶對の形式である。藝術は世と神とに向ふ人類の營みを表現する必至の形式である。從つて、こゝに言ふ都市の美は美の色質を指すのである。美は魂の表示である。本然の顯現である。秩序の光輝である。正準な釣等である。故に、求めらるべきその發展は社會的動機からよりも心理的動機から招來さるべきである。その活動は物質的ならぬ精神的な不滅の源泉から導かるべきものである。例へば、舞踊に於いては、その美は舞踊者の動作や事件の動作等に依つて傳達され脚や手や音樂に色彩等によつて表現され、即ち、舞踊者と言ふ舞臺の肉體的努力に依つてその藝術は完成させられるのであるが、その美が單に表面に於ける肉體の動舞にのみ依つてその生命を有つのではなく、その生命が舞踊者の精神の生命からのみ溢出するものであることは自明の理である。美は内在の力である。美學は内在の學である。都市の眞實の價値はその内國美の價値である。

何よりも先づ都市に於いて求めらるべきは、雜多の統一である。言葉を代えれば、多樣中に於ける美的統一である。多樣中に於ける美的統一とは、特種なる多樣中の内部的一致、即ち、雜多なる差別中に於ける全的調和である。相錯綜する要素と要素との有機化である。その統一體は複雜極まる雜多なる文化の考察深く緊縮されたものであらねばならぬ。都市美は、或る點まで、建築美の飽和されたる總量ではあるが、その總量は統一であることを要する。藝術と云ふ言葉は、大抵の場合、私達の美的努力の全ての領域を盡すために用ゐられるのであるが、全らゆる美的努力は、全てその對者に一個の至上的なる純粹の幻影を惹起せしめなければならぬ使命を有つてゐるものである。本來、美自體は最後まで無目的である。結果を豫定し、利益を計算することは美の本然の相ではない。美の本能は飽くまで單純盲目で、多くの場合、その効果の價値を豫感しやうとしない。唯、こゝに言ふ美的努力のみは、その當然の目的として幻影の釀成を企畫するのである從つて、都市美の統一は純化されたる一個の幻影である等である。都市の統一體が何等の幻影的効果を齎らさないならばその統一體は失敗せるものである。都市の生命はその幻影の生命である。そこには、建築相互のもつ美的感情の融合が求

められなければならぬ。美的全體はこの感情の平和なる統一からのみ釀成されるのである。

こゝに注意されなければならないのは、都市の主要構成體である建築の構造乃至樣式が、他の藝術に於ける場合に相違して、實用上の制限を受けなければならない一事實に就いてゞある。即ち、それが充分有用であるか不用であるかに就いての考察が、都市に於いては問題にされなければならないのである。有用は他の藝術に於けるよりも、建築乃至都市に於いて、更らに大切である。美なるものは、それが目ざす目的に適ふ時には善となると言ひ、全らゆる藝術中に於いて最も便利な家屋が最も美であると論じた論者は極端ではあるが、有用が不用よりも善並びに眞に近づくことより考證して、有用が不用よりは美に近付いてゐる事實は認め得られるのである。有用はより價値を含み、より快感を含むからである。有用は享樂的ではあるがより積極的であるからにある。有用の美的効果の方が不用の美的効果よりはより快感的であるのは事實である。而も、有用と美とは外的性向の上に於いては充分同一視し得るも、その觀念に於いては、常に、根本的の相違を示してゐるのは事實である。美は自存物であるが、有用は畢竟一つの手段乃至過程にしか過ぎぬ。美は必ずしも有用とのみなり得ず、有用は必ず美であることも能きぬ。藝術的な美の魅力が、すぐ、實利上の有用を表明しない。美の本然は斷じて消極の世界に屬さないが、有用の効果は時として偸樂的依存的であつて、消極的でさへある。有用から來る滿足が必ず美から來る快感と同一質のものであるとは限らぬ。從つて、都市に於ける全らゆる有用は、必ず、その美の圈内に隷屬させらるべきものであるが、その美も亦その有用に向つて相當の謙讓を持すべきは當然である。即ち、都市に於いては『不用なものは美しくあり得ないと主張することも、與へられたる美的領域に有用を認めることの必要さを尊重し過ぎることも、倶に、同じ誤りである。』とのヘンリイ・マアシャルの注告を賢く用ゐることに依つて、そこに圓滿なる發達を要望すべきであらう。

最後に殘されたる考察は將來の都市計畫者の資格に就いてのものである。言ふまでもなく、都市計畫者は眞の意味での藝術家であつて、同時に天才であることが望ましい。由來、天才は著しく本能的自我的である。彼等は自らの本能に信賴し、自我の命ずるまゝの衝動に動かされて創造への道を步む眞の藝術家は少くとも天才の閃きを有つてゐるものではあるが、この意味に於いて、都市計畫者も天才的な創造能力を有つてゐることを要する。而も、都市計畫者は編成の才を合せ有することを要する。彼は先づ一つ一つの建築を賢く手際よく集めて、一つの完き全體に纏めなければならぬ。彼は極めて聰明果斷であることを要する。藝術的眞實を追求する激しき希念を有ちつゝ、他の一切のものと共同協和しやうとする思慮を有つことを要する。彼は美學的であると同時に實際的である學識を有つことを要する。彼は理想家でありつゝ實際家であることを要する。彼は一切を理解し、全てに通曉しなければならぬ。彼は單に建築に通じてゐるのみでなく、他の一切の藝術を愛し、其他、哲學、神學、社會學、其他一切の學に、即ち、都市の抱擁する一切の文化に、充分なる敎養あることを要するのである。

× × ×



剛節架構の彎曲力率解法考案と其の研究（其の一）

大野直平

1. 緒言

架構解法の範圍

鐵筋コンクリートの構造物は種々異れるフレーム（剛節）の集合と考へらる場合が多い、かゝる場合其建築物に受くる全荷重は、單純に其等フレームに負荷分布を假定する事は不適當と思はる、然し乍ら本文に於てはかゝる立體的考察に入らずして、平面的に單なる別々のフレームとして取扱つて見る。尤も簡單を欲する爲本文に於ては垂直荷重について、尙支點の異動をneglectすれば一層公式が手易となり、近似的にも比較的正確に見當付けらるゝの關係もあり、異動なきものとして公式を導いて見よう。

解方の趣意

本文の方法はWilson氏のslope deflection methodより出發せるものにて、構材支點のslopeの比又はdeflectionの比を求め、比を用ひたる架構剛節點のmomentを表はす公式に、比を入れて、momentを解かんとするものにて、單純なるフレームにありては一定の公式により、復雜なるフレームに於ては近似的に、簡單にmomentを求めんと欲するものなり、尤も近似的又は簡單に求むると云ふも、程度の問題なれどもスロープ比による解法に馴るれば普通の架構は近似的にslopeの比を察し得るの便あり、多くの構材を有し且つ其剛性が稀なる程度のものは之れをslope deflectionの公式によりても凡てのslope及びdeflectionを出さなければ各momentが得られないとすれば、之は非常な手數である、尤もslope比の式も可なり復雜なれども或程度迄簡單に收約し得るのと、多少比に差はありとも餘りmomentに影響しないから、見當が付けられる、之れは實際の例によれば明かである、以上の意味に於て本文を述べる事は無駄ではないと信ずる。

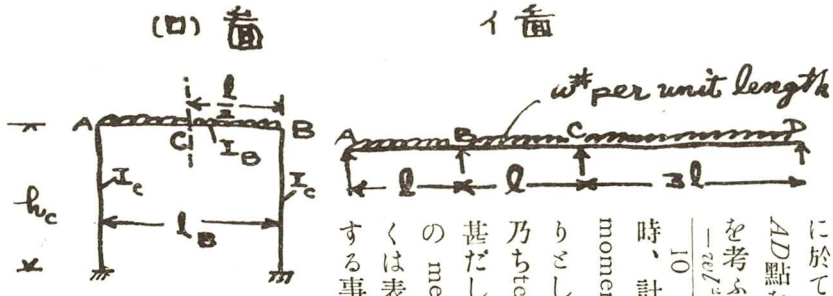
架構とmomentとの關係

次に架構に生ずるmomentの關係を大略書いて見るに、普通我々がmomentの計算の手數を略す爲に構材の固定の狀態をいゝ加減に假定して極部的に解く、之れは注意すべきもの

にて殊に梁柱の剛性の變化多きものとか、又は荷重の狀態を甚だしく變化せる場合等に於ては、全架構に渡り同時に考へたる結果と、非常な相異を生ずるから是非共全體に渡り解かねばならぬ、其點を適當に解決して見たい。

鐵筋コンクリートに於て、構材の節點を剛節と考へらるものとすれば各節點は載荷後に於て或slopeを持つ、乃ち各節點は相互に其剛性の強弱により各構材諸共に同じslopeにて廻轉す、從つてslopeは各剛節點につき樣々である、恰もpin jointの程度に廻轉するもの、又は固定に近き些少の廻轉をなすもの又廻轉の方向の異るものあり、從つてmomentも亦多樣に表さる乃ち固定狀態に生ずるmomentに近きもの、或はtwo equal spanのcenter support上のnegative momentの如き場合に近く事も、梁としては往々ある、又柱としても梁のmomentを受くる關係上、梁の固定の狀態に置けるmoment $\frac{wl^2}{12}$ に近く受ける事もある、乃ちuniform loadの場合は $\frac{wl^2}{12}$ に近いmomentを生ずる事もある、又反對に極めて少さい時もある。

斯の如きmomentの變化は何故に生ずるか、之れはslope deflectionの公式が回答を與へる、乃ち第一に外的に荷重の有無（各spen＝に各spanに於ける荷重の掛り具合と其大さ內的には各構材の彈性柔數(E)及各構材の剛性$\left(\frac{I}{l}\right)$である之れを或構材のみにつきて乃ち全架構の凡ての影響を考へて各自單獨に構材を考へたる場合がslope deflectioneの公式となる、乃ち其構材のmomentの變化は其構材の荷重狀態、大さと其構材の彈性柔數、剛性とslope（構材兩端）に或一定數を含めたるものに係はる、然し之等が如何係るやの點につきては、次に實例によりて明かにする。



構材隣接のspanの比較的大なる場合、其等spanのloadは荷重を一定すれば其momntも又大である、殊にuniformloadに於てはlに正比例するから1.2倍のspan lengthに於て1.5倍のmomentとなり、1.4倍のspan lengthの爲にmomentは2倍にて表はるを以て此momentの傳達は隣接spanに於ては無視する事が出來ない、簡單な例で試みると、「イ」圖の如き連續梁に於て、wなるloadを受くるものとし、AD點を支持とし、B點のBending momentを考ふるに、lのequal spanの場合は$M_B=-\frac{wl^2}{10}$となる、$C.D.$ spanの延長を考へたる時、計算は省略し結果を擧ぐれば、B點のmomentは$+\frac{wl^2}{12.4}$となる、之は絶對値は似たりとしても、（＋）（－）の符號を異にする、乃ちtension sideがcompression sideとなる甚だしき相異である、架構に於ては、節點のmemberが多いから、他に分れて此程多くは表はれぬだろう、けれども之れを無視する事は出來ぬ、次に考ふべきは構材の剛性の變化がmomentに影響を與へる例へば、梁に比し柱の剛性が大なるものには柱にmomentを餘計に受け梁の負擔は少さい、之に反すれば梁に大なるmomentが來て柱には些ない、簡單な一例を擧げ其剛比を變化して、momentの變化の模樣を擧げて見る、ロ圖の如き柱下端固

定の短形架構に於て、w#/per unit length を受くるものとして左右柱の剛性は同じくす、

$\frac{I_B}{l_B}=K_1$　$\frac{I_C}{h_C}=K$　とせば

K_1 0.1　$M_A=\frac{-wl^2}{12.6}$　$M_C=\frac{wl^2}{22}$

K 0.2　$M_A=\frac{-wl^2}{13.2}$　$M_C=\frac{wl^2}{20}$

K 0.5　$M_A=\frac{-wl^2}{15}$　$M_C=\frac{wl^2}{17.2}$

1.　$M_A=\frac{-wl^2}{18.2}$　$M_C=\frac{wl^2}{14.3}$

K_1 2.　$M_A=\frac{wl^2}{24}$　$M_C=\frac{wl}{12}$

3.　$M_A=\frac{wl^2}{30}$　$M_C=\frac{wl^2}{11}$

4.　$M_A=\frac{wl^2}{36.4}$　$M_C=\frac{wl^2}{10.2}$

5.　$M_A=\frac{wl^2}{42}$　$M_C=\frac{wl^2}{9.9}$

此場合 M_A は柱の受くる max moment であると同時に梁の max negative moment である、又は M^c 梁の中央に於ける positive moment である、剛比の變化による moment の變化は表より明かであるが、其差が甚だしい、此れは問題外であるが、普通の建築にては剛比1～2位が普通である、實際設計上何れの比を使用するやの點につきては、夫々架構の集合形式により、一概に云へず、又建物使用者の希望經濟上の問題等を考慮して決すべきものと思ふが、假りに建築物の工事關係より云へば平屋等の span の短きものは、剛比を大くspan の大なるものは剛比を少さく取る、高層の建物にありては、上階は同様の關係となるが、下層は水平力が增大するから剛比を少さく取るが經濟的である　之を實際の問題に當り考慮の餘地がある。次に構成兩端の slope と常數に關する分、之れは構材の固定の狀態を表はす、故に換言せば固定狀態如何による　其 moment の影響と考へ得、L 形フレームに付きて其結果を擧げて見たい、但し之れは建物の最上端に於ける側柱と梁の關係を表はしたるものとを考へらるるにより、其結果を擧げる、剛性は梁柱とも便宜上同樣とし、從つて剛比は 1, である、w# per unit length の等布荷重を受くるものとす、C點の moment は

第一圖(イ)　$M_C=\frac{wl^2}{14}$　第二圖　$M_C=\frac{wl^2}{16}$

同　(ロ)　$M_C=\frac{wl^2}{28}$　第四圖　$M_C=\frac{wl^2}{20}$

第一圖

第二圖

第三圖

第四圖

第五圖

同　(イ)　$M_C=\frac{wl^2}{16}$　第五圖　$M_C=\frac{wl^2}{24}$　同(ロ)　$M_C=\frac{wl^2}{24}$

圖中○印は pin joint　■印固定の意味なり

第三四五圖は、他のspanの構成と、他のloadの條件の映響を同時に考へたる場合の momentを擧げたるものとす、何れのmomentも柱のmax momentたると同時に梁のC點のnegativemomentとす

以上のmomentと剛比を1.と定めたれども、比を變ゆる時は勿論momentに增減を生ずる事は、前例（ロ）圖の短形架構のmoment が $\frac{K'}{K''}$ の比により、甚だしき變化あるに似て居る。

次に公式誘導の順序として、slope deflectionの公式を求める、

2. Slope deflectionの公式:—

slope deflectionの公式の誘導に關しては、既に建築雜誌に於て內藤を仲博士の詳細なる解說あり別に詳細に渡る要なしとするも只deflectionを生ぜざる場合につきて次ぎに之れを上ぐれば次の二原理より誘導する事が出來る、

第六圖の如きBending momentを受けたる梁の任意の二點間に於けるtangentの角度の變化は、此場合

$$+O_A-O_B=\int_B^A \frac{Mdx}{EI}$$ となる。

又(第七圖)の如くdなるdeflectionを有するものとして切線への垂直距離は

$$d=\int_B^A \frac{Mx}{EI}dx$$ にて表はれ得、之れを[第八圖]に依れば(moment diagram)圖示の如く假定す

$\frac{M}{EI}$

以上の原理を應用するに先ちmoment及びslope, deflection, の符號を定むるに外力により梁に生ずる momentが clockwise direction に働く場合、 elastic curve が同方向に廻轉する時、slopeも亦同方向の場合、何れも+とし此に反すれば—符號にて表はせば、第七圖にて、AB構材がmoment AB を受くる時、BA Bを原位置と考へ點を原位置と考ふれば slope O_A O_Bは共にnegativeにてmomentはposstiveなり、

(第八圖) diagramの、area a'ab及び、a'b'bの和を取れば、

$$-(d-O_A l)=\frac{l^2}{EI}\left(\frac{M_{AB}}{3}+\frac{M_{BA}}{6}\right)\cdots(イ)\cdots\cdots$$第二の原理

$$O_A-O_B=\frac{l}{2EI}\left(M_{AB}+M_{BA}\right)\cdots(ロ)\cdots$$第一の原理

(イ)式にd=0とせば、

$$O_A=\frac{l^2}{EI}\left(\frac{M_{AB}}{3}+\frac{M_{BA}}{6}\right)\cdots\cdots(ハ)$$

(イ)(ロ)二式よりM_{BA}を除けば、

$$M_{AB}=\frac{2EI}{l}(2O_A+O_B)\cdots\cdots(ニ)\quad \frac{I}{l}=K$$ を置けば、

$$M_{AB}=2EK(2O_A+O_B)\cdots\cdots(1)\cdots$$ 同樣に、

$$M_{BA}=2EK(2O_B+O_A)\cdots\cdots(2)\cdots\cdots$$

荷重を徑間に有する場合は公式に多少の變化を來し〔第九圖〕の如く $\frac{M}{EI}$ diagram に變化を來す

【彈性曲線】

$$O_A l = \frac{l}{EI}\left[\frac{M_{AB}l}{3} + \frac{M_{AB}l}{6} + \frac{Pab}{6l}(l+b)\right] \cdots\cdots(イ)\text{第二原理}$$

$$O_A - O_B = \frac{l}{2EI}(M_{AB} + M_A^B + \frac{Pab}{l}) \cdots\cdots(ロ)\text{第一原理}$$

T式より M を求め

$$M_{AB} = 2EK2^{\circ}_{A} + O_B) - \frac{Pab'}{l} \cdots (3)$$

$$M_{BA} = 2EK(2O_B + O_A) + \frac{Pa^2b}{l^2} \cdots (4)$$

以上の公式(1)(2)(3)(4)が、slope deflectionの公式なるも、(1)(2)公式、及び(3)(4)公式を、比較するに(3)(4)に於ては最後の項が増加して居る、之れは荷重の狀態による常數と、考へ得るのであるから、與へられたる狀件により直ちに求め得らるゝものであるから、種々荷重狀態により、次に、書物より抜粋して揚げる構材端ヒンヂの場合に load が simetory loadなる時常數が1.5倍となる、此理由は後章にゆずる。

1. uniform load W, l

2. P P P P, l/4 l/4 l/4 l/4, l, equal loads

3. P P P, l/3 l/3 l/3, l, equal loads

4. P P, a a, l, equal loads

5. l/2 l/2, l, single loads

6. equal uniform loads W, a a, l, W/2 W/2

7. uniform load at the center, a a, l

8. load increasing uniformly, l/2 l/2, l

9. concentrated load at any point, P, a, b, l

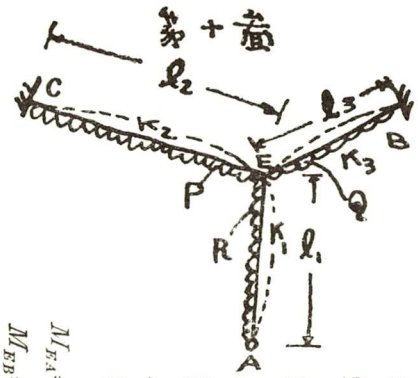
常數の表(load term)

荷重狀態	構材端兩剛節の場合	構材他端ヒンヂの場合
1	$\frac{wl}{12}$	$\frac{wl}{8}$
2	$\frac{5}{16}Pl$	$\frac{8}{15}Pl$
3	$\frac{2}{9}Pl$	$\frac{15}{32}Pl$
4	$\frac{Pa}{l}(l-a)$	$\frac{1}{3}Pl$
5	$\frac{1}{8}(Pl)$	$\frac{3}{8}\frac{Pa}{l}(l-a)$
6		$\frac{2}{3}\frac{3}{16}(Pl)$
7	$\frac{wa}{12l}(3l-2a)$	$\frac{wa}{8l}(3l-2a)$
8	$\frac{w}{12l}(l^2+2al-2a^2)$	$\frac{w}{8l}(l^2+2al-2a^2)$
9	$\frac{5}{48}wl$	$\frac{5}{32}wl$

荷重の狀態對稱ならざる場合

荷重の狀態	構成端剛節 (左端)	構成端剛節 (右端)	構成他端ヒンヂ (左端)	構成他端ヒンヂ (右端)
10	$\frac{1}{l^2}\sum Pab^2$	$\frac{1}{l^2}\sum Pba^2$	$\frac{1}{2l^2}\sum Pab\,(l\times b)$	$\frac{1}{2l^2}\sum Pab(l+a)$
11	$\frac{1}{2l^2}\int_b^d yx\,(l^2-x^2)\,dx$	$\frac{1}{2l^2}\int_c^a yx(l-x)\,(2l-x)\,dx$	$\frac{1}{l^2}\int_b^d yx^2(l-x)\,dx$	$\frac{1}{l^2}\int_c^a yx(l-x)^2dx$
12	$\frac{w}{12l^2}[a^2(4l-3a)-c^2(4l-3c)]$	$\frac{w}{8l^2}(d^2-b^2)(l^2-b^2-d^2)$	$\frac{w}{12l^2}[d^2(4l-3d)-b^2(4l-3b)]$	$\frac{w}{8l^2}(a^2-c^2)(2l^2-a^2-c^2)$
13	$\frac{Wa}{12l^2}(3a^2-8al+6l^2)$	$\frac{Wa}{8l^2}(2l-a)^2$	$\frac{Wa^2}{12l^2}(4l-3a)$	$\frac{Wa}{8l^2}(2l^2-a^2)$
14	$\frac{l^2}{60}(5u+3ml)$	$\frac{l^2}{120}(15u+8ml)$	$\frac{l^2}{60}(5u+2ml)$	$\frac{l^2}{120}\,15u+7ml)$
15	$\frac{2}{10}\,wl$	$\frac{wl}{15}$	$\frac{2}{15}\,wl$	$\frac{7}{60}\,wl$

3. 架構單位の Bending moment につきて公式此複雜なるフレームに於て剛節點一個を含める部分を、剛節點周圍の構材と共に考く、第十圖の如くloadを受くるものゝ假定す、EBACの各點は移動なきものゝ假定する時に、構材のmomentを求む、(第十圖)P.Q.R. は荷重の狀態による load 1.



term ゝし、$I_1, I_2 I_3$ $l_1 l_2 l_3$ゝ$AE.EC.BE.$ 夫々構材のmoment of inertia及び長ゝゐす、

從つて $K_1=\frac{I_1}{l_1}$、$K_2=\frac{I_2}{l_2}$、$K_3=\frac{I_3}{l_3}$

次の公式中 *A. B. C.* は相當せる構材の固定の狀態による一定の系數とする(*A. B. C.* 說明は後章 4 章を參照前記公式 (3) (4) より

$$M_{EA}=AEK_1O_E+R \quad M_{EC}=CEK_2O_E-P$$
$$M_{EB}=BEK_3O_E+Q$$

$$M_{EA}+M_{EC}+M_{EB}=0 \quad E_EO=\frac{P-R-Q}{(AK_1+CK_2+BK_3)} \cdots\cdots(5')$$

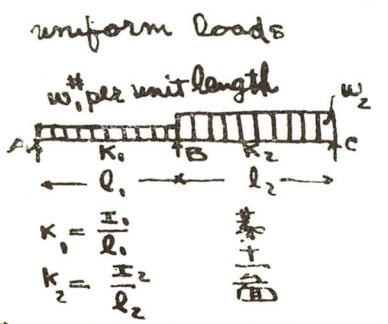
$$M_{EA}=\frac{AK_1(P-Q-R)+(AK_1+CK_2+BK_3)R}{AK_1+CK_2+BK_3}$$
$$=\frac{AK_1(P-Q)+R(CK_2+BK_3)}{AK_1+CK_2+BK_3}$$

同樣に

$$M_{EC}=\frac{CK_2(-R-Q)-P(AK_1+BK_3)}{AK_1+CK_2+BK_3} \cdots\cdots(6)$$

$$M_{EB}=\frac{BK_3(-R+P)+Q(AK_1+CK_2}{AK_1+CK_2+BK_3} \cdots\cdots(7)$$

以上(5)(6)(7) の公式は、何れも同一性質を表はし乃ち或構材のmomentは、二樣の分數の和より成り立ち、一つは其構材を除ける他の構材のload termの和又は差にて表はするものと一つは其構材自身の受くるload termの影響するものゝ、二分數の和にて表はさる、何れも各構材の剛性に固定狀件の定數を乘じたるものの和を分母とし、分子は他の構材の load termの影響を受くるものにありては、其構材の剛性に固定狀件を示す定數を乘じたるものを、分子に置く、其構材自身のload term の影響につきては、他の構材の剛性に夫々の固定條件を表はす定數との積の和を分子に置く、かくして得たる分數に夫々 load termを乘じたるに分數の和は其構材の moment を表はす事となる、以下數例を擧げて了解に參考とします



例を擧ぐる前に、公式の應用に際し、注意すべきは(5)(6)(7)公式中構材三個のみを擧げたれども、多くの構材を有する場合には($AK_1=BK_3+CK_2$)の代りに ΣAKを以て示し、之を分母とし、分子に於ては初項はΣload term－求めんと欲する構材のload term)之れに其構材のAK_1を乘ず、次項に於ては$R\times(\Sigma AK-AK_1)$を用ひ差支くなし、Rは其構材に相當する load termゝす、

例一、

two memberの場合

第十一圖の如き連續梁のB支點上の moment を求むる一般の公式は前(5)式中$BK_3=0$ゝせば、

$$M_B=\frac{AK_1P+CK_2R}{AK_1+CK_2} \cdots(イ)$$

P及びRは常數の表(load term)中1.より $P=\frac{w_1l_1^2}{8}$ $R=\frac{w_2l_2^2}{8}$ となるA及びCはbeam を支くら

れたるものとせば3である（此定數については後に明にす）從つて $M_B=\dfrac{3K_1\left(\frac{w_2l_2^2}{8}\right)+3K_2\left(\frac{w_2l_2^2}{8}\right)}{3K_1+3K_2}$ 而して K は何れも與へられたる constant なり、從つて M_B を得、之を實例を以て施してはむるに、

$I_1=I_2$　$A=B=3$.　$l_1=l_2=10$.'　$w_1=100$　$w_2=200$ とす

（イ）公式より

$$M_B=\frac{3\times\frac{1}{10}\times\left(\frac{100\times10\times10}{8}\right)+3\times\frac{1}{10}\times\left(\frac{200\times10\times10}{8}\right)}{3\times\frac{1}{10}+3\times\frac{1}{10}}$$

$=1880'$ 呎

之れを Clapeyron's theorem of thre moment の公式より

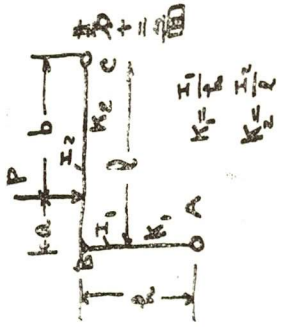
$$2M_B(l_1+l_2)=-\frac{w_1l^3}{4}-\frac{w_2l_2^3}{4}$$ 從つて

$$M_B=-\frac{100\times1000+200\times100}{160}=-8800'$$ 呎

同實を得、

例題 2.

次に、第十二圖の如き L 形のフレームに於て、two member の場合公式（イ）より、

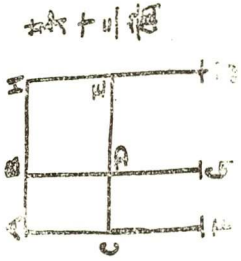


$M_B=\dfrac{AK_1}{AK_1+CK_2}\times P$　P は常數表（load term）の（左端）より $\dfrac{Pab}{2l_2}(l+b)$

$A=C=3$.

$$M_B=\frac{Pab(l+b)}{2l_2}\times\frac{3K_1}{3K_1+3K_2}\cdots(ロ)$$

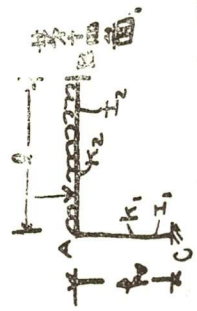
第十三圖の如き架構に於て、基單位と考へらるもの四つあり、高層なる



第十三圖

もの又は梁間の多きもの等、何れも四種類と考へ得べきものは、$CABL$ 形のフレーム、$ABHD$ の T 形のフレーム $ACFD$ の横形のフレーム、及び中央に於ける十字形フレームにして全部を代表するにより此等の單位にして、互に連絡して一體としてmoment を解けば宜し、而して此四單位の柱及び梁の moment の公式を、基本公式として表はすに、前(5)(6)(7)の一般公式を書き變へて見れば、

第十三圖 CAB フレームの公式、

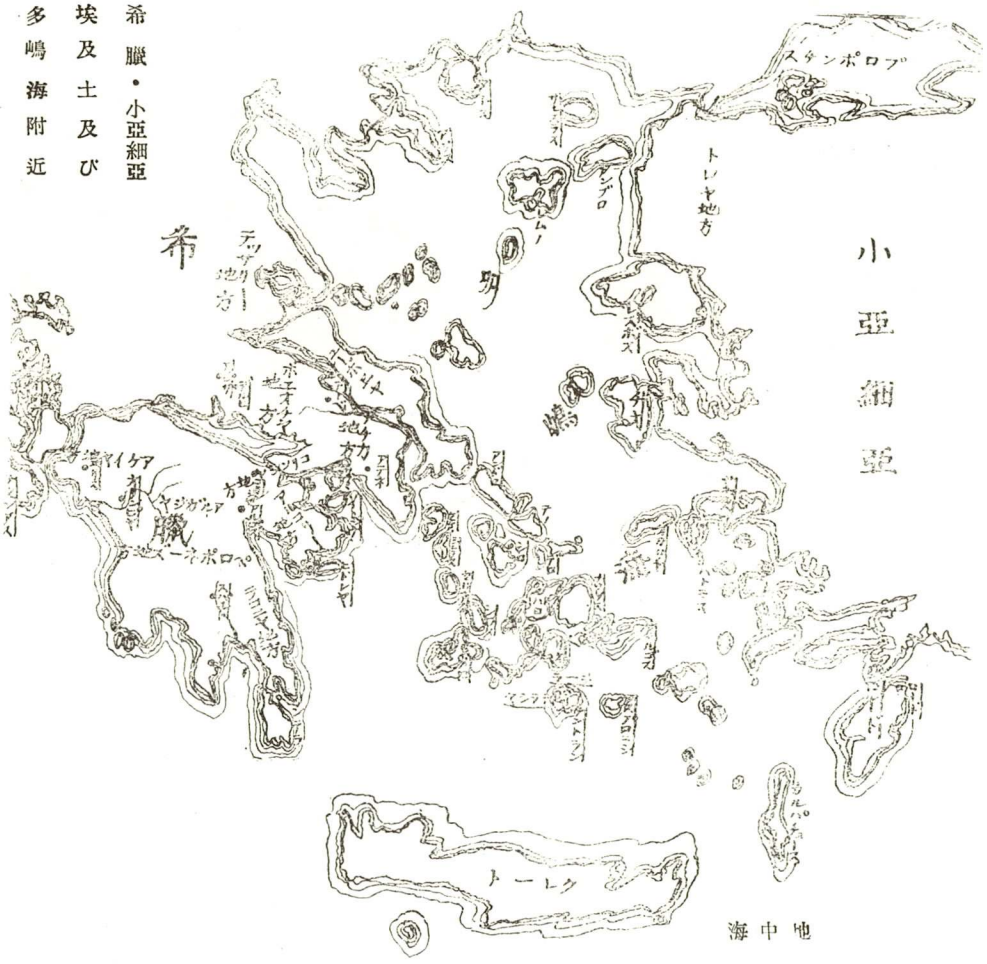


第十四圖に依れば、

AB 梁の A 點の moment は $\left(K_1=\frac{I_1}{h}\quad K_2=\frac{I_2}{l}\right)$

$$M_A=\frac{CK_1}{BK_2+CK_1}\times Q\cdots(8)$$ Q は load term

BC は固定の狀態を表はす定數とする B 點 C 點の moment は隣接するバンの構材と load term を考へなければならぬ、又 AB 梁の possitive moment も亦同樣であるから此處には述べぬ



希臘時代の彫刻論

—(2)—

古塚正治



既記

○緒論
○第一期時代（起源）
—第一類
—第二類

第一期時代（2）

第二類（二）

彫刻の意——の生れ出た由縁を物語るものである。敢て吾人は斷言する、その侵略に成功したる民族は、即ちアケエン族であつたのである。換言せば、それは希臘土着の民族と見られてゐる此當時のヘルレニツクの半島に居住してゐた彼等であつた譯である。彼等の手はヘストス乃至クノツス等の王宮を破壞し去つたが、その文化の影響は彼等に敎ふるところがあつて、遂に傳統せらるゝことゝなつたのであつた。即ちアルゴリドに於けるチリンスとミケネの地とは、其影響の先鞭をうけて彼等の藝術が生れ出ずる動機となつた。

チリンスとミケネの地とは上述せる如くアケエン民族の居住地であり、彼等の王樣であつたイドメネと共にクレート建國に力を致したものであつたと云ふ事がホーマーのイリアッドの歌曲のうちに書き遺されてゐる。加之遺蹟の上からの考證によつて斯うした事實が一層確實に證據だてらるゝものが多い。殊にクレートアーズ固有の藝術が壞滅せられた以降のクレート島上に顯はれた藝術—彫刻—は少く共その以前に於けるクレトアーズ固有の手法と見るべき樣式、手法はさらに認め得ないで、其以降のものは、夫れと同時代のミケエンヌの藝術と同一系統になつてゐると云ふ事實である。此事實から考へて見ると、ミケネの民族はクレート侵略には成功したがその地の文化乃至藝術には同化或は異常な影響を蒙つてミノエンヌ藝術をその儘傳承したものであり、それから彼等民族固有の藝術として一段の進渉を見る可き前提を造つたものであつた。

希臘大陸に於ける藝術—彫刻—の進化は紀元前約十二世紀以降のものが略々明瞭に考證し得らるゝ如うである。彼の有名なるミケネの獅子門（ライオンゲート）に於て見らるゝ如く、その資料としては餘りに稀有なものではあるが、其道程を辿るには確實なる遺蹟である。その他壁畵に表現せられたるところによつても、當時の藝術が何の程度にあつたかを窺ふに難くない。

紀元前十二世紀乃至十世紀の頃に於ける希臘アケエヌのテツサリーの遺蹟から考證すると、未だ文化的發達の及ばなかつた地方に於けるヘルレニツク民族の部落民の間にあつた藝術は尙低級なる道程にあつたことが知られてゐる。即ち此の部落から發堀せられたる遺蹟の文物から押して、それが異常に幼稚であるのを見ると、恐らくはクレトアーズ文化の影響

を蒙ら無かつた一般の地域では、まば半原始的文化から些して隔りのあつたものでは無かつたらしい如うである。或說によると、此時期は一般希臘の地域—ミケネ乃至チリンスにも文化の停滯が、宛もクレート壞滅期に於けるが如き何等かの失墜原因が存在して、一時休止の狀態であつたと見るのが至當であるとも言はれる。或は亦、それが所謂吾人等の憧憬する眞の希臘藝術を形成した、イオニアンドリヤン、エオリヤン族等の民族がミケネ地方に侵略したものがあつて、それが制略に成功して、そこにチルヘミエン海上のプロポンチドに希臘文化の基礎を築いたものであつたとするのが、より正しいものであるかも知れない。

遊牧時代又は吾人の所謂未だ文化の高級なる域に進まなかつた半原始時代に於ける彼等のなしたる藝術品は僅かに幾何學的の單純なる形而以上に美的價値の表徵せられてゐるものがない。そして斯うした表現の方法が彼等民族の藝術品を見分け得る眞價であり特徵である。それは直線で行つて、堅苦しい、淡調な表現の點に一種の樣式を型造つてゐるのであるその內にも動物の活動の感じと云つた上に新規な表現方法の施されてゐるのがある。彼等は斯うした固有の傳統的藝術の上に異常な新知識の輸入があつて、そしてそれ等の相混じた新しい他の方面—即ち希臘時代の彫刻と云ふ時期—に漸次傾向を辿りつゝあるのを認めることが出來る。

彫刻上に就ては實際紀元前七世紀以降でなければ確論し得ないけれ共、素燒類の上に遺されたるところによつて考證して見ると此間の起源と發達の道程とを能く了知し得るものがある。斯うした時代迄に表現上に取扱はれてゐるもの丶種類は其當時の民族の迷信であつた犂の一種が宗教的に取扱はれてゐる。オメールの詩歌の上に言ひ表はされてゐる言葉の內に、その神が潤飾せられた一つのシンボリック、サインである如うに、當時のクレトアーズ乃至はミケネの民族間に行はれた神も、後期の所謂希臘時代に行はれたる人間像化せる神の表象ではなく、一種のシンボリックサインをとつた神の表象であつた。そして斯うした神と云ふ信仰中心物の上に彼等の基いた信念が如何にも力強く、美しく、そして如何にも速直に信仰せられてゐたかが窺はれる。オーマーの詩が吾人の愛好の心を唆り、嘆賞の聲を放たしめ、常に其當時の境にあるの想あらしむるの由緣は實に茲に存する譯であろう。

其後地上に生存する吾人等の人間像を型ごつて神體化し、これを尊崇する如うになつたのは其後の幾世紀か以降であつたのだ、神の形像—神體—と、それを納む可き神殿の建築とが其教義の上に要する如うになつて以來・始めて人間像をした神樣が顯はれた如うである。そして考證の結果斯うした神樣が出來たのが紀元前七世紀以降に始つたと云ふ事に學說が一致してゐる。その初めは恐らく木彫の不恰好な神樣が、病魔神と美女神 Xona a. Xeeni. と呼ばれた二柱の神の表徵となつて形而化せられたと云ふことであるそれが木彫であつた爲めに今は其形を止めてゐないから實際を見ることは出來ないが、何んでも着衣の姿をとつたものだと云ふ推定が下されてゐる。そして、それが木彫であつたゞろうと云ふ面影は紀元前六世紀時代即ち最初の石像彫刻として遺されてゐるもの丶上に、その儘形を傳統して表象せられてゐる蹟が明かである。

神殿の建築が所謂希臘樣式を採り、破風が薄肉彫刻で裝飾せらる丶樣になつて神體がその內へ祭り込まる丶時期が來て

そこで彫刻物が紀念物としての生命を史上に劃し、裝飾意匠の見地からも一新規軸を劃立するの時期が繰り合せて來た譯であつた。

第二期時代（紀元前約七世紀以降同　約七世紀半頃迄）

始めて石彫の上に神像が表徴せられたものは、未だ、巧妙なる諧調を得たる藝術品で無かつた事は勿論である。且つそれが所謂希臘時代の彫刻の上に表現せられた神の形式をとるに到つたのはずつと後の事に屬してゐる。最初は英雄偉傑の士が象徴の尊崇をうけて、宛も神の現實であるかの如うな信仰を以て、半神像化せられたものが、人體を以て神像を代表せしむる因を開いたのであつた。英雄偉傑の士の生命と、その生存から來る效果とが當時の半開民族の間に異常なる迷信的信仰を勝ち得たのがその最初であつただろうと想ふ。そして、死が何日の世にも一種の神秘的感傷を心を底に築き上げ生の樂しみの反面には暗黑の死と云ふ神秘に疑念が挿しはさまれて、死後に來る吾人の運命と云ふ點に非常な懸念が生じた。そして若しも其事が彼等の生涯になし得るところによつて未來の死の上に何等かの安神が得らるゝものとせば、誰しも、その安神を希ひ願はないものはない斯うした信念から彼等のなした死後の紀念的建設物は造營せらるゝことなり、軈てそれが薄肉彫刻となり、立像を形造る動機ともなつた。その觀念が形而化の最も手易い形式として木彫を形造り、永久不變の紀念物と云ふ考へに轉じて遂に石彫が彼等の間に重せらるゝ運びとなつた譯である。且つ斯うした結果を助成したものは當時の時想があづかつて非常な力を添へてゐよう。

例へばサモス派を代表した彫金師ロヱスコス乃至其子テオドロスの如きは小亞細亞地方の王侯の寵遇を一身に集めてその技を練ると同時にあらゆる藝術的技能の修練を助成せしめられたと云ふことである。それが爲めに鑄金術に粘土型が便用せられる發見がなされてゐる。チオの島にもサミアンの弟子であつたグラウコスの如き彫刻家が生れた。彼れは鑄金術の他に蠟着法を發見したと云はれてゐる。また、彼れと共に所謂チオ樣の彫刻家として著名なる者にメラス。其子ミクキアデ、其孫アルチールモス等があり、續いてブーパロス、アテニス及びアルククルモス等の傑出せる多くの彫刻家が輩出してゐる。そして彼等は希臘の制略と共に斯等の藝術を移出したるものとして其の蹟が明瞭してゐるものがある。

ナクソスの島にはビチヱースゝオイヱルゴズの息等の彫刻家が現はれてゐる、と云つた工合に丁度此當時は多島海上の島嶼から同時に傑出したる彫刻家が顯はれて、彼等の積んだ比較的科學的に進歩したる彫刻手法が間もなく希臘大陸に移入せらる可き機運が熟し切つてゐた。時正にオリンピヤッドの四五十年の頃とせられてゐる。

サミヱン、テオドロスの影響はスパルトに及んでゐる。一面ペロポネーズにはクレトアーズの二大彫刻家デイポアノスとイルリスが來邦した。そして彼等の持つた妙技は此土地の彫刻藝術界に異常なる動搖を卷き起し格段なる進境を示すことゝなつた。丁度此期を界としてペロポネーズの彫刻界には一際優れた樣式が生れ出てゐた。

ペロポネーズの地がクレトアーズの影響をうけてグレックドリアン民族の上に興へた進化の異常なると同時に、スパルトにも大きな進轉が並び起つた、斯等の彫刻界が相混じ相入れてスパルトにはマグネシアン樣が型造られた譯である。

殊に、斯等の環境は紀元前七百七十六

年に、サラマンの海戰にペルシャの艦隊を擊滅したる祝賀祭たる彼の有名なるオリンピックの國技が設立せられて、時の希臘はあらゆる點に於て藝術界の隆盛なる可き總ての條件が充されたる時期に遭遇した譯であつた。間もなくアチック樣を形成し、アデンの市を飾るに議會と議員とが設けられ、オリンピエヌの殿堂やパルテノン乃至プロピレーの神殿が造營せらる可き機運は斯く如くして接近しつゝあつた譯である。

紀元前七世紀以降に於て、英傑の死を半神化して記念しようとするに、石彫が尤も相應しいものとして非常なる勢を以て隆んとする傾向を示し、之れをより完全化せんが爲めには、人體美の奥隩を觀照することに氣付いた彼等は、不斷の努力と深甚なる注意とを注いで、其感得したる美の究極を將に隆んとする石彫の上に忠實に何處までも眞實にこれを表徵しようとする事となり、美の標準的體格を角戲場の競技者間に求め、アレヌの鬪爭の劍士に求めて、藝術家の眼は斷へず人體美の描破と云ふ事に注がれ始めたのであつた。そして、遂に彼等の標準物は藝術家の前に、その本然の藝術價を晒らけ出して、その醇眞醇美の理想的藝術味が、彼等の手を通じて尊嚴に、あくまで力强く表現せしむることゝなつたのであつた

希臘民族が彫刻の上に、その衆眼を集注せしむる樣になつたのはその後約一世紀を經だてた紀元前六世紀の前半世紀頃からとせられてゐる。實際此時期を劃して希臘の彫刻史上には格段なる技術の進轉を齎らしたのが見られる。これを言ひ換へれば彫刻上に樣式とも云ふ可き規劃が顯著になつて來たと云ふ譯である。蓋し此時期から藝術家達は互に相琢磨してその技能の拙劣なる點に周到なる注意が拂はるゝ如うになり、各自其特異の個性を發揮し、努力が獨得の藝術味發揚に傾注せられて、進化の道程は急速度に、驀て來らんとする希臘時代の彫刻の絢爛の域に、愈々近かんとしつゝあるのを認める。

そして此波程に棹した同舟異族が即ちイオニヤ族乃至小亞細亞系に屬した希臘民族と、その近隣に散在した島嶼就中前記したるサモス及びクレート島に居住したるミノエン族、乃至はドリヤン族等が主なる民族であつた。彼等は先づ埃及土乃至は小亞細亞地方に既になされた藝術品の想趣によつて暗示を得、刀を起しこれ等を模放するうちに、その上に表象せらるゝ妙諦を觀照し、不絕に努力續行の結果が彼等の藝術をして新境域に導かしめたものであつた。

イオニヤ民族と、ドリヤン民族との間には、其民族固有の特異性に從つて各別に發達して來たものであつたと想はしめる幾多の遺蹟がある。その後アチックの上に於て相混樣するに到つた迄での內に彼等の民族がなしたる彫刻に就て考究すれば直ちにうなづかれ得る。そして大體に於て彼等民族のなしたる藝術區域が前者は小亞細亞地方乃至はエーゼ海上の島嶼の上に傳播して一系統をなし、後者はその本土たるペロポチーズの地乃至其殖民地域及び遠くシシリ島に分布せられたが何れも等しく希臘藝術發達史上に大なる關係を齎らしてゐるそして藝術に國境のないと云ふ例へば昔も變るところなく裏書せられて、彼等異民族の有した特異の民族性とは關係なく相交錯の狀態をとつて、其後間もなく全く相混樣して、アチックの地に彼等は相協同せる藝術品を形造つて、遂には圓熟し切つた空前絕後の彫刻界が創造せらるゝことゝなる。

現今存する遺蹟から見たる石造彫刻の最初のものにして擧げ得るものは可也に進境に入つてからのものである。それは

紀元前七世紀の末葉乃至は六世紀の極く初期のものとせられてゐるセリノンテンの神殿の廢趾から西暦千八百二十三年に發掘せられたるデロのアルテミスの彫まれたるメトープの薄肉彫刻である。それには二つある。その一つは二匹のケルコープを擔つてゐるヘラクレーを表はしたるものであり他はアテナ人が一匹のゴルゴンを差し倒してペルシア人を救つてゐるものである（第二圖參照）

圖に見る如うに其手法は間の抜けた重苦しい感じを與へてゐる。その筋骨の大袈裟な表情のうちにも潑溂たる活氣に乏しい眼が殊更誇大に取扱はれた工合も尚幼稚なる域を脫せないのが知られよう。しかし乍らゴルゴン（妖婦）の面貌の醜惡なる表現のうちにも未だ目つて試みられなかつた最初の手法として當時の彫刻家達を少なからず驚かしめたことであつただろうと同時に聲を高めて譽め讃へたに違ひない。此彫刻の人物が身丈けの矮少な工合と、手法の上から見て、アッシリアン樣式の薄肉彫刻に範をとつたのだと云ふ推定が下されてゐる。そして此彫刻が、もと彩色が施されてあつたのであるが永い年月の經過の爲めに殆んど面影が見られない迄でになつて終つてゐる。



イオツルベルより得たるテンプル、テンノンテ
スメトープ
稱　代在貿サ　上　紀元前六世紀の半頃
名　年所材大　仕　パレルモ博物館所藏
石灰石
高サ一、四七米突
巾一、一一米突
上仕彩色

またスパルト博物館に蒐集せられてゐる薄肉彫刻の奇蹟なものに就て研究せられた内に、此市街から遠からざる地から發見せられたと云ふ正方形の紀念物の一面を飾られてゐる薄肉彫刻に、一つはオルスト神が彼れの姉妹なるエレタユエ神に再見してゐるところを表はし、他はクリテミユエストル神が彼れの息子の爲めに殺害せられてゐる處を表はしたのとがある。此等の上に表現せられたる人物の均衡が何れも矮少であり、短大であり且つその何れもに表現せられてゐる神の姿勢が殆んど相違するところの無い迄でに同一形におかれてゐると云ふ點である。此等は彫造の際に施工する鑿の使ひ方が異つた動作の表現の變化に必要なる鋭敏性に欠けたとすき可であるのである。

尚、此博物館に藏せられてゐるものにキリサファで發見せられたと云ふアスクレピスとヒジーの二神が注意深い容姿で椅子に腰かけてゐるのがある。お下げの

頭髪がシンメトリックに耳朶に掩ひかぶさつてゐる。彼等は衆庶の民から奉献した供物の雛を抱いてゐる。そして此表現に用ひた手法と様式とが如何にも淡調な趣きであり、見た感じが鈍重であり、一様に左きゝで容姿が堅苦しい面持であると云つた工合に、總てが此時代のドリヤン民族の居住した地域から發見せられる彼等民族のなし得たる彫刻の特有性であつたと云ひ得られる。

そこには未だ眞の甘味と云つた域に達するには尚、可なりの年代にあることも想像出來よう。

當時の小亞細亞の多島海に面したターレーの一部分であつたミレの町にテイチユサの長であり、ブランチド系の神であるシャール神の彫像がある。彼れはダボロン、ディテイーメーン神の使者として他に着屬のおかれない塲合にも、きつと彼れシャール神丈けはアポロ神の唯一人の眷屬として、その一族としても常にアポロの神殿の前に建てられたものであつた。第四圖は英京ロンドン市ブリチッシユミユーゼアムに蒐集せられてゐるそれである。一見直ちにエジプト彫刻を想起せしむる程に似通つてゐるのが知られよう。おそらくそれはエジプトの文化にあこがれて其手法を模寫したるものに相違ない、その表現の方法が何處までも太古の手法であり、そのこゝに來つた以前は木彫であつたこともうなづかれよう。また鑿の入れた工合から見れば如何にも單調美の欠けてゐる工合は蓋し素燒藝術の趣きからも未だ完全に脫し切つてゐない如うにも想はれる。

像は全身に着衣してゐるが未だ圓熟期に見られる如うな肉體美の深刻な表徴とまでは考へが進んでゐない、つまり一個の石塊の内に角を丸めて勢ひのない寧ろ優柔な線を刻んだ儘で滿足せられてゐる。そして此彫刻がイオニヤン民族の手になつた彫刻として彼等の當時の手法を代表し、一新起源を劃してゐるのが興味ある點である、その着衣の襞の鈍い、力弱い線が纏て數百年の後に彼等イオニアン民族をして輕快な神技の妙に達せしめた起源であつたのである。

市内中之島田蓑橋の橋畔に大阪商船が新築をしてゐる敷地二千八百五十坪建坪千二百五十坪地下室付の八階鐵筋コンクリート造りで延坪にすると建坪は一萬坪に上る帝大の内藤博士が擔任し室内には耐火防火區域が特設してある、素より建築物全體が耐震耐火保險附となつてゐるが其中に叙上の特設施設があるのだから飛行機の爆彈襲撃を受けても大丈夫といふのだ其上に深さ四百廿尺の大井戸を鑿ち一日二萬九千石の水を汲み上げ得る施設がしてあるので全市の水道が斷水しても堂島土佐堀兩川の水が枯渇しても飲料水や用水に困らぬといふこの方の設計は渡邊節氏で換氣暖冷房の裝置は北浦博士が擔當してゐる蒸氣暖房の方は何等の奇無しとして偖その井水を以て空氣を洗淨し夏になると空氣を冷却し室内の溫度と濕度を年中調節する地下室は機械室と倉庫に一階は商船支店と殘りは日用品の販賣店等に貸與し二、三の兩階を商船で使ひ四階は宇治電、五六階を全部貸事務所七階を日本電力に八階の三分の一は貸事務所に殘る三分の二を食堂理髪室休憩室に當てるさうで收容人員を最低限五千人とし大小便器の如き五千人以上を基準として施設してゐる而して起工は昨年の四月十二日で竣工は來る七月三十一日でかく工程を切り縮めたところにも經濟的の打算が徹底してゐるのだと是又自慢の種となつてゐるが兎に角凡ての點に於て施設の理想的に完備してゐるといふことである。



木材利用の研究（1）

藤園

（A）性質

工業的性質——化學的性狀——理學的及器械的性狀——工作的性狀

性質と樹體の構造との關係は、作用と原因、結果と前提の如し。木材の性質夫れ自身及各性質相互の關係は、尚不明に屬するもの甚だ多し。樹木の生活條件充實せらるれば茲に樹體を構成す。樹體は一定の特徴及一定の性質を有するものにして、各種の利用となるものなり。

木材利用の基礎的條件は、木材の性質、經濟的關係、習慣の三なり。而して習慣は木材の性質に密接の關係を有する場合と、然らざる場合とあるも、木材の性質は常に經濟的關係に影響を及ぼすものなり。

木材利用の種類によりては、木材の性質並に習慣に重きを置き、經濟的關係を顧慮せざるもの、建築的用材、裝飾的用材特殊の器具器械用材等の如し。或は經濟的關係を主とし木材の性質及習慣を輕視するもの、普通建築材其他一般の木工用材是れなり。要するに其地方に於ける木材の種類、木材生産の狀態、建築及造船の程度、木工業の種類及程度、使用者好尚の程度、及び木材に對する智識の厚薄等によりて、如上の關係は錯綜紛糾して茲に實地の利用となるものなり。

利用物の製作製造とは之れを基礎とす。又木材の諸性質は利用上に於ては、之を個々に分離し、殊に其の或性質のみを利用する場合極めて少く、多くは數量の性質を共用するを常とす。故に之を分離して各種の利用に對比するは、頗る妥當ならず。而も綜合して之れを論ずるときは、反て明瞭を缺き、益々說明の困難を來すを以て分解的に記述するは眞に已むを得ざるに出づ。

（一）工業的性質

色材——光澤——木理——紋理——雅致

◆色　**材**（白色材と有色材）

木材利用上天然色を直用すること多く、或は酸化劑又は其

他の塗料と染料を用ひて、其色合を一層美ならしめ、又淡色のものにありては、之を脫色漂白して純白ならしむることあり。建築物及家具等にありては、其形狀と共に木材表面の色は、其價値を高め、或は用途によりては、其材色を嫌忌することあり。木材天然の色を利用する場合を大別すれば次の二となる。

白色材……我國の古俗は死亡の穢を殊に忌みたるより祖先の遺風は尙ほ今日に傳はり、今に至るまで何事も淸淨を好み、色彩に於ても自ら質素を尙ぶの風あり。色の淸潔なるは白に如くはなし。故に神事神祭に多く白色を用ひ、又皇居にも他國の如く五彩を施さずして、可成木地の淸淨なるを用ひ、其風一般の士民にも及ぼし、我國の家屋は內外とも彩色を加へず、木地のまゝにて淸淨なるを尙ぶの習となれり。

斯くの如く一切の事物總てが、瀟洒淸潔の趣味に富むの國となり、夫の五彩燦爛たる華美を好む外國とは、著しく其好尙を異にするに至れり。但し京都を中心とし中國及北陸地方等の民家にありては、柿澁、辨柄等を以て塗抹するの風あり恐らくは宮居に對して殊に白木造を避くるが爲めならん。今利用せらるもの擧ぐれば、

白色材

(イ)森嚴の感を起さしむるもの——神社、宮殿の檜造の如し

(ロ)神聖又は淸淨の感を起さしむるもの——神籬臺、辛櫃、香爐臺等の檜製の如し。

(ハ)淸潔の感を起さしむるもの——柳箸、菓子箱等にミヅヽサ、サハクルミ、ドロノキ等を用ふるが如し。

(ニ)商標又ハ商號商品名を明瞭ならしむるもの——貨物包裝箱に樅を用ふるが如し。

(ホ)色素を含むこと極めて少なくして、他材を染むることなきもの——生絲、製絲工場に於て使用する枠類に朴等を用ふるが如し。

(ヘ)瀟洒又は淡白なる感をなさしむるもの——床柱に檜、杉の磨丸太を用ふるが如し。

(ト)彩色染色又は塗りを能くせしむるもの——挽物、玩具に靑柳等を用ふるが如し。

有色材

(イ)彫刻の題材に從ひ、材色を利用せるもの——其色及光澤の典雅なるにより櫻、タマグス等を用ふるが如し。

(ロ)模樣又は繪畫を現はす爲めに材色を利用せるもの——寄木及象嵌細工に種々の有色材を利用す。

(ハ)含有せる色素及單寧を利用せるもの——紫檀は酒精に溶解する赤色劑とし、チシヤノキを煎じて物を染むるが如し。

(ニ)經木薄片として材色を利用せるもの——各有色材を取合せてリボン、簪等に用ふる花を製す。

(ホ)習慣又は嗜好上材色を利用せるもの——紫檀、黑檀、神代杉等を天井、床廻りに用ふるが如し。

(ヘ)周圍の風景により又は建物の性質により、材木の着色を異にするもの——奈良の春日神社、日光廟に極彩色を施したるが如し。

(ト)心材と邊材との色差甚だしきを利用せるもの——アララギ、ピヤクシン等にて肉又又は食匙を作るが如し。

(チ)材の健否を判斷するに材色を見るもの——生材の色と乾材との區別及び邊材と心材の色の區別による。

◆光　澤

針葉樹殊に白色を帶ぶるものは、一般に絹糸光澤を有し、濶葉樹中にありても針葉樹の如き光澤を有するものあり。一般に硬材は光澤強きも、軟材は弱きを常とす。又木表は光澤強く、木裏は弱し。木口は光澤を現はすこと最も少く、板目、柾目は光澤強し。是れ纖線が平面に表はるを以てなり我國に於ては單に鉋削り又は、琢磨によりて木材自然の光澤を發揮せしむる場合甚だ多しと雖も、歐米諸國にありては塗料によりて光澤を生ぜしむるを以て、塗料を平等に配布せしめんが爲めには、導管の大なるを最も可とす。而も天然に光澤の大なるものは塗料を施したる後も亦光澤大なり。利用するものを擧ぐれば

(イ)彫刻面の光澤を利用せるもの——刀を用ふるのみにして其他の研磨材料を用ひずして光澤を發する故に、櫻、クルミ、ツゲ等を用ふるが如し。

(ロ)鉋削面の光澤を利用せるもの——檜の如きを木心善木と稱して使用するが如し。

(ハ)磨きて光澤を增大するもの——(一)籾殻にて水磨きするものに若竹、女竹。(二)砂磨するものに淡竹。(三)繩具陶器等にて磨くものに赤松皮附丸太等あり。

(ニ)鮫皮、木賊、砥石にて磨くもの——ツゲ、唐木類は皆木賊等にて磨きて使用す。

(ホ)磨拭して光澤を發するもの——ツガ柾、赤松盆などは拭込みて使用す。

(ヘ)火力、日光、藥品等によりて光澤を發するもの——竹類に多し。

(ト)日光、雨露に曝されて光澤を發するもの——桐は樹液強きを以て、製板の後永く日光に晒す時は、鉋削りの後銀白色となる。

(チ)塗料を施して光澤を發せしむるもの——ラツク、ニス等を材面に塗れば、如何なる木材も多少光澤を發す。

◆木　理

針葉樹にありては、其板目及柾目に現はるゝ假管の縱斷面は、溝狀となりて肉眼に見ゆるもの極めて稀なりと雖も、濶葉樹にありては、導管の縱斷面は所謂針裂溝となりて現はるもの多し。是れ假管は微細なるも、導管は大なるもの多ければなり。木理の美なるものは濶葉樹殊に環孔材に多く、散孔材及輻孔材には甚だ少し。單子葉植物にありては板目及柾目共殆ど同一の模樣を現はす。

濶葉樹……環孔の大小及列數、環外道孔の數及大小によりて木理に美醜あり。孔環の導孔中庸にして、環外の導孔小なるものは、木理明瞭にして材締りて見ゆ。孔環内の導孔余りに小なるものは、導孔の小なる散孔材と殆ど擇ぶ所なく木理判明ならず。孔環廣くして環外の導孔大なるときは、材面粗糙にして、材締りて見えず。環孔材にありては年輪狹く孔環の巾比較的大なるときは、秋材部少きを以て木理美ならず。寒地に生ずる木材又は過去のものは、年輪甚だ狹く所謂糠目となる。

利用するものを擧ぐれば

(イ)建築材として利用するもの——桑は和風住宅の裝飾材殊に床廻り、チヤキは堂宮建築用材の主要部にして住宅にありては大黒柱、床廻りの裝飾材とするが如し。

(ロ)彫刻材として利用するもの――ケヤキは堂宮建築の彫刻に用ひ、ナラは洋風建築の彫刻に用ふるが如し。

(ハ)指物材として利用するもの――桑、桐、槻を和風指物には賞用し、洋風にてはナラを用ふ。

(ニ)下駄材に利用するもの――桐を賞用す。

(ホ)經木材として利用するもの――イモノキなどの柾目取りは横に髄線表はれ、一種の斑紋を示する以て賞す。

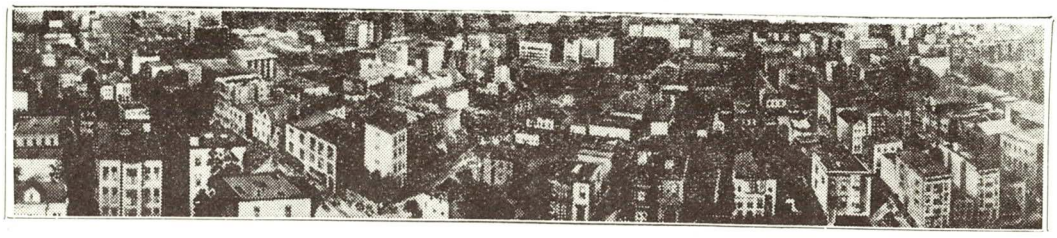
(ヘ)經木紙用材として利用するもの――木材を薄片となし其裏面に、色紙を張り以て木理より透視せしむる爲めに桐ケヤキ等を賞用す。

散孔材……木理一般に美ならず、唯其質の硬軟と色澤の良否に因りて美醜あるのみ。使用の範圍は極めて少なく、楠、クルミの如きが模擬材として用ふるのみ。

輻射導管材……木理美ならず。主として其堅靱性を利用す其柾目取りは髄線太く現はれて美なるを以てカシ、シデは洋風家具に用ふ。

針葉樹……一般に導管存在せず、唯細微にして多數の假管あるのみ。且つ髄線は極めて細微なるを以て、木理甚だ簡單なり。然れども濶葉樹散孔材の或ものゝ如く年輪判明せざるものなし。通常の場合に於ては木理の賞用せらるゝものなし。模擬材として檜にはヒバ、サハラ、モミを用ひ、ビヤクシンにはアララギを用ふるが如し。（つゞく）

近ごろ日本室に椅子、テーブルを備へつけることが、流行しはじめ一方においては建築批評家や家具商などは日本室に敷物やカーテンなどを用ゐてそのまま洋風化すべしと主張するものもある。が、衛生上から批判するとこれは決して合理的な方法ではない。それでは日本室が洋風化され難い原因はどこにあるかといふにそれは衞生學上日本室獨特の缺點として認められる數多の原因に基づくもので、今そのおもなるものを擧げて見ると(一)日本室では疊間の光度は床の面即ち疊の上が一番強く、それより高さを増すにつれて次第に弱くなるから、もしテーブルをこの室内に置くとそのテーブル面上の明るさは日本式の机を用ゐた場合よりもはるかに薄暗いわけである(二)戸障山をしめ切つた場合の日本室の換氣は大部分疊をとほして侵入してくる床下の空氣であるから、冬期日本室で椅子に腰かけてゐると足のさきから膝關節まで、ことに婦人は腰部までがひどくひえてくる(三)日本風の天井の室ではあたゝめられた空氣はどし〳〵天井の板と板との合せ目をとほしてにげてゆくそして疊の面から五尺位のところにかけてある寒暖計よりも膝から下の溫度の方がはるかに低い。かういふ室ではかへつてすわつてゐた方が放然面積を縮小するのであたゝかいといふことになる(四)疊の上におかれた椅子に腰かけてゐると運筆呼吸脈搏などのために起こる微細な身體の運動は疊の彈力に反射して身體は絶えずもつと擴大されて振動をしけるので觀念の統一をさまたげられる(五)テーブルもまたこれと同一の事情から絶えず微動するので上半身及び視線が動搖し精神的疲勞を伴ふものである(六)日本室は暖房が不完全であるから。腰がけてゐると皮膚は常につめたい感じにおそはれるので内面的にも落ちつきが得られないばかりでなく、これが爲に感冒、レウマチス、神經痛などの誘因をつくるものである。凡そ、右のやうな缺點と危險とかあるから日本室をそのまゝ洋風の住居として使ふためには、どうしても一定の方針のもとに造作や建具を改造しなければならないのであるが、それには、これらの缺陷に對する反對の方法をとればよいのである（後藤醫學士）



都市計畫展覽會追記（上）

——大阪三越に於ける——

大屋靈城

都市計畫とは？

客年　大阪支店で催された都市計畫展覽會の出品評を本紙上で試みましたがまだ足りない處があつたので、此處で追記することとしました

都市計畫の概念を最も通俗的に言ひ表はさうと努力した出品である。この『都市計畫とは』と云ふ文句に釣り込まれて下を讀んで見ると『都市を合理的に改善する施設であり』『都市を理想的に發展させる施設である』と記してある。そして、その次に二段に分けて次の如き條項を別て各々の下にはそれを表はした繪がかいてある。

都市計畫とは

(一)氣持ちよく住めるよう
(二)安心して暮せるよう
(三)御互に健やかになるよう
(四)何をするにも便利なやう
(五)好い品が安く買へるやう
(六)商賣が繁昌するやう
(七)工場が盛んに成るよう
(八)ダン〳〵町が榮えるよう
(九)市民の文化が進むよう

(一)惡い道を直し新しい道を作る
(二)公園を造り運動場を設ける
(三)水道を設け下水を布設する
(四)區劃整理をして町並を善くする
(五)河を整理し運河を作り港を設ける
(六)雜踏する場所に廣場を設ける
(七)電車や汽車を適當に配置する
(八)一團地の住宅經營をする
(九)市場を設け屠場を作る
(一〇)墓地や火葬場を整理し塵埃燒却場を設ける
(一一)地域制を布いて工場商店住宅を建てる所を定める
(一二)風紀地區を定めて一般の風紀を維持する
(一三)防火地區を定めて燃へない家を建てさせる
(一四)美觀地區を定めて町を美しくする
(一五)建築物法を布いて建物を取締る

これは都市計畫の主要なる目的とこれを達する爲に行ふ實際の事業を平易に書き列べてあるからこれを讀めば都市計畫の大體の觀念が頭に浮んで來る。從つてこんなものが會場の正面に陳列された事は頗る有効なものと謂はねばならぬ。この出品が如何に觀覽者を敎育するに力あつたかは推測せられる。然し一つ遺憾に思ふのは『施設』と云ふ字を用ひて居ることである。即ち『都市計畫は……の施設である』と定義したのは少々面白くないと思ふ。都市計畫は計畫であつて施設ではない。本邦の都市計畫法の第一條を見ても「本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衞生、保安、經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ增進スル爲ノ重要施設計畫ニシテ云々」とある如く全く計畫である。都市計畫の中には事業を伴ふものもこれを伴はぬものもあるがよしこれに事業が伴ふにしても事業の全部が必ずしも都市計畫中に包含するとは限らぬ、その中には純粹の土木事業もあり建築工事もあり園

藝工事もあることがある。即ち都市全般の施設と都市計畫とは自ら分野がある譯である。

今日の都市計畫家の中にも總ての都市の施設をやるのは悉く都市計畫であると云ふ意見を持つて居る人もあるようだがそれは都市計畫を餘りに宏く見過ぎたもので所謂大風呂敷の感がある。若し都市計畫とは『都市を合理的に改善し理想的に發展せしむる』施設であるとすれば都市百般の施設は悉く都市計畫中に包含され都市計畫の外には都市の施設はないと云ふ事になるが、これは勿論當を得た解釋ではない、都市計畫は都市の重要施設の計畫で都市を構成する骨組を作るもので肉をつけたり衣物を着たりする詳細の事には餘り立ち入らない。この點は歐米に於ても時々論議を生ずると見えて『The Law of City planning & Zoing』の著者F. B. William 氏は特にこの事に就て次の如く論じて居る。

都市計畫（City planning）は都市の作成（City construction）とは自ら異なるものでその構造のみを取扱かふのではなく都市を一つの有機體と見てこれが全體の計畫を取扱ふものである。

この兩者は御互に密接な關係があつて時には都市の構成と云ふ事は都市の計畫の一部分とも看做す場合もあるが本當は分離して考ふべきものである。

都市計畫の目的は都市の構造上に於ける統一を得んとするにあるから都市團體の全體に亘つての計畫のみならず詳細の事も時にはその全部の一部分と云ふ見地から計畫することがある。

例へば公園の配置と云ふ如きはこれに到達する都市の道路系統と大なる關係がある爲に都市計畫として考慮され、又その公園を運動公園にするか又は植物園にするかと云ふ如きその性質を定めると云ふ如き詳細の事でも矢張これが全體の公園系統に關係がある爲に都市計畫で考慮されるのである。然しこの公園内に如何に植樹をするかとか如何なる排水路をとり如何樣に池や流や苑路を設置するか等と云ふ如き事になればこれは都市計畫の範圍を越えたもので全く風致園藝的の事業になるのである。

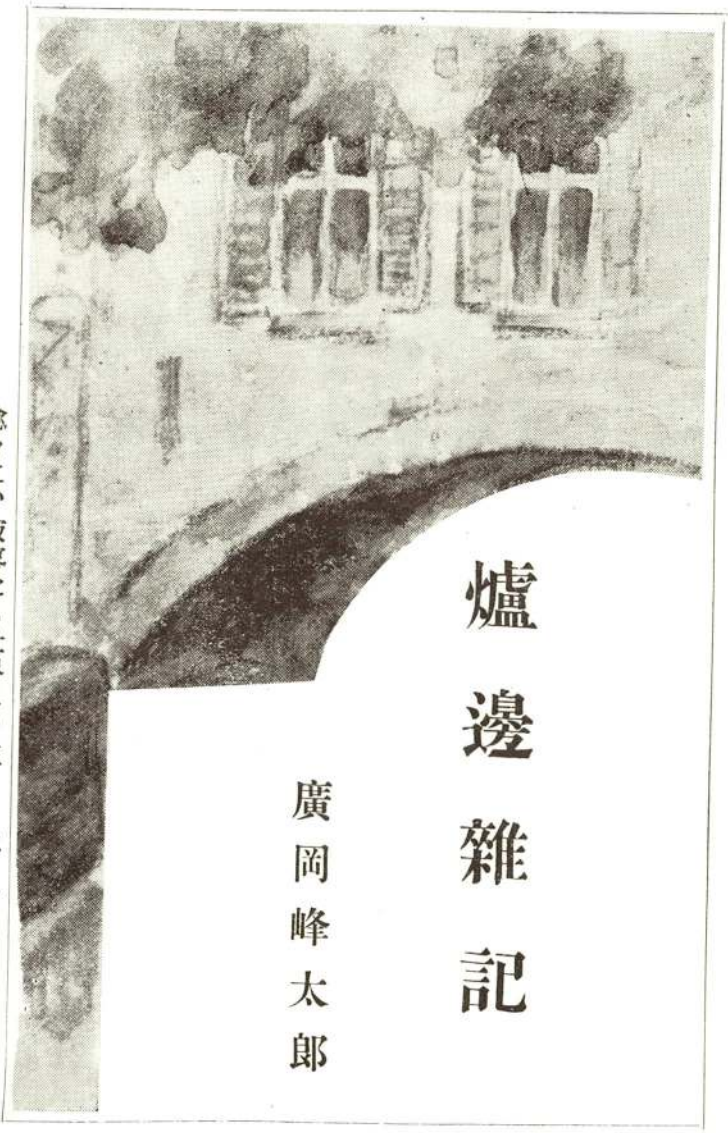
又例を排水計畫にとるもそうである。幹線土管の排置や抽水口の位置、勾配、これと街路との關係等は都市計畫として考ふべき事であるがその工事の内容に立ち入ればこれはもう衞生土木のやるべき仕事として都市計畫から分離するのである。云々と

斯の如く都市計畫は都市の骨子となるべき基礎を定めて行くものであるから都市の施設とのみ言つたんでは物足りないこの施設の起る根本的の計畫でなくてはならぬ。

要するにこれは『施設』と云ふ字では面白くない、矢張『計畫』とか『準備』とか云ふ字を用ふべきであると思ふ。

尙合理的改善、理想的發展と二つに分けて説明したのは舊都市内部の不備を改良して行く對症的の方面と新都市としての外部を準備して將來都市に不備の點のないようにする豫防的の方面の二つがあることを明かに示されて喜ばしい。本邦諸都市の都市計畫が多くこの内の對症的方面にのみ偏して豫防的方面を顧みるの遑なき有樣であるのは都市計畫の眞の意味を解して居ないからではあるまいか。よし解して居るも尙これから脫し得ぬとすれば誠に憐むべきものである。

* * *



爐邊雜記

廣岡峰太郎

A 風雅

夕まけて　黄葉ちりくる
溪ぞひの　道にかそけき
きちかうの花

きのふと見し、きちかうの花は、今日の慌だしい雹の降る音にかき消されて、たゞさへ佗しい、思索に耽る我の、愈々に、寂寥たる世界に、住家を探求せざるべからざるを思ふ事切である。

自然現象の、諸相を通じて季節の現ればかり心惹くはない。季節の推移に依る、自然現象の、變化の諸相を觀ずれば、季節といはんよりも、寧ろ我等の直面する時々、刻々の裡に於ても、變化しつゝある事は何人も否むはなからう。

更らに我等が生活の、精神上、物質上に取扱はるゝ諸問題と、自然現象との關係は如何なるものであらうか。

『それ天地は風雅なり、萬象もまた風雅なり。此風雅は佛祖の肝膽なり。造化に隨て四時を友とす、見る所花にあらざるといふ事なく、おもふ所月にあらずといふ事なし。心月にあらざれば禽獸に等しく、かたち、花にあらざれば夷狄に類す。夷狄を出、禽獸をはなれて造化に歸れよ。

古池や蛙飛込水の音

『芭蕉全集より』

術なるかな。造化に歸るは自然に還るをいふなり。我等の、建築家として、心月にあらざれば、かたち、花にあらざれば、建築の本質の上に於て何事をばなし得んや。夫れ單純にして素樸、大膽にして纖巧なる古代建築の精神は、天地萬象の風雅の、こゝろに通ずるものあるを認め得る理由を持たないであらう。

我れのいぶせき宿りの椽より指呼さるゝ西方の山々の峰には、はや雪を被着、北の山々には、もう蜜柑が輝やかしく色づいたといふ。今頃ろになると、背戸の刈小田の畦には、友なし鴉が、しよんぼりと小雨に尾羽を濡らしながらも歩み、夜に入れば柴の戸を

から風の一しきり煽り過ぎるのもなつかしい一つの情景である。

零碎、砂を噛むに似たる思ひの湧く簇生せる、建築の中にあつて、本質的なる、幾分滑稽味を、帯びたる暢達たる建築の若干にても、介在していゝ筈である。例へ物質萬能の文明の、病膏肓に至るとも天地萬象の風雅を忘れ、建築の本質の精神を、忘却して、最後の一線に駐まる者の無き事は誰れが信じ得よう。

須く、推理を以て推理すること勿れ。時に推理に恃むに情緒を以てすべし。偏重なる勿れ。過重なる勿れ。何人にでも、己の頭腦と心臓とを信じ得る權利を持つてゐる。

天地萬象の前に、謙譲たれ己の頭腦と心臓とを信じる上にあつて謙譲たれ。

自ら風雅の道は、明かとなり、建築の本質の、幽遠相まで通じ得るであらう。

本質的なる、幾分滑稽味を帯びたる、暢達たる建築の存在も、只徒らなる規矩墨縄の末梢神經にのみ、惱まされたる建築よりも如何程、有意義かわからない。

徒らなる技巧を弄した建築と、童心に近い、滑稽味を帯びた、無技巧に似た技巧を施した建築との何れが尊重すべきかは自明の理である。

況んや、風雅の道に於て、將又、幽遠相に何れの建築の本質が、相背馳せるかを想到すれば、是又自明の理と言ふを得べし。

寂寥としたる、眞夜半の、曠野の果に、三日の月はほのかなる、光りを鏧らせてゐる。

（大正十三年十一日二十九日稿）

B 陶磁器

温雅にして清純、冷やかにして、艶やかなるものを陶磁器に、我は見る。

纖細にして、重厚。華麗にして、風韻を帯ぶるは、工藝品中、陶器は最たるべし。

我れ、固より爾く一壺の愛に繋り得る風格を有せずと雖も、過々某日、M呉服店にて、セーブル、ペルシャの陶器の、展覽會を、瞥見するに及びて、湧然たる陶器の、雰圍氣の裡に游ぶを、おぼゆ。

冷艶素香なる、青磁、白陶の氣品は、凄艶にして、清鮮なること、天竺牡丹の如きあり、或は、可憐にして、清澄なること、わすれなぐさの、花の如くにも、至純、至高にして、謙譲なる美感は、玄妙なる、光澤の中に、抱擁さるゝを感じるものあり。

如上感は、たゞに、セーブル、ペルシャの陶器のみに、限らずして、各國各時代の、陶磁器を、通して、窮知する事を得可し。

一壺の持つ感覺は、能く數百年の後に於ても、心的なる衝動を、觀照者に、感得せしむべし。

將又、陶磁器の有せる、滑澤なる光澤は、能く千年の、玄妙感を、繋ぐに足るであらう。

新綠、夏日、秋夜、雪旦を通じて、陶磁器の、感覺は、星晨の如くも、冷艶素香、蒼窮の上に、あつて『敬虔なる歡語』に打慄ふが、如きである我の、匆忙の裡にあつて、能く古陶器の類を、通覽せずと雖共、匆忙の裡にあつてすら、尚ほ且つ、愛着を感じ得る、陶磁器に、接し得るは、誠に欣快なるかな。

更に、一筐、一釉の使用方法にすら、心魂を碎く、陶家陶匠の刻苦精進を、聞見するに及びて、藝道の何たるを、問はずして、『歡喜の忍從』を訓へらるゝ事の多し。

Fragilia et perennia!

『か弱くして永久なるもの』は至言なるかな。

天災地變ならずとも、陶磁器の、人爲的にも、損傷壞滅を、蒙る事甚だ多し。

『か弱くして永久なるもの』

はたゞに、陶磁器のみに限られずして、凡ての、美術、工藝品に於ても、この厄難あり。

然り而して、秋の哀れ、春の歡樂に、轉じて、我等が人生浮沈の、寂しき相を、觀ずるは、我の、強ちに、センチメンタリストたるが故ゐのみでは無からう。

おほよその、世の人々よ！我は斯く呼びかけるであらうセンチメンタリストであることは、徒らなる世俗の非難を、享くべきではない。

キーツが、希臘の古瓶を唄ひ、セザンス、ゴッホが印象を畫き、アッシジの聖者、フランシスカが雀に戲るゝ心境にすら、異常なる、情緒に、對けられたる信仰を、認むるのである。

『か弱くして永久なるもの』の物の哀れさは、物的に齷齪たる人々の、能く味到し得ぬ境地ではないか。

匆忙の裡にあつて、少閑を割き、古陶磁器に、對する興趣は、心頭爲に、清々しき思ひが、湧然たるであらう。

秋海棠の書に

白埴の瓶こそよけれ霧ながら朝はつめたき水くみにけり　節

（大正十三年七月三十日稿）

家屋をコンクリート壁にして耐震耐火または單に耐火の目的の爲に近來鐵筋コンクリート、鐵筋ブロック、鐵網コンクリートを應用した住宅の建築を賞揚する聲が高いがかゝる方式の家屋は住宅としては衛生上色々の不利益を伴ふものである、第一コンクリート壁は普通の壁材料に比して物質の熱容量が大きいから室内の加温に際して多量の熱量を要する又コンクリート壁を構成する各物質は皆熱傳導率が大きいから室内の保温狀態を一定に維持する爲には矢張り絶えず多大の熱量を供給せねばならない外が雨雪のために深く内で部は濡れて行くのは當然である一旦濡れるとかはくまでは熱傳導率が一層高くなり且蒸發熱の爲に益々室内熱量を奪ふのみならずこの際氣性を減ずるその結果室内の人はこの壁に對して絶えず輻射の理によつて多量の體温を放射せねばならない、且通氣性減退の結果室内空氣は汚濁し易いよつて腎炎の誘因、頭痛の原因となる、濡れるとを防ぐ爲に外面に化粧煉瓦を、また保温の爲に内面に壁紙を張つたとする、さうすると衛生上貴重な自然換氣性が失はれてしまふから人工換氣法を施さねばならない、この人工換氣法は住宅においては實施困難なである、また防火本位の爲に窓枠、窓ガラスの桟を鐵製にする人もある、これは室内保温上損失がある、外壁の濡れるのを防ぐためにコンクリート屋根をすつと軒先まで延長して廂を作る人もあるがこれは實際格別の効果をもたらさない、それにコンクリートの屋根は普通の屋根の有する自然換氣の特徴を入れに沒却するのが殘念である、ゆゑに屋内に生じた水蒸氣は往々蓄積する住宅の理論は衛生學上からもどし〳〵改良されてゆく、然るにコンクリートかト住宅は改造困難であるから將來住宅文化の潮流からとり殘されるに至ることもあらう要するにコンクリート住宅を衛生的に使用せんするにあたつては暖房、換氣、濕度の調節等のために相當の衛生費を覺悟せねばならない素人が『セメント壁の家は濕つぽく且冷えてこまる』といふのは眞理に合致してゐる、濕つぽいばかりでなく季節によつては蒸し暑いこともあり得るわけである、日本内地におけるコンクリート住宅の設計及び運用に關してはなほ今後の衛生學的の研究の結果にまたねばならない。（後藤醫學士）

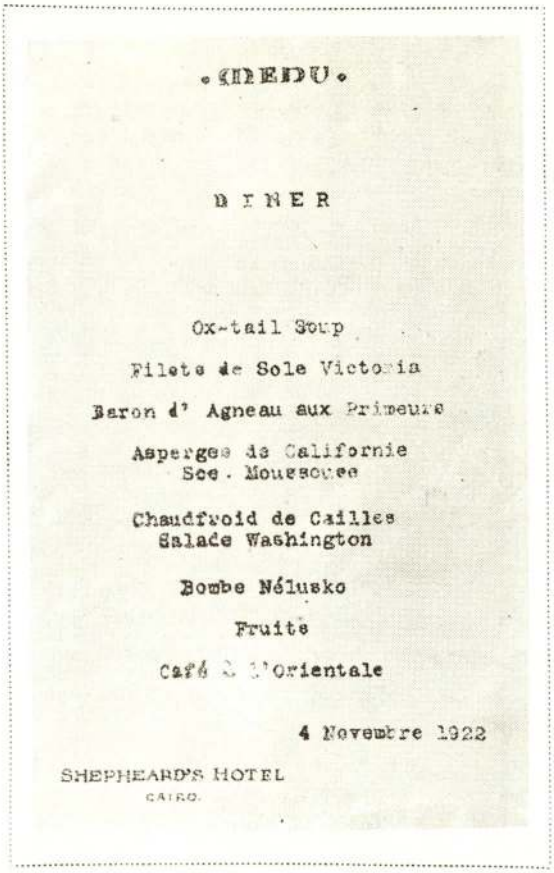
回教寺院と博物館

―續々埃及紀行（上）―

八戸成蟲樓稿







«MENU»

DINER

Ox-tail Soup

Filets de Sole Victoria

Baron d' Agneau aux Primeurs

Asperges de Californie
Sce. Mousseuse

Chaudfroid de Cailles
Salade Washington

Bombe Nélusko

Fruits

Café à l'Orientale

4 Novembre 1922

SHEPHEARD'S HOTEL
CAIRO.





右揭の挿圖は開路市電車切符。向つて右より上段一、二は市内下段一は、ギザ行、孰も一等切符、市内のは六ミリーム均一、ギザは四十ミリーム、即ち四ピアスタア。二は開路市乘合自動車切符、他に一種あり（本文のに揭ぐ）中央は大正十一年十一月五日開路市の牧羊館夕食献立表

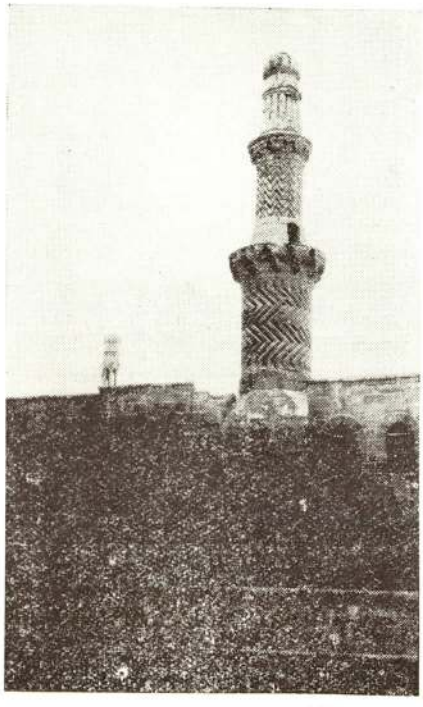
去年天沼君は、是非年内に片附る積りだと言つてゐたが、餘り法螺や不平を書きたてたゝめ、さう〳〵書き上げる事が出來なかつたのだ。夫れを私の責任でゝもある樣に、あと殘りは僅かだから是非やつてくれと賴んでいつた昨年六月以降十二月迄、初めの方を書いた緣故があるので、斷る事も出來ず引受けたが、初めからだともう大分長く續いてゐるし、さういつ迄も貴重な紙面を拜借してゐてはすまぬから、あと三回位で了とするつもりである。

十一月四日　土曜好晴



今朝三度目でEn Nasr寺へ行つてみたが、今日も番人が居ぬとて入る事が出來なかつた。寺は本名En Nàsser Ibn Qalaún といふ。外部は頗る簡單な平壁で何の裝飾もなくたゞ上の方に小窓が行列せると、二基の光塔の一の上部に手の込んだ彫刻がある丈けだが"……but the interior is beautiful"とあり、本の插繪でみると、中庭の上部宵隅の所の持送が例の鐘乳式で、階下の大宵隆と上部小窓との間の橫帶に暴夜文字か何かが浮彫になつてゐるのは、いづれ回々敎經典の中から引ずり出した有難い文句か何かであらう。上部の圓屋根は大永元年に落ちて了つたさうで、今は靑天井だから見物には至極都合がいゝのであるが、如何にせん入口があかぬので何とも致し方がなかつた。

光塔の頂き即ち大擬寶珠、卽ち密柑屋根は、綺麗な波斯式Faience 燒の瓦で化粧がしてあるから、靑空に直立し其一部に日光を反射して光つてゐる所は實に美しい、今でさへあれだから、若し當初のまゝであつたら尙一層であつたらう。寺は永い間武器庫及び貯藏庫として使用されたゝめ、內部は隨分荒れはてゝゐるのだらう、だからことによつたら本で讀んで內部の美に憧れてゐた方がいゝかも知れぬ。我國に於いて



エン、ナスール寺の高塔（其一）



エン、ナスール寺の光塔（其二）

も法隆寺の東室や西室の如き、僅に聖靈院と三經院との部分を除き、あと全部物置になつてゐるやうなものと思へば大差あるまい、あれ等も見ぬ方がいゝ位である。聖靈院の方はいゝが、三經院ですら夏安居の時を除いては殆んど締切で、遠慮のないところ塵埃堆く大分に慘憺たる光景を呈してゐる。要するに日本でも外國でも、貧乏な世帶を張つてゐる國の古寺は本の挿繪でみておくに限る樣である。そして其上に "It is in a dilapidated condition" とあるからには、愈以てみぬ方がよささうである。

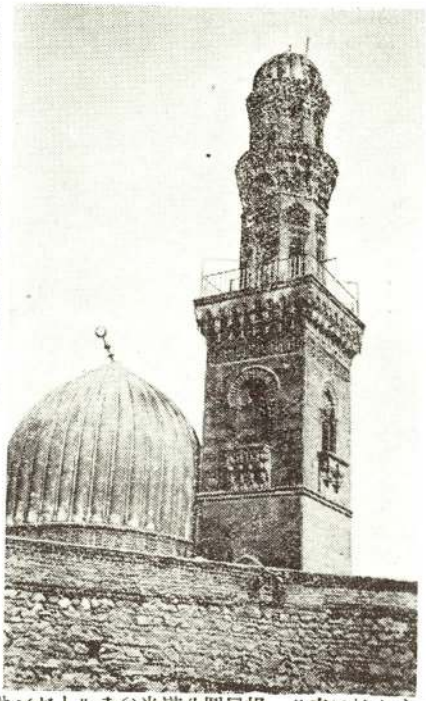
近畿地方のいろは加留多に『佛の顔も三度』といふのがあるさうだ。三度來て三度フイになると、こつちは勿論凡夫なのだから、何ぼ何でもいやになる。こんな壞れかゝつた古寺一つ位見えなくつても飯を食ふには困らぬ、もう頼んで來ても見てやるものかといふ樣な氣も出て來る、私はそこで案内人のサラーに此の寺は思ひ切つても一度ハサン寺へ行つて先日の復習をするといつて、其方へ歩き出したら、彼は序だからジョセフ井戸を見て行き給へ、隨分深い井戸で今でも水があるといつた。如何にして昔しこの高い城塞へ給水したかとは豫て考へてゐたが、成程この井戸からであつたのだ、案内記に其事はちやんと書いてあつたが、つい見ずにゐたのである。

井戸は寺の東南角にある、入口で番人に引渡され其尻について狹い通路をいくらか進んだ樣に記憶してゐる、さうすると所謂ジョセフ井戸に出た。井桁は四角で周圍に階段がついてゐてトりられる樣になつてゐる、深サ二九〇尺。地面より一五五尺下に平場があつて、そこにサキエ Sakiyeh（埃及に於いて牛を使つて水を高所に汲上る簡單な機械仕掛をいふ）が仕掛てあつて水を汲上つたのださうな、だが今は水道が出來てゐるから最早かゝる舊式な方法は不必要になつた事は言ふ迄もないのである。昔し聖書の中に出て來るジョセフが此井戸へ投り込まれたといふ傳説から今でもジョセフ井と稱するのださうである。番人は石を投り込んで其如何に深いかを見物人に知らしめ、幾分かの心附に有附くといふ筋書通り實行してみせる。



開路市の水汲み男、山羊の皮で作つた袋の中へ水を入れて擔て歩く、其くせ水道が完備してゐるのに、或は共同栓で水を汲み家に運ぶときにも用ゐるのである。其形何となしに我が正倉院にある「淺切樽」を思はせるものである、途中で此男を呼び止めて寫眞をとり、十錢やつたら少ないといつて駄々を捏れた、度し難い男である、水汲男のことを土語でSakkaと云ふ。

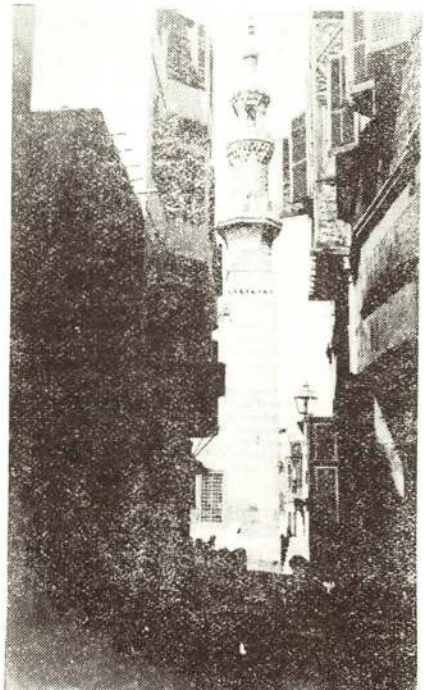
扨てソルタン、ハサン寺へ行つたところ、此前の時番人の老爺に鼻藥をやつて寫眞を撮つたのを坊主がみてゐたとかで少し問題を起したらしく、今日は撮影は罷りならぬとあつて寫眞機は入口で老爺に取り上げられて了つた。實のところ先日撮つた寫眞が面白くないので、やり直しのつもりで大枚四十錢を奮發して入つたのだが、これぢや仕方がない、けれども出來る丈け頭の中へ詰め込んで扨て出る段になり、入口へ差かゝると老爺は寫眞機を出して私に手渡しながら笑顔をし



一つのもうで。此寺にはもう一つの圓屋根、即ちこの左にある圓屋根は寺が建立の年元元嘉元年に寫眞に寫つたもの。サンカイルの光塔をあらぬ。

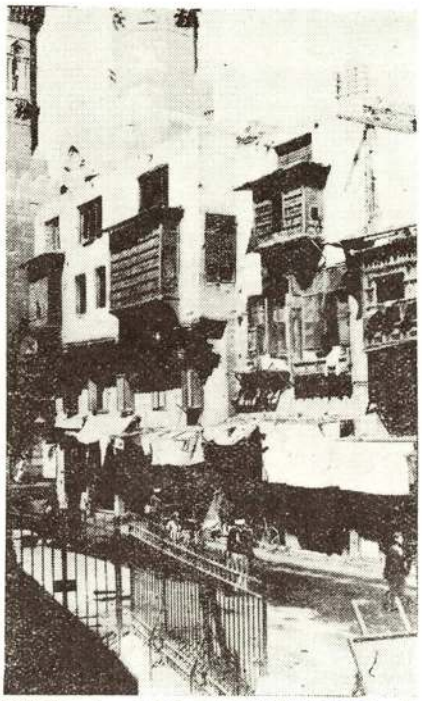
て右手を出した。勿論最後の見物ではあるし、默つてゐたつて幾分の心附はやるつもりだつたのだが、此時の老爺の態度はまるで子供をだます樣にして左手で私の肩を輕く敲いた。夫れが如何にも人を馬鹿にした樣に見えた。敢てナスール寺の見物が出來なかつた不平を洩した次第ではないが、それがおそろしく癪に觸り、先づ一喝を喰はしたところ、爺さんは全く意外だつたと見え愕然としたのが明らかに見えた、この意外の成功に勢を得てサラーに向ひ、お前が一所にゐてこのざまは何事だ、番人はなぜかう無禮なのか、こんな男にはもう一文もやらぬからよくさう言つてやれ、といつてやつた。例の引込思案の、成るべく口をきかぬ主義方針で今日まできたのに、此の時計りはそれは〳〵頗るうまく啖呵が切れ、我乍らいつこんなに上手になつたらうと感心をした。どうも時々此の位の勢を見せておかぬと彼等はつけ上つていかん。

次にカイト　ベイ寺へ向つた　此の時この爺さんは私共のすぐ後からトボ〳〵と歩いて來たが、途中からある陋巷へ曲つて行つた。其後ろ姿が如何にも憐れだつたのが今でも眼についてゐる。あんなに叱りつけずに少しやればよかつたと思つたが、夫れは此時のことで、あの爺さんが肩をたゝいた時は人を馬鹿にするにも祥がある、けしからん奴だと思つたのであつた。あの爺さんの後ろ姿をみ、尚あとからサラーの說明により、爺さんは決して惡氣でしたのでない事は判つた全く風俗人情習慣等の相違から來た間違であつたらしかつたが、世の中にはこんな誤解は澤山にあらう。



カイト、ベイ寺の光塔、民家の三階から市路四階へでも上つて寫さぬ限り、こんな狹い町開からでは全體は寫すことが出來ぬ。

去る十月二十二日初めて此の寺へ來た時と同じ樣に、サラーはイブン、ツルーン寺へより男を一人連れ出した、そしてカイト、ベイ寺へ行つたが相不變番人は居らぬ。十分餘りまつたところ漸くにして二人はどこからか番人を連れて來た。番人なら一人でよさそうなものだのに三人も來た。多分大勢で來て成るべく餘計金がほしいのだらう、けれども此の場合はさう考へないで、番人一人では開扉は出來ぬ。信徒總代二人以上立會の上つてな事になつてゐるのだらうとしておかう



民見ぬ、景から光内出は事造寺繕を親ふ内て決ムゴれもしアイ、エル、窓出市が、外から路のえる家の近で附ドツアかいはるを

私は案内人を介して、先日は全く無駄足をして了つたのに今日もこの有様はどうしたものか、何故に番人は常に居らぬのか、と訊いてみたら、虚か實か其答に『去年以來今迄に誰一人見物人は來なかつたから、誰も見に來る人はないと決めて留守にしてゐたのだとあつた』果してさうなら二度も來たのを餘程變に思つたらう、ことによると日本人で近來此寺へ來たものは一人も無いのかも知れぬ。

此の寺の創立は文明七年で近年 Herz-Pasha 此れを修理しだのである。平面十字形をなし、隨所よく第二マメリユーク王朝（弘和二年より永正十四年迄）時代の樣式を現はしてゐるので有名である、加ふるに其光塔は開路市に於ける最も優雅なるもの丶一で、其他說敎壇の木彫、床の嵌入細工、壁面の裝飾等何れも注目に値するのであるが、ただ圓屋根丈けは近世の補修である。

午後は博物館へ行つた、何度觀ても觀切れぬ、金の心配さへなくば牧羊館へ一ヶ月位滯在して毎日觀度い位である。一體英語の Museum を『博物館』とは誰が譯したのか、此頃では字引に『陳列館』ともあるからいゝが、私共が英語の稽古をした時分には博物館と敎はつた。博物館丈けでは不都合である。奈良の Museum には佛像許り並べてあるので、あれは『博佛館』だと誰かが言つたが、若し陳列館と譯しておけばこんな惡口は出ぬ筈である。開路市の等も『發掘品陳列館』と譯すのが最も適當であらう。兎に角この Museum は淡しいものゝ隨一である。

生活に少しく餘裕のある人は誰れでも彫刻や繪畫を蒐める一つ得ると二つほしくなる、眞物許りもつてゐる人は少なく眞僞半々位のが多い樣で、念入なのになると殆んど僞物許りといつてもいゝのがある樣である。建築丈けは大分にかさ高いので一寸蒐めかねる、これは、うんと金がなければ出來ぬ上の下や中の上位の手合は石燈籠か石層塔位で滿足せねばならぬ、手を廻して古建築を買收し、自宅の庭園に建てゝおく等は上の上がする仕事である。敢て我國許りではない、古今東西にわたり廣くさうであるのである。

私は斯の點に就ては、どうの昔しから大悟徹底（？）して、或は寧ろさせられてゐるので、手頃の佛像にせよ繪畫にせよ別段ほしいとも思はぬが、凡そ世の中の古物蒐集家の中で、曲玉をもつてゐる人の氣程知れぬのはない。今時角髪（みづら）に結ひ筒袖に靴を履き頸ッ玉へぶら下げて歩いたら狂人だといふだらうし、去りとて懷中時計の飾物には間が抜けてゐて、そして一つが百金千金ならまだしも、時としては萬金に値する樣なのをたゞ收藏してゐるのは、本人にとつては快感を覺ゑるかも知らぬが、局外者から考へてみると愚の骨頂である。夫れに比べると佛像や繪畫は床の間の置物にしたり掛けて樂んだりする事が出來るから、少し餘裕のある人が道樂半分にや

るのは敢て大して不都合でもない。

私は大悟徹底させられた結果、世界中の陳列館の列品は皆自分のものだが、自分の家が狹いため置き所がないからと、一つは廣く研究者の便宜を圖り、世界各國へ夫れ〳〵預けておき、其報酬を貰ふ代りに其全部を以て保護して貰つてゐるのだと思つてゐる。此意味に於いて法隆寺でも招提寺でも埃及の Monument でも British Museum でも皆自分のものだと思つてゐる。誇大妄想狂に罹つたのではない、頭は確かである。洵にうまい考へだと思つてゐるが、同感の士はないか知らん。

歸りに寫眞屋へよつて上埃及旅行中の寫眞の現像の出來たのをみたら、殆んど全部上出來だつたが、たゞ北僧庵堂で大きく寫した女神 Hathor の顏が堂の廻廊の柱とダブつてゐた先日サツカラに於けるメレルカ墓内同人の立像をダブらしたのと此れとが、當國に於ける失敗の双絶であつた。

今夜は泊り客が多く、十月十四日に私が此宿へ泊つた以來——上埃及旅行中は知らぬ——の千客萬來で、大きな食堂は殆んど一ぱいの人で埋つてゐた。夕食は八時からとあるから唯さへ晩い、其理由は何れも遊覽客が午後自働車でそこいらを駈け巡り、五時頃に歸つて來て『おやつ』を食べて茶をのむだから八時位が丁度頃合ひである。けれどもこつちは日が暮れる迄そとにゐて、歩いて歸るか又は電車の内に壽司詰めになつて歸つて來るのだから、八時迄の辛棒は大分にゑらい、去りとて茶をのむと夕食に差支へるし、どうも工合が惡い、だから夕食合圖の銅鑼の鳴るのを待かねてイの一番に出かけて行くが、多くの客の中には私が退去する時分即ち九時頃から漸く出て來るのがある。男の服裝は判で押した樣に定まつてゐるが、女のは思ひ〳〵に黃・紅・綠或は純白の絹布を纏ひ羅綾の袂を翻し度くとも袖無しの筒ッポだからこれ計りは出來ぬが、原始時代の服裝か何かでこれみよがしに宿六を隨へて出て來る、宿六のないのはたつた一人淋しさうに出て來る牧羊舘の廣告に「Weekly dances and daily concerts」とあるから、其日には屹度あのなりで跳るのだらう。まことに早や立派な服裝で、我國の裏店の夫人連の夏服たる湯もじ一つに手拭を肩にかけたあの形を積分するとあれになる。あの連中の歡喜天踊は、丁度我が田舍夫人又は令孃の盆踊に匹敵するので、彼女等の服裝といひ踊といひ、頗る原始的で、いふ迄もなく性的である。盆踊を野蠻だとか士君子の見るべきものでないとかいひながら、一方歡喜天踊を稽古したり眞似をしたりするのは理屈に合はぬ。直しくあんな剝出しの露骨式原始的性的の踊りを禁止して盆踊を奬勵すべきである。盆踊の方が夢中になつて飛びはねるから、身體の運動になる丈けいゝ位なものだ。

やがて隣室で合奏が始る。先日も書いたが自慢ぢやないが私には音樂は全然分らぬ、のみならずうるさくて隨分困る時がある、何か考へながら食事をしてゐる時に、遠慮會釋もなく廣目屋の廣告樂隊の樣な音をたてられては甚だ以て迷惑をする。夫れでも『君が代』か『螢の光』乃至『思ひ出づれば』位ならいゝが、何だか難かしいエタイの知れぬ節では薩張興味は湧いて來ぬが、兎に角歡樂境を現出する事丈けは確かである其間を歐人の給仕頭指揮の下に、白い暴夜服を着て土耳其帽を冠つた素足の黑ん坊が頗る不作法に給仕をして歩く。此れ等の黑ん坊は服裝至極よろしくよく似合つてゐるが、どうも其素足が氣になる、何か草履の樣なものでもはいたらば餘程

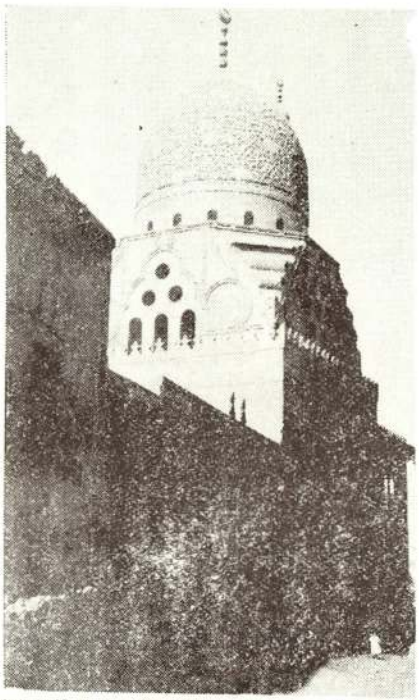
improve するに違ひない。

今日の夕食の献立は本編の初めに掲げた通りであるが、毎晩殆んどこんな工合で、私にとつては大層な御馳走である、腹が減つてゐるからどれもこれも皆うまい、けれどもたゞ最後の珈琲丈けは、いつかも書いた様に濃くて甘くてどうも飲む氣になれぬが、年中あつい所に住んでゐると自然こんな濃い毒々しいのがすきになるのかも知れぬ。土人は紅茶等より此の方がすきだし、町にある珈琲店は年中大繁昌である。極く小さい茶碗に一杯出すが其半分は滓だから、のむところはほんの僅かで、夫れに添へて硝子のコップに水を一杯出す、即ち極く小量の珈琲を酒のみの様に少しづゝ飲んだあとで、此のコップの水をのむのである。

夫れは兎に角毎日こんな御馳走をたべながら、いゝ氣になつて一ケ月も滞在したら、文部省からくださる大層な學資の何ケ月分かは飛んで了ふことだらう。これに引かへ彼女等はどうせ遊覧兼衣裳自慢兼亭主に金遣はせの爲めに來てゐるのだから暇は充分にある、だから九時頃から出て乙にすまして食事をしたり、無理に威嚴を保つたり、無暗に愛嬌を振蒔いたり、餘計な苦心をして十時過ぎに引込み、夜ふかしの朝寝坊をするのが日課であるから天下は頗る泰平である。

澤山の客が綺羅星の如く並び食事をしてゐる中に、私は日本を出る時大枚七十圓を奮發して新調し、常に愛用してゐた一張羅のあひ服にソフトカラーで平氣で食堂へ行く、そして食べて了ふと早速退却をするが、誰れも故障を申込むものもないし、また假に申込んだとて相手にもせず、氣にし出したら切りがないが、やり方一つでどうにでもなるものである。

要するに開路市は金をつかひに行く所で、貧民の行くべき限りではない。一說に Y.M.C.A. へ泊れば至極安値にいくさうだ、だがこつちは O.M.B.A. なるものがない以上資格がない。加ふるに全然そんな所の人に知合がない。のみならず耶蘇の坊さんに紹介して貰ふ事も出來なかつたので、きいてはゐたが初めから思ひ切つて了つたのである。もうあとたつた一日だから一生の思ひ出に牧羊舘の御馳走をたべておかう。だが考へてみれば無駄な事だ。以後埃及見物に行かるゝ春秋に富める諸君子は、前以て方法を講じ Y.M.C.A. へ泊る事にして無駄な費用を省かるゝのが最も賢い方法である。



開路市外カリフ墓に於けるカイト、ベイ廟の塔
（照參段上頁十五第號二十第輯六第）

十一月五日　日曜　好晴

午前また博物館へ行つた。九時開館とあるのに五分過ぎても切符賣が來ぬ、苟も博物館ともあらうものが時間を勵行せぬとは不都合極る、此通り時間は過ぎたのだ、金はあとで拂ふから切符なしで入場させろと談判したら、先方ではもうぢきに切符賣が來るから暫く我慢してくれといつたが、責任はそちらにある、ぼんやり待つてゐては時間が無駄になると押

問答よろしくあつて遂に九時十分無切符で入場した、あとで私の時計が五分早過ぎた事を知つたが、夫れにしても不都合である。博物館から時間を勵行しないで平氣でゐる國だから他は押して知るべしである、たゞ汽車の出る時丈け時間通りに行くのが不思議な位である。先日明日庵市へ行つた時も一時間延着した（其事を十月號へかいたが、三時半とかいたのが誤植で二時半となつてゐたゝめ滑稽になつて了つた）嘗て西班牙旅行の時愚樂灘市へ午後七時四十五分に着くべき汽車が正味四時間後れて十一時四十五分となり、お蔭で夕食をたべる事が出來なくなり、ひどい目に遇つたが、つまり變挺な國では時間なんかどうでもいゝのである。氣の持ち方一つで勵行出來るのにそれをせぬのである、だから一層けしからぬのである。同じ西班牙國で愚樂灘から馬德里へ歸るとき凝土馬で乘り換へた汽車には、同國皇太后陛下がのつて居られたが此汽車は一分の遲刻もせず正に時間通りに馬德里に着いたのであつた。だからやらうと思へば出來るのに、夫れをせぬのは甚以て宜しくない。

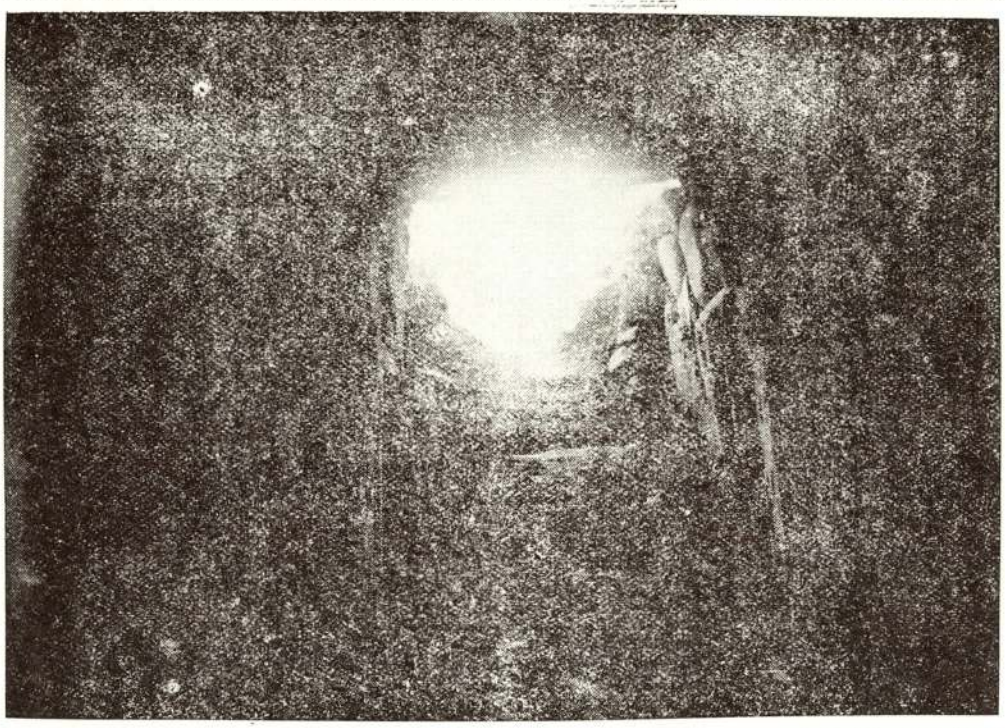
我國でも宴會等は大概二時間位掛値がある樣である。此頃の智識階級の會合にも三十分位後れて開會するのは當然として誰も怪まぬ樣である。就中其會に列席する最高級の人が遲刻すると、其人の來る迄決して開會せぬ、だから親王はいゝ氣になつて平氣で遲刻するのである。夫れが汽車へのる時だと決して遲刻せぬから勝手である。上は大臣大將より局長知事の輩以下下つ端に至るまで、乃至學校の側では教師學生に至るまで、時間の觀念がありながら、汽車へのる時のほか餘り時間を守らぬのは慨嘆の至りである。

私の知つてゐる範圍で、時間勵行の實例は學校等は別としてただ一つである。今でもやつゐるかも知れぬが、昨年六月から毎月一回十日の夜京都八阪神社に於いて、八阪講演會なるものを開く事になつたさうで、其會に前座を勤むべく交渉を受けたとき、規定には六時開會とあるが、果して時間通りにいくかどうか疑問だつたので、念を押したところ、聽衆が一人も來ないでも正六時に始めるとの事であつた。で私は開會時間前十分に行つてゐたところ、時計が六つ鳴り終ると同時に宮司江見清風氏の羽織袴の姿が壇上に現はれたのであつた。私は此時位愉快でたまらなかつた事はなかつたのである どうかいつもいつも斯樣にあり度いと思つた。私は此機會に江見宮司に敬意を表するのである。

で逃べ來つた通り埃及では博物館から卒先して時間を守らぬ範を示してゐる。我國では時間勵行者は極く極く少ないのである。そこへ行くと何といつても歐米はゑらい、否歐米がゑらいのではなく當然なので、亞細亞と亞弗利加とが駄目なのである。大洋洲は未だ行かぬから知らぬ。

愈最後の博物館見物をすませて午後二時半に歸宿し、夫れから寫眞の整理をした。先日から困つてゐた角膜潰瘍も殆んど全治したし、內地旅行も例へ小口丈けでも無事に終了した有難い事である。明日は坡西土に向ひ開路市を退去せねばならぬ、牧羊館のうまい夕食も今夕限りになつて了つた。十一時就眠。（大正十三年十一月三十日稿了）

★　★　★



石　　槨——玄室より室外透見

加茂遺跡雲雀ケ丘の石槨と其の追憶

澤部實之介

位　置——兵庫縣山邊郡川西村加茂字寺畑

（一）傳　說

阪急電鐵寶塚線雲雀ケ丘と云へば寶塚に行樂を求むる人は必ず青松の中に建築せられたる青色瓦や赤色瓦の住宅地其れがブルジョア階級の住宅地のある事を知る事が出來よう。

國有鐵道福知山線池田驛を下車し有馬街道を西進し五六町歩行すれば達する事が出來る東には猪名川の清流を堺して池田山に、西は遠く六甲山峰に對し、後方には歷史的有名な滿願寺山に連り、南は攝津平野を一望し遠く大阪灣を望み得らる風影住絶の場所である。

加茂は北攝地方に於ける有一の遺跡存在地である事は時々發掘せらるゝ遺物に依り歷史的色彩を濃厚ならしめつゝある事に依り明白なる事である、而し比較的世間に發表せらるゝ機會ひなきために、知る人々の少數なる事である。

近年大阪毎日新聞社が婦人ピクニックとして伊丹より加茂への遺跡に關する臨地口演を試みられ居る事は、大いに意義ある事と信ずる物である。

此の附近の凹地は土着の人々は古代に於ては海であつたと云ひ傳へて居るのである。之れには一應尤もなる點を有するが故である、一斑に此附近に限らず、加茂の丘地を南下する時有岡の北方約十町の處に鑄物師天神と云ふのがある。連靈寺の舊跡地にして布目瓦の發掘收得するに比較的安く得らる所である。其の鑄物師天神に菅公腰掛の石と云ふのがある、菅公海路大宰府落の時舟を此地に止め休憩せし所なりと口傳し今日に至るのである。

斯如單純なる傳說を以つて凹地の海面なりしと斷言するは早計であるとも云へるが地勢上海面なりしとも見らる可き點を有する物である、これがため當地に於ける石槨の如きは海岸に於ける古代の住家なりと信じ居るも過信とは云ひ得ない物である。

現在の如く古墳に對する學術的研究の進歩せざる時の事なるがために何等學術的證明せらる可き材料の持合せなき場合なるがために、此の地方の人々も古墳とは信じ得なかつたであらう、然らば石槨に對して如何なる解釋を彼等自身が有して居つたかと云ふ事である。

云ふ迄もなく其れは古代に於ける住居だと過信せる事である、之れには又一應尤もなる理由を有して居るからである。小學校に於ても此石室(石槨の事)は大古に於ける住家である事を說明せられたがために、古墳であると云ふ斷言的言質に對して自分自身に於て躊躇せしめらる所である考ふ可きは年少時に於ける教育方法である。

而し人間在來の其れが永年に植付けられたる慣習にしろ、個人生活の不可と、衆團生活の世相とでも云ふ可き物が、石槨の多數同一地方に集團せる事に依り、之れ大古に於ける一村の形をなす住居地であると過信せる事に對しては無理からん事である。然るに石槨は住居に非ずして古墳なりとの實證を得石槨は古墳に相違なき物であると斷定せらるゝに於ては雲雀ケ丘に於けるブルジョア階級の住宅地、青色瓦や赤色瓦の住宅の持主よ御身等が理想とする所は古代に於ける墓場ではないかと云ひたくなるのである。世相に相違があるがためか現實に生るがためか來未に生んがための信念から生じた事であるのか、なんと皮肉な出來事を物語る歷史的場面を表示せる物ではあるまいか。

(二) 古墳と主軸方向

古墳は主として其の主軸の方向が南面せる物が普通である而し之れは主として平地に於ける古墳に於て見る例である。當地に於けるが如き山間部に於ては主軸の方向は必ず一定せる物とは限られない大正十三年十二月十五日大阪朝日新聞に於て山間部に於ける古墳の特徵として奈良縣磯城郡安部村及朝倉村の古墳に對する記事中、古墳の位置は谷の兩側に當り傾斜をなし形式は小形の圓塚であるとある事より見る時は、地形上位置及墳形等全く當地の石槨と類似せる事であるが朝倉に於ける古墳は主軸の方向が一定せざるが特徵であると云ふ事であるが當地の物は始ど西南面し主軸方向が一定せる物と見る事が出來得る物である。

石槨の主軸方向が一定せざるがために比較的古代に屬し後世の物は主軸が南方を指せる事を列擧せられて居る物であるが勿論此れは奈良縣に於ける多くの古墳の實例なりと云へ共北攝地方に於ける古墳の如きは山間部と平野に於ける主軸

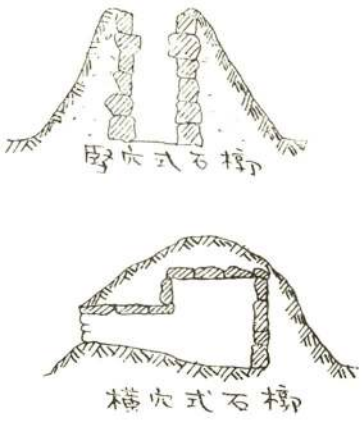
の方向は奈良縣に於ける場合と全く相反し平地に於ける物が主軸方向を極めて自由に取扱ふて居る事である。而し奈良縣に於ける場合と其趣を異にすると云へ共主軸の方向一定せるを以つて、後代の物となす時は雲雀ヶ丘に於ける古墳の如きは比較的後世の物に屬する事は云ふ迄もない事である。

（三）古墳の意義と時代

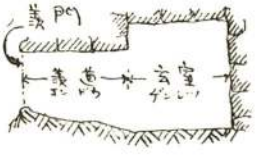
古墳とは著しく高く築かれたる墳丘の上代の墳墓に對してのみ用ひて居る物であるから、佛教に依つて葬制が營まれるが如き時代に於ける墳墓に對しては古墳とは呼れて居ない物である。故に我が國の古墳の時代は平城奠都以前、即ち火葬が上流社會に行われざる期間の物であると見る事が出來得る物であるが物の流行は必ず同時に各地に起る物に非ずして都會より田舍又は土地の遠近に依り奈良朝文化も都鄙の懸隔甚だしかりしために幾内に遠き地方に於ては比較的後年の物でありながら奈良朝時代の物であると認めらる物も有るがために、必ず同一手法なるがために同一年代の、であるとは斷言し得ざるがために當雲雀ヶ丘に於ける古墳の如きも如何なる道程と年代を經たる物なるやと云ふ事は速斷を許さざる處である。

（四）古墳の構造

内部は石材を用ひ築積せられたる物にして各地に於ける古墳と何等相違する事なく殆ど材料に大小の相違こそあれ同一手法の構造に依り築積せられたる物である、此内部の石材を用ひて築積せられる部分を石槨と云ふ。此石槨に竪穴式石槨と横穴式石槨との二種あり。竪穴式石槨とは側方を四方石材を築積し上部に天蓋を用ひたる物である。



横穴式石槨とは上部及側方三方を築積し殘り一方を開口し、後蓋石を用ひたる物である當地に於ける石槨は後者に屬する即ち横穴式石槨である。外形は總て圓形にして圓墳に屬し、草木繁茂せる物であるが、築積當時に於ては、草木を繁茂せしめたるや否やと云ふ可事である。



墳丘は主として土を盛り上げ築かれたる物であるが、全く外部に石槨のみを露出せる物もあるが永年の間に外部の土砂が雨水のために除かれ現狀に至りたる物であらう、斯如き實例は多々見る處にして、竪穴式石槨として有名なる丹波篠山雲部村に存する石槨の如きは石槨のみを露出せる事は世間周知の事實である。故に當地に於ける石槨の如きも、何等異る處を有する物に非ずして、之れを葺石を持つて覆われたる葺石塚とが石のみを築積したる積石塚の如く見るは餘りに根底のない物であると云ふ可きである。

内部は數個の天井石と數拾個の側壁石を有し床は入口に近き部に於て勾配を有し後壁に近き部分は水平にして土間なるを原則とせる物である、石槨を大別して玄室と羨道に分つ玄室とは後壁に近く羨道に比し室面積及天井高き所を云ひ、入

口に近き廊下の如き長き通路部を羨道と云ふ羨道には入口を有する物である事は多言を要すまでもない事である、此の入口を羨門（エンモン）と云ふ、故に當地に於ける石槨は羨門と羨道及一玄室を有する造穴式石槨の圓形墳である。

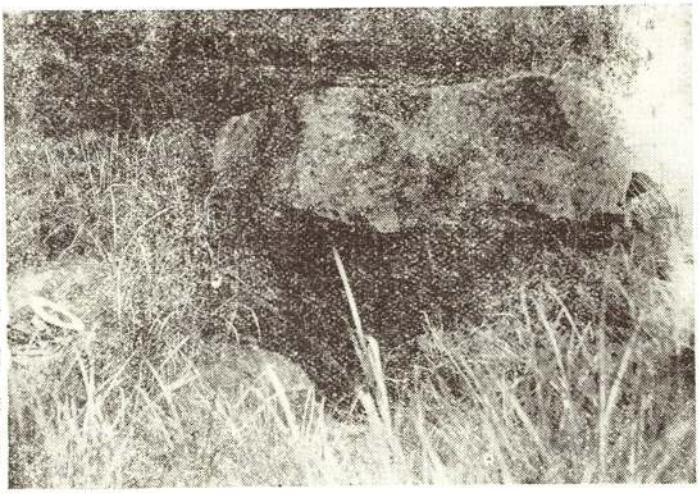
其形態は大和國磯城郡多武峰大字倉橋字赤阪天王山圓墳に見る如く羨門に接する部分は廊の如く狹く後壁に近き部分は天井一段高く、室廣く構造せられたる物である。

（五）A石槨

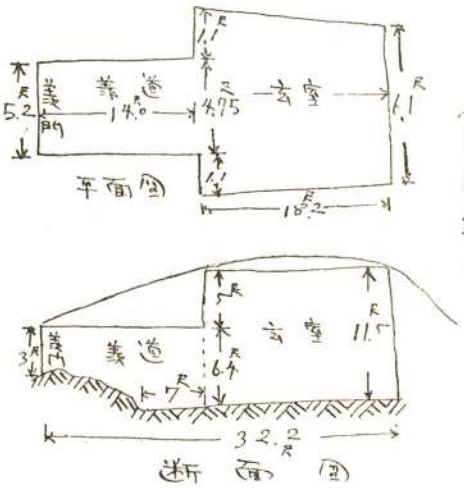
寺畑山中腹に存する事は各石槨共通であるが其位置最東南端にして、石槨より約十間を離せる物である。當石槨は四個の内最大の物にして羨口は西南面し、間口五尺二寸、高三尺、楯石巾員十二尺、厚二尺五寸、奥行八尺を有する天然石を用ひ、羨道は羨門部に於て高三尺最高部六尺四寸五分、長十四尺を有す、玄室巾員最大巾六尺九寸五分、後壁部に於て六尺一寸長十八尺二寸、天井高十一尺四寸を有する完全なる横穴式石槨圓形墳を構成せる物である。

平面は主軸に對して左右均衡を保ち居る事は石槨として普通な手法に過ない物である。壁體は下方より上方に到るに從ひ大石より小石を用ひ羨道部はやゝ勾配を有する物であるが玄室に於ては二寸五分の返し勾配を有し兩側壁體を築積せる物である。築後日の岡知德奈良山の横穴式石槨の如く壁面裝飾の如き何等裝飾を施せし物なきは本石槨にのみ限らず他石槨も同樣無裝飾壁面の壁體のみである。

床面は普通土間にして羨道は玄室に對して勾配を有す。玄室床面水平にして積



（石槨羨門）



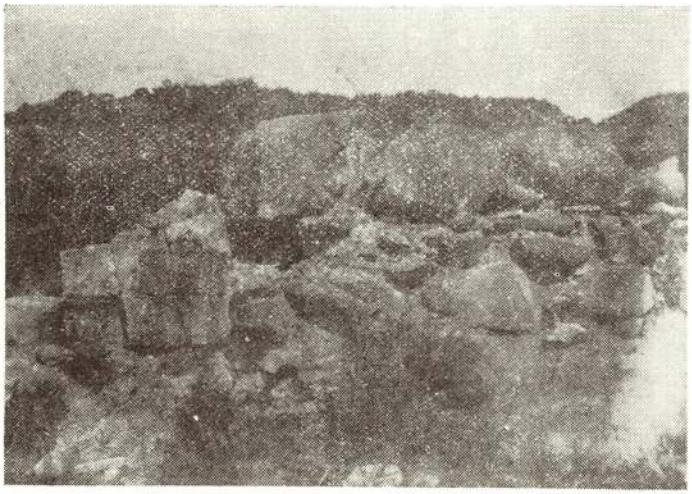
（A石槨）

外地面以下なるために床面顯せるは當然の結果である、羨門位置西南面せるため玄室内に於ける採光、充分ならずとも不充分ならざるがため、室内の起居に何等不自由なくこれがために地方の人々が穴居なりと信せるも當然の事と云ふ可である。

羨門部床面に於て左右に一條の溝を有する物であるが羨道床面の玄室に向ひ勾配を有するがために雨雪の際外部より、雨雪水土砂の類が内部に浸入するを防禦せしむるがために設けし物にして築造當時に於て施行せられたる物とすれば、他地方に於ける石槨に對して、大なる特長

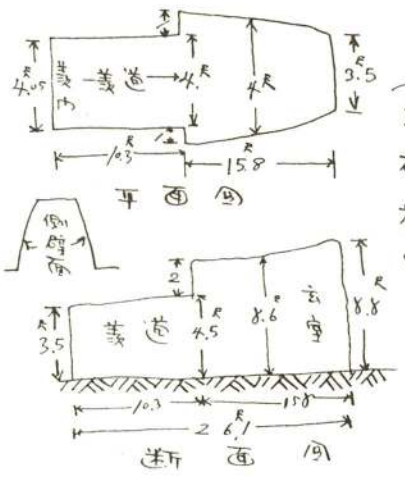
を有する物なるも明治の末年本石槨内に起居せる人ありしが故に、其場合雨雪關係の實際必要上設けたる物でなければならないのである。

（六）B石槨


（石槨外ー側面より見たるもの）

A石槨より約十間西北に位置し、他は總て外部は封土を有せる物なるも本石二に限り獨り外部に石槨を露出せる事である。而し側面壁體の如き極めて、亂れ居る事である石槨其の物の形を損せしめ居る事であるが他三石槨同樣封土を有する圓形墳なりし形態を殘存せしめ居る事である。

（B石槨）



其の主軸の方向はA石槨同樣西南面せるもA石槨より更に西面せる事である、平面に於て主軸に對し左右均衡を保ち玄室に於て側壁は弓形を有する物にして平面上A石槨と相違せる點である、羨門部に於て巾員四尺五分、羨道長十尺三寸、玄室の巾員最大巾員六尺、中央部に於て四尺後側壁面部に於て三尺五寸る巾員を有す玄室の長十五尺八寸、羨門部高三尺五寸、羨道最高部に於て四尺五寸、玄室高羨道に接する部に於て六尺五寸、中央部八尺六寸後面壁體に於て八尺八寸を有し玄室内天井の勾配を有する事又A石槨と相違せる點である。

側面壁體築積に於ても比較的壁面に凹凸を多く有する事である、玄室の如き、やや趣を異にせる事は、玄室の如き比較的廣き面積を有する室の如きは常に一定の形式の元に構成せらる可き物に非ずして下總國八生村愛宕の岩屋の如く奥行より巾員廣く、武藏の北大谷の圓墳玄室の如


（石槨ノ形ー後方より見たるもの）

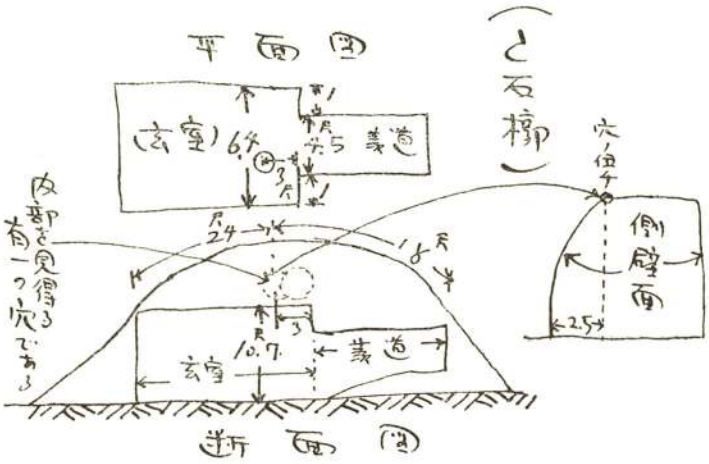
きは圓形を有する物なるが故に種々なる構成法が周圍の狀況、材料の關係、氣候風土の如何により同一地方に於ても同槨形式の元に支配築積せらる可き物にあらざるがために本石槨の知きA石槨と共平面を異にせるが如き當然なる結果と見る可き物である。

（七）C石槨

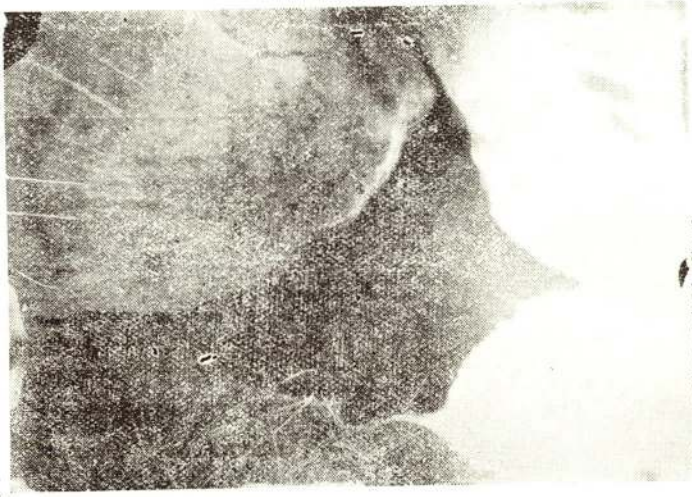
AB二石槨と谷を堺し西方に位置しD石槨と並列せる物にして其の外形に於ては最も大なる圓形墳を構成せる物である他の三石槨の西南面せるに獨り本石槨の



（石槨の外形）



み其の主軸は南面せる事である、而し羨門は完全に閉塞せらるがために、其の位置の判斷に苦しむ次第である、之れには二つの原因を有する事である、主軸方向より羨門仕置に楯石と見る可き石のある事其の位置より更に東方に楯石と見る可き石を見る事であるが、内部に入るを許されず玄室天井石の一部より内部の見得る程度の物なるがために、羨道の方向をやゝ判別し得る物にして遺憾乍ら必ず羨門の南面せる物のみなりと斷言を憚る次第である。



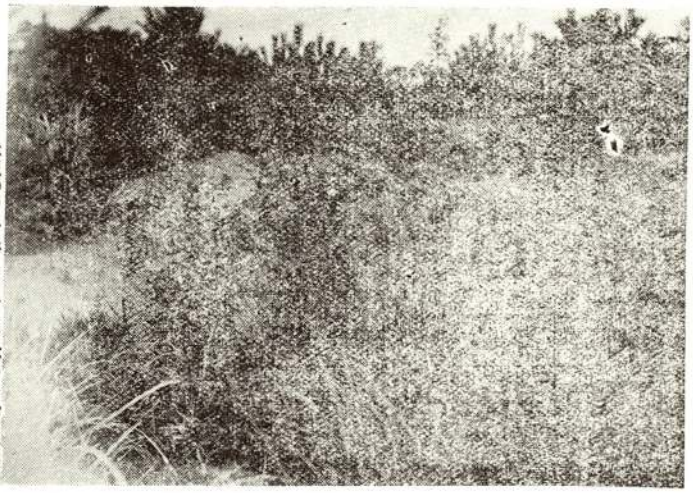
（石槨玄室天井に有する穴）

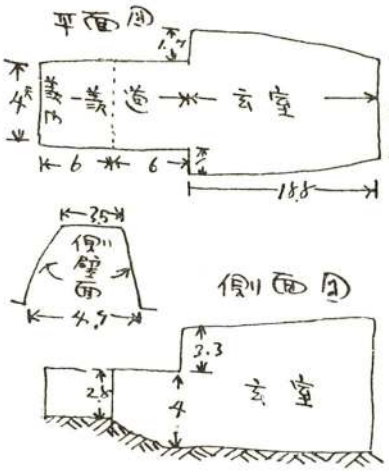
然らば東方存石の位置を以つて羨門の位置と見る可きか、いまだ羨道の二を有するを耳にせず、玄室二ありと見るも室面積の過小なる事である、羨門の位置甚だ

高く玄室の高十尺七寸を有し兩側壁面は一面垂直にして、一面弓形を有する事は大いに趣を異にせる點にして斷面に於て主軸に對し左右不均衡をなし各一尺宛○道より廣く六尺五寸を有し中央部に於て六尺となり居る物である。

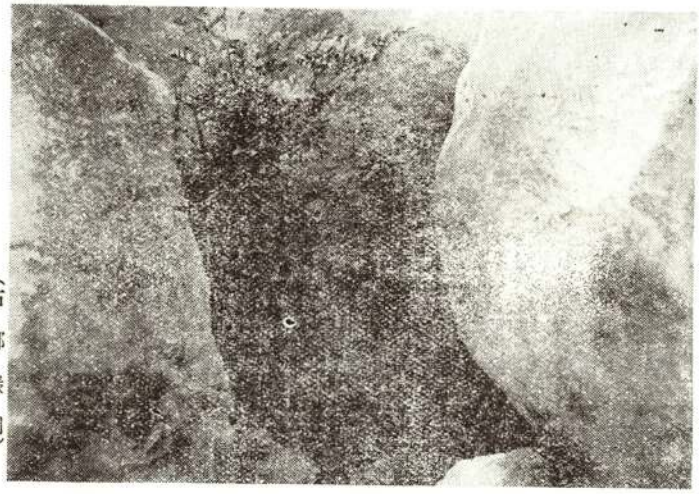
(八) D 石槨

C石槨より約十間西方に、其の位置最も西端に位す物である、主軸は西南よりやや西方にせる事はB石槨に見ると同一である、外形は封土よりなる圓形墳なるも其の高さに於てはC石槨の二分の片に過ない物である。


(石槨の外形—前面小松の所が羨門)



羨門楯石一部崩壞せるために羨道の形狀當時の物と相違せる如く、A石槨同樣羨道床面、羨門より六尺迄水平にして其れより玄室に向ひ勾配を有する物である其の平面は主軸に對し左右不均衡にして玄室兩側壁悄弓形を有し羨門巾員四尺、高二尺八寸にして、羨門高の最も底き物である。羨道長さ十二尺天井高最高部に於て四尺、之れ又他石槨羨道に比し底き物である。


(石槨羨門)

玄室最大巾員六尺七寸、後壁に到るに從ひ巾員減じ後壁面に於て四尺九寸となり、床面水平土間にして、斷面、兩側壁は主軸に對し左右均衡を保ち弓形壁面を形成す(後壁面、巾員床面に於て四尺九寸、天井面に於て三尺五寸を有する弓形となる)此れに返し羨道壁面は垂直にして天井は二個の天然石よりなり楯石の如き巾八尺五寸、長四尺八寸、厚二尺五寸の石を使用し居るも兩側壁面凹凸多く無

雜査なる築積の手法を用ひたる事はB石槨と何等異る點を有しない物である。

羨門部に於て床面に一條の溝を有するもA石槨と、全く同一狀況の元に支配構成せられたる物である。

（九）追憶

北攝地方に於ける遺跡は甚だ少數なる物である見る可き物とても極めて少數である、加茂に於ける遺跡は其の少數内に於ける主たる物である。非ず後日立證せらる可き未發掘物を有する物に相違ない石槨内に於て何等得たる器物とてなきも陶器模様に於て其れが後代の物にしろ當地を南下する事約二里園田村に於ける二古墳に於て得たる陶器模様と同一である事である（模様に關するために省略す）

（十）追憶

石槨にしろ石穴にしろ、其れが單なる石積倉なるにしろ、學術的價値を有せざる物にしろ、十數個を有せし石槨、其れは北攝地方に於ける唯一の群墳をなすに於て時代世想の相違とは云へ、あたら破壞せらるゝに於て、青菟赤菟の住宅地山頂に自動車の通ずるなど當時に於ては思ひもよらざる事であるに相違ないのだ。斯くして亡び、而して住家は建築せらるのである建つ家よりも亡び行く石槨が心おしくもある、黄金の前には自然も屈服せるか、黄金の前には自然を愛する力は不必要か

此に用ひた寫眞は雲雀ヶ丘の石槨として最後の物である。行つて見るがよいのだ、然らば何物をも見得ないであらう。古代の生んだ石槨の影は庭石となり塀壁となり、溝石となりつゝあるのである。彼等ブルジョアと呼ぶ階級の人々！御身等が愛しつゝある庭石は古代に於ける墓石でないか、庭石と呼ぶ墓石を愛するなれば、古代の生んだ、墓場を愛しないのだ、何故に遺跡を保護し得ないのだ。

建物の構造を極く平く考へれば骨と肉と皮から出來て居ると云つてもよい。玄人の言葉で云へば、鐵骨煉瓦造、鐵骨鐵筋コンクリート造、鐵筋コンクリート造、煉瓦造、石造、木骨造等種々の構造があるが何の構造にしろ、其各部分の强さが互に釣合つてゐて、均齊であることが必要なことは、宛も人間の體格が骨格も筋肉も皮膚もみな均齊な發育を要するのと同じ理窟である。震災豫防調査會が永年の間に研究して來た耐震構造も、要するに各部の强さを釣合せて、而も全體として地震に耐へるやうにする目的に外ならない。

先年の大震に鑑みて、當局でも建築條令に地震の强さを考へて、可なり大きな地震にも耐へ得る程度の取締を加へたが、一昨年秋の大慘害に想ひ及ぶ時は、經濟の許す限り又不自由の忍べる限り、丈夫の上にも丈夫にと希望するのは人情であるから、近來建てられる家屋には地震に注意したものが非常に多いのは自然の勢ひであらう。之れは一方に於ては、誠に喜ぶべき現象であるが、之れが度が過ぎて地震に耐へるやうにすると云ふよりも、寧ろ地震に怖ぢけて居るものと見られるやうなものが現れて來ることは、復興の木建築に對しては憂ふべき所である。平家の家が增して來たり、屋根を鐵板や銅板で葺くことが流行して來たのも、皆な地震を恐れた結果である。此等の中には耐震建築といふよりは寧ろ恐震病建築と呼ぶ方が適當なものがあるのは遺憾である分り易い例として、住宅に就いて考へて見る。廣くも無い敷地内に所狹いまでに平家を建てゝ、日當りも良く無く、風通しも悪いのを我慢して、何んな地震が來ても大丈夫だとうて納まつて居た所で、一昨年の地震位るなものが來れば、其の時は驚ろいて逃げ出さない譯には行かない。大地震の時には壁が割れたりする位るは已むを得ない。餘りゆがます倒れる心配の無い程度の强さを有し、梁が折れたりする危險が無ければ、安全に避難することが出來るのであるから、日常生活の不便不衞生を忍んで、大地震の時に屋内に枕を高くして寢て居られても良い家屋とは云へない。又屋根にしても輕いことは地震や大風に對しては非常に安全ではあるが、屋根本來の目的を沒却してまでも、〇くすることは考へものである。抑屋根は雨露を凌ぐための家の最も原始的の要求に始まつて、寒暑を防ぎ耐久的であつて、耐火性を有するを以て最終の目的として居るのであるから、唯地震に恐れて輕くした爲めに、冬は保溫に適せず、夏は斷熱の効薄く、從つて大災には抵抗力が弱くなつては耐震的價値は增しても、家としての全効果は擧がらない。（堀越三郎氏）



誤まれる文化生活

中尾保

昨夏富山縣へ旅行した際高岡の停車場で『文化餅』と云ふものを賣つて居た。物好きに一つ買つて食つて見たが在來の餅と少しも變りなく何の邊が文化になつて居るのかその味を見分けることは極めて困難であつた。

聞くところによると以前の餅と全く同じものであるが『文化餅』と改名したものでこの名稱を附けてから一層その賣れ高が上つたとのことである。これを聞いて悲しくなつたと云ふよりは寧ろ呆れざるを得なかつた。世人が何と云ふ自信のない生活をして居るかはこの一事でも容易に窺ふことが出來る。それ程今日の所謂『文化』と云ふものは浮薄なものである。一體近頃『文化』と云ふ文字を濫用し過ぎる。『文化』を冠せる名稱を一々吟味して見ても本當に文化らしいものは指を屈する程もあるまい。今日用ひられて居る樣な意味で『文化』をつけるのならば日常のすべてが文化でなければならぬそんなものに一々文化をつけた日にやたまらん。文化住宅で文化生活をして文化飯を食つて文化服を着て文化帽を被つて文化靴や文化下駄を穿いて文化電車や文化自動車に乘つて文化會社や文化役所や文化學校へ通はねばならぬことになる。

これ等は畢竟『文化』なる文化を事物の固定的名稱に用るから文化と云ふものは或一定の形を有するものなるかの如く誤解されて居るのである。例へば文化住宅と云へば赤青の屋根を聯想したり文化生活と云へば疊を代へてリノリームとし座蒲團を止めて椅子テーブルにする事の如く考へられて居る樣に思はれる。文化は決してそんなものではない。(勿論それ等も或意味に於ける文化には相違ないが)在來のものよりヒントを得て更に新しき而もより善きものを生み出す力を云ふのである。であるから文化には形はない筈である。そしてその生み出されたるものは時代々々によりて變つて行くもので決して或一つの物や事柄に在るものでない。物質的文化にしても精神的文化にしても皆然りである。

これ位のことは誰でも解つて居る筈である。

然るに『文化餅』と改名したる爲にその賣行きは上つた等の如きは全く世人の生活に確乎たる自信がないからである。

何故生活に確乎たる自信がないかと云ふにそれは一般の生活相は他のものゝ文化に比して甚しく遲れて居るからである。吾人はこの點に目覺めねば如何に疊をリノリームに代へて見たと

ころで何の効果もない。疊をリノリームに代へることは生活樣式の改善である。樣式の改善も誠に結構である。しかしそれよりも、前に生活相の改善を考へねばならぬ。ところで今日生活の改善を叫んで居る人達は何れも樣式のみの改善に過ぎない。抑も生活と云ふものは何んなものであるかゞ解ない人達は失禮ながら御歷々の中にも隨分あるらしい。

某ブルジョアの如きはその生活に飽きて近頃簡易生活だの文化住宅だのと云つて旺に著述をして宣傳して居るが、之等を讀んで見ても一向生活の眞髓に觸れて居ない。貧實な根底のない浮薄極まる御說としかとれない。これを例へて見ると牛肉を食つた後のお茶漬の味を敎へて居る樣なもので、其お茶漬の味は牛肉を食つた人に始めて味はれる美味であつて牛肉を食はなかつた人にはそれは何の價値もない譯である。世間にはこの牛肉を喰はない人が大部分である。即ち中流以下の人々はそれである。

上流の生活は地位や名譽の爲めに意志に反しながらもその域を脫することの出來ない氣の毒な生活であるとは云へ物質的には何の不自由もない。下流の人々は名譽も構はず服裝にも一向頓着なく住宅は單なる寢所に過ぎず儲けただけはみな食つたり飮んだりして赤裸々の生活をして居る。之以上簡易な生活はない。又考へ樣によつては此以上幸福はあるまい。ところで活きんが爲に、存在を認められんが爲に、いろ〳〵な周圍の關係の爲に赤裸々生活は許されず、さりとて意の如き生活も出來ず苦痛な立脚地に臨んで居るものは即ち中流社會である。

其日〳〵を糊塗し彌縫し其場〳〵を繕つてゆく間に合せ主義の姑息生活を續けてゆくものは中流社會である。

換言すれば痩我慢生活である。上流者にもなり得ず下層社會へ落ることも出來ず、斷ち割つて云はれぬ苦しさを心に藏しつゝ、不安の中にその日其日を送つてゆく之中流生活者の群こそ今日の社會國家を支配しつゝある實力の持主である。

之等の人々の生活は即ち社會の生活である。此等の人達は文化生活を營む樣にならなければ社會の文化生活は到底望まれないであらう。社會が文化生活を營むには先づその生活相から改善せなければならぬ。

生活改善を高唱しつゝある人達は『生活樣式』の改善よりは先づ第一に『生活相』の改善策に意を用ひられんことを切に希望する次第である。

伊太利のローマ市の摩天閣が完成せられると、米國は世界一のものを一つ失ふことになる。ローマの摩天閣は今計畫中であつて、八十八階で高さが千百呎であるから、目下世界一を誇つてゐるニューヨーク市の五十一階のウールワースビルディングより三百八呎高いことになる。それはローマ市民のための大きな公會堂であつて、四千五百室、百箇の大室、一箇の大きな劇場、一箇の音樂會場、運動競技場、游泳場、數箇の圖書室をもつてゐることになる。



友人木水君の住宅の設計に就いて

（口繪參照）

小川安一郎

御影の木水君が家を建るから設計をしてくれとの相談を受けたので僕は忙がしけれども君が折角家を建てるのだから設計してやつても宜しい然し君に一つ注文がある夫は僕に萬事を一任する君の大膽さがあれば僕は心好く引受けて設計をしよう然らざれば僕は夜分會社の餘暇を以てやるのであるから君に一々交渉したり又打合せたりする様な事があつたら甚だ迷惑だから御免を蒙るよと同君に相談せし處同君大に氣持好く一切君に萬事を依頼するとの速言に依り引受けて設計する事にして出來上つたのが建坪三十五坪餘の別莊及寫眞の様な建物が出來上つたのである。

大體私は設計の最初に於て左の趣意を目的として設計したのである。

一、住宅は裝飾的の者でなく實用で住心地宜しきものでなくてはならぬ事。

一、便利で使ひ易きものでなくてはならぬ事。

一、經濟的でなくてはならぬ事

一、窮屈でなく少々は傷を付けても分からぬ様且つ惜しくない様蕃カラに仕上げる様に注意する事。

一、衛生的であらねばならぬ事は勿論である。

一、四季を通じて耐熱耐寒し用意を充分考慮する事。

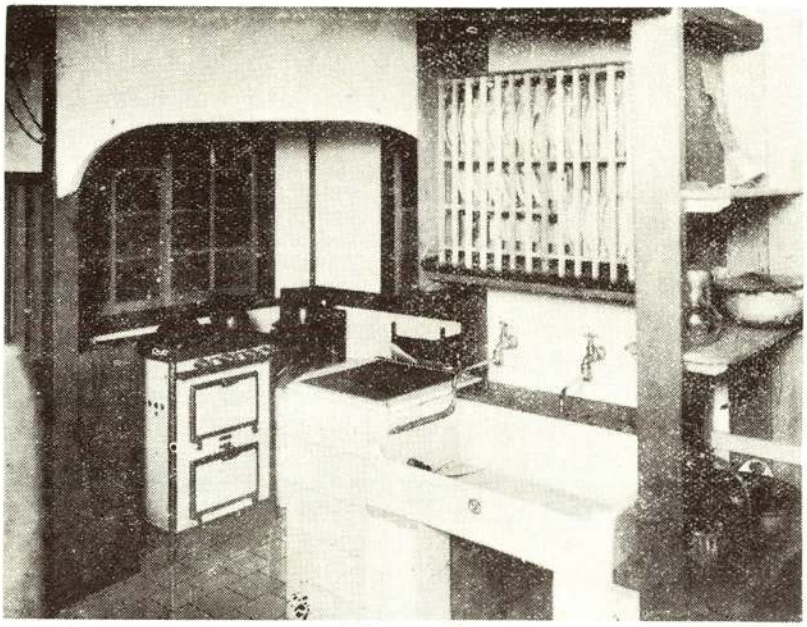
以上の諸項に就て充分に適合する様な『プラン』並に『エレベーション』を作製したのである經費其の外色々の關係上思ふ様には充分な事は出來なかつたがなれども住宅としては此の位の處で止めて置かぬと限りがない様に思ふので此の位で滿足して貰ふ事にしたのであるいや無理に是れで滿足せよと云ひて押付けたのである。

右の様な次第で同君能く僕の氣心を知つて建築中一言も干渉せなかつた事丈は大に同君に感謝する次第である。

色々設計に就て御説明を申上ると様々ありますが是れは寫眞や實物を御覽になつた人の御批評を乞ふ事として一切私は申上ない事にします。然し只私が尤も自慢とする事は建物の外部及小屋裏一面に一吋の「ゴルク」板を張立てゝ壁體を構成した事で

ある。

私は是で二度此の試をして大に好成績を擧げたのである、即ち防寒防熱の目的達した譯で其の尤も著しきは小屋裏などは盛夏の候は熱苦しくて耐る事の出來ない事は皆御承知事と思ふ然し此の『コレク』板の爲に實に熱氣を充分に防ぎ非常に冷氣を感ずるのである、此れは經費の點に就ても＊



（所　臺）

＊張瓦を使用する位なら坪二三圓も增せば立派に右の目的を達する事を得るのである。

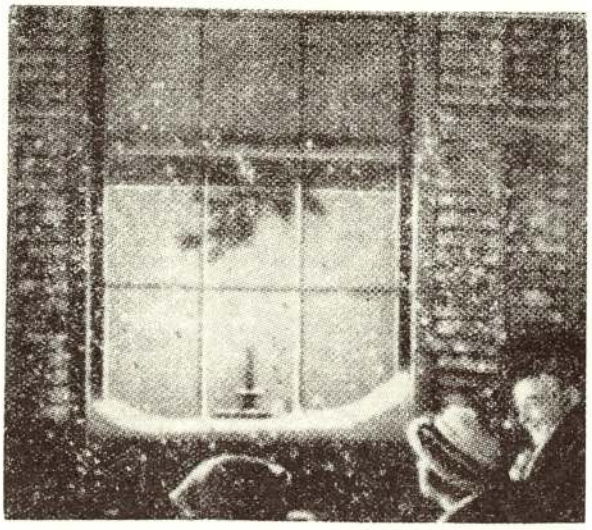
其の外設備の點に充分注意して住心地宜しき樣に考へた迄での事で決して自慢する程でもありませんが其の外『ボイラー』を內藤式を採用して非常の好結果を得た事は特筆すべき事と思ふ。

私は家具は勿論裝飾も一切又置物敷物庭園迄も自分で設計するので中々骨が折れる事丈は確である。

若し御氣が向て御覽になる樣な方がありましたら何時でも御紹介致します勝手に御覽下されて御批評を願ます。所は阪急御影停留所下であります。



（ル　ー　ボ）



創作

喫茶店ロダン

——この小篇を田中幸一兄に捧ぐ——

三島汝虚

ついそこですよと通行人におしへられて、私はなあんだといふ安易な氣持になる。

（喫茶店ロダン）と書いた氣どらない眞つ白な軒額。ちよつと氣の利いた名を付けよつたぞといふ微かな同感。

狹い入口の上の方の手も屆かないところに、輕やかに下つた左右二つの新しい軒燈。殆んど正しい三角形で、派手な明るい朱色で、ちよつとした雨にでも直ぐべたべたに破れてしまひさうな華奢な感じで、夜に入つて灯でも點けば、これでも幾分はノオブルにも幾分はエロテイツクにも感じられさうな軒燈である。いゝものを下けよつたなといふ微笑。

幾分躊躇した後、私は遂にその扉を押す。

（温かい室とコオヒ）

不意に、直ぐ鼻を衝くやうな目の先に四本の銀色のピンで手輕く留められた大きいビラ。明るい水紅色（ベルリア）の地に白で書き流した神經質な文字と、圖案化されて僧院の塔のやうに尖つた四角い薔薇。文字の恰好で、これは田中自身が書いたらしいといふことがわかる。

そこは一坪少々と思へる冷たい叩きで、小さい靴拭ひと十足ばかり並べられた青いスリッパだけがある。案外靜かな部室らしいといふ感じが來る。

私は下駄を穿いてゐたので、當然、そのスリッパを穿かなければならない。部室へはこゝの薄つぺらな紅い毛布を潛つ

這て入つてゆくらしい。私はスリッパを穿くのに少々手間どる。そして、ぼんやりした氣持で垂布の中へ一歩足を進めると一瞬間、誰もそこにはゐない。狹い、暗らい、黃色い、靜かな、幽鬱な部室である。

微かな物音がして、扉が開いて、あとから氣が付けばそれが厨房であつたところのもう一つの小さい部室から、寧ろ靜かに出て來たのは脊廣姿の田中である。

——おゝ。——彼は立ち止つて、ちよつと目をみはつて、幾分反身になつて、ポケットに兩手を突つ込んで、言ふのである。——來たのか。

——來たぞ。——私は進んで、彼の近くの食卓について、彼を見上げたのである。——どうだい。

——よくわかつたな。

——あちこちで聞いて來たさ。實は、今、須磨からの歸りなんだ。原稿が一昨日ですんだものだから、須磨の從弟のところへ寢ころびに行つてたのさ。それが急に歸りたくなつて今んま須磨を發つて來たところさ。で、兵庫で途中下車して、一番に君の下宿を探して、下宿で又こゝを聞いて、うろうろ訪ねて來たのさ。

——うむ。まあゆつくりして行け。

彼はそのまゝそこへ腰を下ろさうとはしないで、厨房の中へ隱れて、手づから、カルピスを溫めて持つて來てくれたり、菓子皿を運んでくれたりする。私は彼がさうしてあちこちしてゐるひまに、いゝ部室だなといふ嘘ではない聲を部室ごしに彼へかけ乍ら、部室の中をあちこち見廻すことを忘れない。

第一番に私へ來た感じは、大して惡くはないなといふより、寧ろ、これでも喫茶店としては上品すぎる程いゝ部室なんだといふ一種の安心した感じである。部室の中は、事實、明るいといふよりは暗らい。朝といふよりは黃昏の感じである。一見あまり凝つてはなくて、豊かな溫かみを有つた部室。何となく感じが高貴で落ちつきを有つた薄橙色の部室。手觸りの幾分荒らさうなその好ましく親しみ深い壁紙。それに、充分考へたあげくに無粗作らしく掛けられた二三の額緣。天井は相當高くて、光線は最近新しく塗り替えられたらしい一方の窓からだけ逼ひ込んでゐる。その窓のすぐ外は、冬の日の暖い午後の人通りの少い神戸の街路なのである。田中は晝線のスキッチを捻つて、すでに私のために電燈を明るくしてくれてゐる。靜かな、和やかな、寧ろ氣の抜けたやうな動かない濃やかな雰圍氣がそこにあつたのである。食卓は小さい型のが都合で六脚。どこにでもありさうな人造大理石のきざなのではなく、どちらかと言へば貧しく見える木造の粗末なもので、新しいのではないらしい金巾の卓布の白いのが掩はれてある。印刷させたのではないらしい深紅色のメニウ、際立つて目立つ眞つ白なナプキン、それに、香り高く艶々しい林檎と型が充分大きくてよく熟れた蜜柑とが、どの食卓にも位置よく置かれてある。

私はカステイラにも厭いて、メニウをとりあげて讀んでみる。字は克明にも一々ペンで書き並べた田中のである。

（冷たい飲物——ソオダ水　シトロン　カルピス）等。

（溫かい飲物——ココア　紅茶　ホットウヰスキイ）等。

（洋酒——キユラソ　カクテル　ベルモット）等其の他かうした店にはどこにでもなくてはならぬ飲物と菓子と果物との類が數十種。相當には集めてゐるんだなといふ輕い滿足。

——ホットウヰスキイでもしてやらうか。

——うむ。僕はいつもウキスキイなんかは飲まないんだがな。まあいゝよ。飲むのはあとでもいゝよ。なんか話さうよ。

——話さうつて、まあ待て。味も見てくれよ。

そこで、田中は二つの長いグラスを私達の前へをく。未だ石油ストオヴに火が點いてないので、火鉢を圍んで、彼も初めて席に就く。

透明な液と角砂糖一個。アルミニウムの小皿。唇へもつてゆくと、液は丁度いゝ加減に温かい。私は一氣に半分を飲み干す。

——いつから初めたんだ。

——この十日からさ。今日で未だ一週間も經つてはなゐい。

二人は二人だけの饒舌になる。

——それで、人はうんと來るのかい。

——駄目だ。ちつとも來ないな。初めの日なんか、全るで一人も來なかつたさ。

——ほゝう。一人も來なかつたか。

——やうやう夜の十一時過ぎになつて、四人連れの男が一度に來たさ。そして、紅茶を一杯づつ飲んで、四十錢をいて歸りよつたさ。

——そいつは愉快だ。初日の收入が四十錢か。廣告をちつともしないからさ。廣告なら僕がうんとしてやるよ。誰も未だ知らないんだらう。

——それで、こんなものまで大急ぎで刷らせてゐるんだ。

——彼はポケットを探る。出したのは私製葉書へ六號活字で印刷した廣告である。

私は受けとつて急いで讀む。

（美しい紅葉の世界も漸く往いて、やがて來ん冬景色の兆も間近くなつて參りました。冷寒の冬——温かい室とコオヒ。我々の求めるものは、これです。今度、我々同人が集つて、とても氣持のいゝ喫茶店ロダンを靜かな町の一角に設けました。好い茶と純な洋酒。こゝでは、一杯の味ひが皆樣をとらへる事と信じます。御敢策に、御會合に、何卒安易に御利用を願ひます。此のティ・ルウムを皆樣の御愛用に依つて來るべき將來を樂しんで居ります。乞ふ、近きうちに御來店を。

署名は田中と彼と俱にこの仕事を初めたといふ未だ私の知らない夢野といふ男とである。

——いゝぢやないか。皆んなにこれを送つたのかい。

——うむ。送つてゐるのさ、君も少しはもつていつてくれ。

——うむ。貰つてゆくよ。來さうな男に送つといてやらう。そのうちにぼつぼつ來るだらうよ。二三度續けて來出したらもう大丈夫さ。少しわかつた男にはこの部室が案外氣に入るだらう。全く靜かで、落ち着いてゐて、ぼんやりした氣持でココアなんかを飲むにはいゝ部室だよ。考へたり饒舌つたりするにもいゝ。何もしないでゐるのにもよさゝうだ。何だか知らない薄ぶんやりしたこの柔らかい暗らさが僕の氣に入つた。

——いゝ部室だとは思つてゐる。

——前からこんな店だつたのかい。

——いゝや。建築事務所だつたのさ。

——ふゝん。さう言へば、どこかに建築事務所らしい感じも殘つてゐるな。それで、この壁紙は張り代えたのかい。

——いゝや。前のまゝなんだ。唯、この下の敷物だけ取り代えたんだ。ちよつと汚れてゐるので拭かうと思つてゐる。今、その油をボオイが買ひに行つてるのさ。

——ふゝん。ボオイがをるのかい。

——をるさ。若い男さ。一人だよ。何しろ俺と夢野との二人が臺所の方をやるんだらう。書は一人も客がなくても、かうしてぶらぶらしてゐなければならないのさ。早く俺のほんとうの仕事がしたくて、何だか馬鹿らしくてしやうがない。

——まあいゝさ、そのうちにこの店も大いに有名になつて、定つた客でも來るやうになつてしまへば、誰か他にこの仕事をさせてもいゝぢやないか。そして、君は安心して、自分の仕事をうんとすればいゝのだ。描けるだけ描けよ。まあまそれまでは、氣永くココアでも溫めてゐるんだな。夜になりやそれでもロダンといふ名にひかれて文學青年みたいな者がやつて來やしないか。

——來るな。夕方からはぽつぽつやつて來るよ。ついそこの銀行員が四五人一緒になつて二三日前から來てゐる。俺も出てその連中の話し相手になつたりする。芝居の話や繪の話や、それから女の話でも文學の話でも金の話でも新開地の話でも、何でも彼でもあるだけの話題で色んな話をするのさ。面白い男だといつてはやつて來るよ。

——それで萬事結構だな。少しは質のいゝ客に來て貰へよ。ビクタアでも置いたらどうだ。ハイフエッツを聞きたいために、レコオドのあるカフエやホオルを根氣よく歩き廻つてゐる男まであるからな。ハイフエッツのチゴイネルワイゼンがとてもいゝつて、そればかり聞いてゐる男がある。

——うむ。それで、俺も何かこの店を中心にしたパンフレット位は出してみやうとも思つてゐるのさ。どんなに下らないものでもいゝ。追々はましなものにもなつてゆくだらうさ。例へば、こゝへ寄つて來る連中の囁なんかを何でも載せるんだ。ちよつとしたグルウプができる。それから、文學會のやうなものをこゝで開く。詩話會や短歌會のやうなものを開く。輕蔑したものでもないよ。

——そこで、この薄黃色い部室が赤い部室のやうになつて、俺は天才だつて踊り出すやうな押しの强い男が跳び出す。我れ大海を吐き太陽の上を歩くつていふやうな怖ろしいソロモンが跳び出す。都市病患者や天才病患者が生れる。それから印刷病患者といふのまでが出る。神戸の街には新しい不滅の塔が建つ。ちよつとした動きが人を有頂天にする。(喫茶店ロダン)はやがて新しい詩集の名になるだらう。

——まあま。有名になりたい人間を皆んな集めるのさ。少々の衒氣や覇氣は青年にはあつた方がいゝ。君も有名になりたければ神戸へ來るんだな。神戸の街は誰でもを容易く有名にしないではをかない街だ。神戸人は流行獵人だよ。

——ぢや、僕も神戸の近くへ來るかな。須磨か蘆屋あたりへでも家を借りるんだな。明るい海と明るい丘だ。それに、明るい街と明るい住宅だ。明るい空があつたり、明るい藝術があつたりするよ。新時代つていふやうなものが、こんなところにも容易く生れるんだよ。どうだ。神戸の新聞で僕の原稿を買ひさうなところはないかな。

——氣の小さいことを言ふなよ。

——ふゝん。

——ふゝんだ。

——ところで、この藝術の部室には一個のロダンも見當らないぢやないか。

——うむ。ロダンものが一つもないのさ。欲しいと思つて探してはゐるんだ。

——なんなら、少時は複製でもいゝぢやないか。でなければ素描の寫眞版でもいゝぢやないか。僕もその邊で探しといてやるよ。

私は彼が近日中に神戸へ去るといふことは彼自身から聞いてゐた。今までの生活にはすつかり厭きあきした、うるさい嫌やだ、慘めだ、馬鹿々々しい、今度こそは本氣で俺自身の繪を描くのだ、いつまでもこの儘ぢ堪らない、俺はやつぱり繪を描くんだ、で、神戸で少時人に隱れて勉強する、と彼は其の時言つた。そこへ、彼が神戸で喫茶店を開いたといふ噂が聞えたので、私はちよつと驚ろかされた。呆氣にとられたといふ程でもないが、何だか出し抜かれたといふやうな感じであつた。微笑が極く自然に私の頰へ上つて來た。うまくゆけばいゝがといふ危惧と彼のことだから何をやつても相當なことはするだらうといふ安心とが、同時に私の頭へ來たのは事實である。

彼が神戸へ去つたのは未だ一ヶ月程以前であつた。

一ヶ月以前の彼は、決して、こんなさゝやかな喫茶店の經營者ではなかつた。彼は若くして甚だ重用された劇臺裝置家であつた。歌劇場は新しい光に燃えて、第一回の榮光ある公演を發表した。群衆は小心な豫期以上に燃えて、騒いで、好意を有つて、場の上下を一杯に埋めた。座席券は連日連夜賣りきれた。彼が開演の前に大急ぎで作つたといふ三場の裝置は、多大の成功を收めて、明るい脚光と喝采とを恣にした。加へて、彼はこの歌劇團の幕内主任といふ自慢してもいゝ肩書を有つてゐた。彼は彼よりも年長の數十人の男女を動かし、彼の夢みたことは計畫し、計畫したことは遂行し、遂行したことは必ず成功させたといふ愉快と滿足とを經驗した。私は同じプログラムの期間を、唯彼の成功を樂しみたいために、わざわざ二十五哩の遠方から三四度も歌劇場へ通つた。私は明るい海の見える窓に寄つて彼と倶にココアを飲んだり、樂屋への狹い通路で立ち話をしたりした。私は彼に勸められて三晩の徹の夜あけく、トルストイの或る有名な民話を一幕五景の歌劇に書きあげた。そして、それの脚光を浴びる日を待つた。私はその脚本部に這入ることになつてゐた。そして、實にその約束の當日、不意に彼はその歌劇團を顏の色を變へることもなく出てしまつた。欺瞞と詐謀と淫亂と冒瀆と野卑とがその緞張の裏にあるばかりだからといふのである。私の脚本はすでに脚光を浴びないで行衛不明を傳へられた。

その一ヶ月前。彼は大阪での有名な劇場の三四に親しい關係を有ち乍ら、同時に或る歌劇場の舞臺裝置の指導者であつた。そして、重ねてかの高名な××劇作家協會の會員なのであつた。私は彼の煩瑣と成功とを妬ましくさへ思ひ乍ら、時々は彼の汚れた仕事服に遭ひに出かけた。が、彼はこの時の仕事をも、私には殆んどその理由もわからないうちに、火の消えたバットを棄てるやうに投げ出してしまつた。

その以前。彼は彼の所謂空位時代に、その不性と無爲とを充分享樂してゐた。どうにかなるさ、どうにかなるさと大きく笑つてのけて、圖太くもその彷徨に馴染んでは、常に、この小心な私を驚かし、羨ましがらせ、齒痒がらせてゐた。

その以前。彼は最初の愛人である十七才の處女と激しい戀に落ち、私に時々その愛人饒舌つた戀愛語を話して聞かせては、マリア圖案社といふのを潔ぎよく失敗し續けてゐた。そしてその久遠の像が冷たく彼に叛いてしまふと、彼は同時にマリア圖案社を解散して、少時を友人間にも消息不明で生き

てゐた。

その以前。彼は或る僧院に隠れて、ひたすら一枚の繪を描いてゐた。曾て世界で試みられなかつた、されても成功しなかつた、月もない眞つ暗らな夜の繪で、完成すれば帝展に送られる筈であつた。私はせめて二科會か春陽會かに出品するやうにと忠告し、私自身の趣味を演べた。で、繪はできあがつて、出品期日が切れて、さて、有名になる筈であつた繪はどこの新聞にも嘯されることなく、無事に闇の中へ消え去つてしまつた。

その以前。彼は京都の美しい夜を歩き乍ら、藝術や、愛や、女や、永遠や、神や、覇氣に就いて、よくも厭かずに、私と激しい議論をする彼であつた。二人は京都を愛してそこを永住の地と決め、毎日毎夜議論するためや四條通を歩くためにのみ生きてゐたのであつた。彼は繪を、私は文學を、それぞれ選んで意張つて夢中になつてゐたのである。

その以前。彼は秀才だと呼ばれた中等學校の可愛いゝ下級生であつた。他の者がABCを繰り返す鸚鵡であつた時、彼はミレエのことを考へて燃え、私は(虐げられし人々)を讀んで四五夜を正直に哭き明かしたのであつた。

その以前。彼は、そして同時に私も、腕白盛りの小學校の生徒であつた。そして、十二才で、二人は笑話や懸賞判じ繪まで載せた(文藝雜誌)を輯えて、同級生に金壹錢也で賣ることを知つてゐた悪戯者であつた。

等。等。等。

何といふ、彼は、蜃氣樓のやうで、虹のやうで、夕立のやうで、雲のやうで、面白い、轉り氣な、快活で幽鬱な、天才で凡くらな、愉快な私の友人であつたらう！

——あゝ。何だかいゝ仕事がしたくなるな。——私は何故ともなく彼の顔を瞶める。——何だかうつかりしてはゐられない氣がするな。今にこの小つぽけな部室から、この騒がしい街から、素晴らしいものが生れないとも限らないな。かうしてゐる瞬間、今、どこかで、ロダンを押し退けるやうな男が、汗と不安と自信とに呼吸を凝らし乍ら、その處女作を懸命に刻んでゐないとも限らないな。何だかかう、明るい、重々しい、若い時代といふやうなものが、靜かな、遠慮深い、底力のある唸りをもつて、刻々、僕達の方へ近づいて來るやうな氣がするぢやないか。

——うむ。若い力はどこにともなく潜み、埋れてゐるさ。まあ待て。まあ待て。今に、新しい藝術の世紀が來るだらうさ。ボオイが歸つて來たら、ひとつその邊の街を歩いてみやうぢやないか。

そこで、二人は待つ。ボオイは容易に歸つては來ない。二人は雜多なことをしきりに訊いたり話したりする。ボオイは未だ。で、彼が遂うとう戸外へ尋ねてゆく。私は獨りにされる。そこで、私は今更らのやうに立ち上つてその邊を歩く。

部室は勿論廣すぎるといふほどではない。氣に入つた廣さである。掛つた繪を見て歩く。一枚はありふれた泰西名畫の三色版、一枚は嫌やに古典的なない方がましな歷史畫、もう一枚は畫布のダダである。畫布は肌理の粗い代赭色の馬糞紙、その上へやけに引つ破いた××新聞九千六百〇七號の紙片を貼り、その上へ眞つ赤な色紙、型は破れた心臟を擬し、その上へ長い鐵業の汚れたのと安物の煙草一本を無粗作らしく糊付けにしてある。(女性は煙草掃除なり)と駄筆を弄び、(其の昔エデンのイヴ)と傍註がある。くすぐつたい微笑が込みあ

げる。ほゝう。すでに新時代はこゝにある！待ちくたびれて私も戸外へ出やうとする。そこで、私はもう一枚の額縁にぶつかる。入口のカアテンの先刻は氣が付かなかつたところに鈍く光つてゐるのは正にロダンの接吻の寫眞版である。曾てこの實物が日本へ來た時、大阪では明るく展觀されて、東京では展覽禁止になつたとかの問題のものである。私は都合よく大阪で觀たのであるが、(この接吻は世界に三つしかないものであります)との傍註を讀んで、なあんだロダンの奴同じものを三個も製造したのかなと嫌やになり、さて、やつぱり人並に感心して、表から裏からと見直してみたロダンの寫眞版である。三萬圓とかするんださうだが、あの實物がこの喫茶店にあると愉快なんだがと思つたりする。それから、自分の著作部室のやうに樂しんで再び食卓の間を行つたり來たりする。

田中とボオイとが歸つて來る。そこで、私と田中とは午後の街路へ出る。風はなく、陽は冬にも似ず麗かである。特異な神戸氣分は一杯である。二人は輕やかに歩く。新開地の人込みの中を通る。氣安く樂しくなつてくる。

——××倶樂部でやるといふ個展はいつなんだ。

——いつでもいゝんだ。俺の繪が揃け次第だ。未だ一枚も描いてやしない！

——その日が待たれるな。えらい男になれよ。

二人は未だも歩く。亂れて煩はしい都會の雜沓といふものが、私自身にこんなにも美しく思へる日はめつたにない。

——どこへ行くのだ。

——どこかをその紅茶でも飲んでみやうぢやないか。

——もの好きな奴だな。

もの好きな二人は(喫茶店くれなゐ)といふのへ這入る。亂雜な部室。ロダンよりはずつと落ちる俗な裝飾。癈婉的な雰圍氣。食卓を圍む貧婪と蕩酔、世界の相違に私は正直に驚く。

——いらつしやい。寒いぢやないの。

若い女が出て來てすぐ二人の側へ坐る。田中は神戸へ來て一ケ月ですでに親しい食卓を有つてゐると見える。

——溫(あ)つたかいレモン・テイでもしてくれ。

——一昨夜はどうだつたのよ。

——やあ。大變。あれから歸つて寢たのが朝の四時さ。昨日は晝すぎまでぐつすり眠てゐた。

——あたしとこはもつと大變だつたのよ。あれから、あなた達と入れ違ひに又お客があつたんでしよ。それが早うお歸んなさいと言つても動かずに明るくなるまでべらべら饒舌つてゐるのよ。あたし床い就いた時はもう七時すぎよ。

——とに角繁昌だな。

——ふゝ。あなたとこの店はどうなのよ。よその喫茶店ばかり廻つて歩いてさ。そんなことをしてゐたら損ばかりするわ。

——毎日損ばかりしてゐるのさ。毎日の賣りあげはそのまゝ右から左さ。

——こつちへお出(い)でよ。こつちの方が火が澤山あるのよ。

三人は火の澤山ある方へ席を代える。レモン・テイが運ばれる。亂暴な口を利く女だなと私は女のことを考へる。氣安い客とぞんざいな口を利くのがかうした女の常識らしくも思へる。訊けばこゝの店の妹娘なのださうであるが、ちよつと可愛いゝ顏をしてゐる。感じが意外にも素直で純なところが見える。人の顏を上目使ひに凝乎と瞶める癖がある。右手の

中指には細い指輪をわざとらしくなくさしてゐる。小柄な方である。十八才にはならないらしい。

――あなたとこのナプキンはどうしたのよ一體。――女は饒舌り續ける。――あんなに澤山お客に奪られちや駄目ぢやないの。この間、懐に一杯とつて來てあたしに見せびらかしてゐた人があるのよ。スペンプが押してあつたので、すぐあなたとこの店のんだといふことがわかつたわ。

――ふゝん。誰だい。

――ナプキンなんて、ちよつとしたものだと思つてゐたら大的違ひよ。あんなものでも積つてみれば馬鹿に能きないのよ。もつと商賣氣を出さなきや駄目よ。

――ほんとうよ。――この女の母でこの店の主婦である女が側から口を出す。眞綿のやうによく屋えてゐて、所謂よくさばけた小母さんといふ裝態をしてゐる。――もつと早う聞けば、喫茶店なんか決してするんぢやないと忠告してあげるところだつた。高い家賃を拂つて、安いコオヒを賣つてさ、こんなもので、儲けやうなんて考へたら駄目よ。どうなるもんか。損ばかりよ。夢野さんやあなたなんか面白半分なんだから氣樂でよいかも知れんけれど、全く痛い商賣よ！もつと賢く細かく廻らなきや屹度食ひ込みよ。ナプキンなんか出しとかなきやいゝのに。

――ぢや、敎へに來てもらはうかな。

――えゝ。行つてあげるわ。――女が口を出す。

――來てくれ。待つよ。ほんとうに近いうちに一度遊びにお出でよ。

――えゝ。行くわ。田中さんがコオヒを出す恰好なんかを見てやりたいわ。感じのいゝ家だつてね。ロダンなんて、ちよつと氣の利いた名をつけたわ。

私は空虚な心で皆んなのお饒舌を聞いてゐる。女の姉だといふのが二階から下りて來て、待つてゐた二人の學生と一緒に出かけてゆく。派手な風をして、白い顔で、長い眉で、心持尖つた細い鼻で、おきやんな女である。何だか輕い反感を覺える。皆んなはそれからも話し込む。二度三度、私達は飲物を變える。

話のちよつとした切れ目に、女は立ち上つて、小さい手箱を持つて來て丁寧に膝の上で開く。

――あたし、ずつと以前からマツチのレツテルを集めてゐるのよ。

この女は未だまだ子供である。客の前で平氣で自分の玩具を擴げて見せるほど子供である。私はちよつと意外なものを見るやうな氣持で女の手元を見る。この女が未だ玩具を有つてゐるのかと驚く。否。私は、結婚してから未だ三年間は人形を大切にしてゐて、夫と人形とのことを等分に考へ乍ら、この冬はあのお人形にどんな着物を着せてやつたらいゝか知らと、眞面目に夫に相談したといふ女のことを聞いてゐる。女は結婚してもいつまでも子供であれば可愛いゝ。(其の昔エデンのマヅ)はあんまり可愛いゝ女ぢやなかつたらしい。心臟が破れてゐるのはほんとうだ。女が向ふ見ずに智慧を求めると即座に悲劇になる。玩具には邪氣がない。女と玩具とは新時代の象徴だ。女は子供と動物とのあひのこだと言つた北歐人までである。(喫茶店の娘とマツチのレツテル)は佛蘭西流の氣の利いた短篇の材料になりさうだなどと、ぼんやり考へる。私はこの女に好意が有て出した。女は大切にしまつた澤山のレツテルの中から、これは奇麗でしよ、これはあたし大

事にしてゐるのよと、一枚々々選び出して二人に見せる。私も手にとつて見ないではいけないことになる。

——こんなに澤山どうして集めたのさ。——私も訊いてみる。

——友達に頼んでもらつて來てもらつたり、自分で集めたり。これでずゐぶん苦心して集めたのよ。(青い塔)のはこれよ。

(青い塔)といふのはやはり喫茶店かカフエーかの名であるらしい。(青い塔)といふ詩の雜誌を出すといゝなと、夢のやうに考へてみる。否、(黒い旗)といふのにしたらどうだらう。こんな名の雜誌は賣れないかな。

時計が夕方を報らせる。私は女から汽車の時間表を見せてもらつて、時間を計る。二人は再び街路へ出る。女が明るい印象だけを殘してのれる。

夕暮の街が美しい。美しいと言ふよりは酷く印象的だ。惡くはない一種の峻感がある。夕陽の射光が親しく街路に落ちてゐる。射光に映えて、建物と人とがきらきらする。走る自動車が一瞬間藝術品に思へる。人間が美しく、生活が樂しく、都會が輝いて見えるひとときである。空氣は水晶と同じの爽やかな感觸を有つてゐる。空は冷たいが水のやうに澄明である。生活の呻きは聞えないで、新時代の歡聲が聞え初める。百貨店の紙包を下げて、大股に急いでゆく若いアメリカ人の夫妻がある。電車と子供とが通る。子供は手編みのセエタアを着てゐる。色は上等である。亂れた雜沓も今は氣持がいゝ。

——停車場まで送つて行かうか。

——いや。いゝよ。何だか一人でぶらぶら歩いてゆきたい氣持だ。うんと仕事がしたくなつたよ。ちつとはましなものを書いてみたいよ。世界は動いてゆくんだからな。

——うむ。——田中は思ひあぐんだやうに遠くの方へ目をやる。——もう直ぐ春が來るな。

——さうだな。——私の目にはずうつと續いた兩側の街が何だか自分と極くごく親しい交渉を有つてゐるものやうに思へる。——春を樂しむとは可愛らしいな。

——俺もいゝ仕事がしたいのさ。

(何時までも描かざる畫家ではあまり寂しすぎる。)

私は唇まで出かゝつたかうした言葉を默つて飲み込む。

——描かざる畫家つて俺のことだよ。——彼が投げ出すやうに言ふ。——但し、食へないかと註がつくのだ。

そこで、とある街路の角で、二人は別れる。私は獨りを樂しみ乍ら、停車場の方へぶらぶら歩いてゆく。

(……喫茶店ロダンよ、うんと繁昌しろよ。うんとコオヒを沸かさなきやいけない。そして、田中にうんといゝ繪を描かしてやれよ。……)

不圖、私はもうすつかり黄昏れた街路の眞ん中で、こんなことを聲には出さないで獨語つ。そして、樂しい明るい氣分になり乍ら、胸をはつて、明日からいよいよ書き出さうと思つてゐる長篇の、その難しい第一行目を、考へるともなく考へ乍ら、うつらうつら歩いてゐた。



溪舟選

かるたんで支那饂飩食ふ皆ンな哉　翠松
かるた會艙の音近き濱座敷　水驛の橋過ぎて春の山路哉　きた
かるた取花簪や落ちにけり　春の山水に迫りて並びけり　如于子
僧正の頭をかしきかるたかな　松にある荒神の住連や春の山　なつじ
かるた會蜜柑の皮の狼藉と　松叢の黑きが上や春の山百六
大床に梅活てありぬかるたの夜　春の山麓平らに工場村　魯堂
かるた會にお對着てきぬ姉妹　新年雜咏
歌かるた取をへてどよむ笑かな　初夢の窓紗綠に明にけり　僧徹
物ふれて琴の自鳴りやかるたの座　初夢を餅やき〳〵に語りけり　魚の目
かるた讀む聲窓明き灯影哉　初夢の赤き枕や姉妹　洞泉
強敵と見らるゝ誇かるた會　寡居
　春の山　暮てなほ凧の唸りをきゝゐたり　杉子居
春山に倚る二三家や灯したり　奴凧ボヒラの風にきほひけり　白蛾
雨雲のうするゝ處春の山　初霞あるが如くに野にありぬ　孤影
水驛を離れて低し春の山　何んでもなく晴た此日の二日哉　流
新しく建つる祠や春の山　花歪んでも構はず書きぬ筆始　黃山
春の山暮がて月に下りけり　○
春の山陶窯を築く僑居哉　寺提灯ともして春の山を下る　選者
春の山足袋並べ乾す垣根越し　春山に栖ゐて竹を養へり
路すでに大和に入るや春の山　かるた會餘技のピアノも興じられ
醒めて人の欄にあるや春の山　汁粉腹ひそかに重しかるた取り
春の山大藪に寺見え隱れ
春の山草山にして水構ふ　井人
春の山赤土山を續きけり　朗蘭士
春山一路鳥啼いて落椿など　越陵
夜を掃く僧のうしろや春の山

次の間の隱居炬燵やかるた取り　杉子居
取べたの讀役つゞく疲れかな
彼の人の白き手目立つかるた哉
むべ山をとらむず敵の眸かな　孤影
下戶の醉かるたの灯やゝ更る
かるた尙半ば隣は蓄音機　香坡
かるた會果てゝ門出ぬ月凍る　春雄
繪屏風に灯し連ねてかるた會
たをや女の手の鋭さやかるた取
一人立つて水呑にゆくかるた哉
繪更紗のカアテンに灯りかるた會

句募を

■課題『春雨』『暖か』（各五句　各題別紙）
■期日　二月十五日
■屆先　北區堂島濱堂ビル日本建築協會

俳句とは

溪舟

1

俳句を作つてみたい、俳句を作るには何うすればよいか、そのコツを教へて貰ひたい——

かういふやうな事をよく訊かれることがある訳かれるたびに、私は『さあ』と云つてまづ當惑してしまふ。

それはなぜであるかと云ふと、俳句を作るといふ事は極めてたやすいことであるが、また極めて困難なことであるからだ。つまりそれは、飯を炊くには何うすればよいかと問はれた時と同樣な感じで、飯を炊くといふことは決して左樣に難かしい事ではないのだがよく考へてみると、之はなか〳〵たやすい業ではないとも思はれるのである。

しかし、もう一つよく考へてみると俳句を作るといふことは、その作句をしてみようといふ氣分がすでに俳句の趣味に合致してゐるもので、その『何うすればいゝか』といふ心持が、その第一頁へ指を觸れてゐるものであると見ることもできる。

私は、その人の、その心持を土臺として、俳句趣味の方へその人を引よせてみたいと思ふ。

2

俳句の云草は、まづ禪の云草と同じであると云つてもよい、曰く『そのまま』である。在るがままでいいのである。それを育ててゆけば、立派な俳句の天地、情趣の境涯をひらく事ができる。

俳句は自然と人事を端的に詠嘆してゐる詩であつて、和歌の『心を種として』とは少し立場を異にしてゐるやうである。心を種として、といふのは、自然や人事が、その詠み手の心に映つたものを、心で咀嚼して、これを種に詞に巧んで現はすのであらうが、俳句はその位ゐ廻り遠く考へる必要はないやうである。自然と人事、それを見たまま詠すればいいのである。この點になると和歌は影琢を要するやうであるが、俳句は更に短かい詩形でありながら、實際は却つて荒削りでもよいのである。いや、荒削りに出來上つてゐるのである。つまり和歌はリリアイに都會藝術味を多くもつてをり、プルジュア味を濃くもつてゐるが、俳句は農民藝術、素人藝術で民衆味を澤山に所有してゐる事は、現在もなほ昔と同じやうな傾向にあると云へぬ事はない。

3

俳句を作らうと思ひついてゐる人達が、俳句をさながらに難かしいもののやうに考へてゐるほど、左樣に俳句は取つきにくいものではないが、和歌者流が『俳句なんか』とバカにしてゐるほどツマラないものでもない。つまる處これは歌と句の對自然、對人事の考へ方、見方が異ふところからきた事で、俳句の心持は、和歌のやうな感傷的ではない(大よその場合)同じ感情の表現にも、和歌のやうに自然人事に感情の衣裳や色彩を添加して出す事はめつたにない、自然は自然、人事は人事そのままを提げてきて、却つて他の感情の前に置くだけである。この提げてきた自然人事の中に、もし自然人事として美的興趣が存するならば、それは對者が判じてくれる、鑑賞してくれる——それが俳句の心境であり、また態度である。

しかし、これは全然さうであると云切る譯ではない大よそに左樣であるといふのである。

4

故に、俳句を作るといふ事は、自然や人事をそのままに提げてくる詩的行動であると云へる。畠から土大根をぬいてくるのである、芋を掘つてくるのである。それを水で洗ふのはよい、皮をむく位ゐまではよいかもしれぬ。切つたり煮たり料理をもたりするのは和歌や他の文藝の境涯にある。俳句はそれをやつてはいけないといふ理由は一つもない。けれども俳句の短かい詩形では、心持ではそれが何うも出來にくい。出來にくいが、大根と芋はぬいてきた丈け、掘つてきた丈けで、それで十分大根であり芋であるに相違ないのである。から、決してその本質的價値が減じてゐる事は萬々ない。これが大根であり、芋であつて、大根には大根の價値があり味ひがあり、芋には芋の價値があり味ひがあることを認めてくれるのは、即ち對者の判斷にある事なのである。

俳句を作らうとする初心者は、この大根をぬく方法芋を掘る方法を何うすればいいかが分らないと思つてゐるのである、が、その人達はつまり、自分達がふだんに使用してゐる言葉をもつて、ふだん考へてゐる心持、眼にくる自然、人事、それをまづ出放題に並べてみる事がいいのである。出放題の中に必ず詩がひそむ——大根や芋の畠に通ずる路がひらけてゐるに相違ないのである。

私はその初心者の、この俳句欄に臆面ない投稿を試みることを望むものだ



◎帝都復興の現狀

東京市を安全地帶に建直すと云ふ土地區劃整理は、其聲ばかりで一向捗どらず、やるのかやらないのかと燒失區域内の市民は、永久的建造物の計畫に迷つてゐるが、今年は復興局や東京市が此土地區劃整理をどんな風に進めるかと云ふと昨年は街廓の設計を終り、現況の調査の完了した地區から順次換地の設計に從事してをり、既に六十六地區中三十四地區は設計を完了し、委員會に附議して、内八地區は委員會で決定を見たので、殘りの三十二地區は愈々本年の二月迄に全部設計を終る見込で進むことになつた、既に移轉命令の發せられてゐるのは第六地區、(神田駿河臺方面)で他地區でも本年早々此命令が發せられる運びとなつて居るから、昨年は區劃整理の第一段階である設計時代であり、本年は其第二段階たる整理執行時代に入つた事になり、本年こそは目に見えて仕事が運び、區劃整理の實體が現れて來る譯である右に就て稻葉整地部長は語る「區整の事業を大別すると設計と整理の執行との二段階から成つてゐて、施行地區内の面積、土地價格權利關係、建物、地下埋設物等を詳細に調査し更に幹線及び補助線街路、運河、公園、市場等の施設や住居、工業、商業等の區域の種別を基準として街廓の設計をなし、次で各街廓内に從來の宅地を形の正しいものとして收める、所謂換地の設計を作りこれを地區内の土地所有者及び借地權者から夫々選擧された委員で組織する區劃整理委員會の議に附し、其意見を聞いて決定するまでの仕事が第一段階の仕事であり、此の設計に基き建物其他工作物の移轉、道路、地下埋設物、障害物等の整理に關する工事、町界、町名番地等の整理の執行は第二段階の仕事であるが、換地の設計はなか〳〵困難で、假へば現況調査にしても千萬坪からある土地を短時日の間に實測しなければならないし又廿萬棟からの建物について一々其實際を精査しなければならぬ、土地についても臺帳、登記簿申告書等を渉獵して權利者を調査尚震災後に於ける各種の變態的權利關係を明かにせねばならず、土地の評價の根基の作り、新に路線價に基く評價方法を創案して各宅地を合理的に評價する等一通りの苦心ではない、委員會で換地設計を決定した地區は、更に精密な實測を遂げ、境界や借地權界に杭打ちをし、三箇月の猶豫期間を設けて移轉命令を發するが、今年は愈々此移轉命令を順次委員會決定の分から發する運びとなつてゐるから自分は此年の初めを單なる年の初めとして祝さずに、大事業の愈々實現される記念すべき年頭として祝賀するものである」

◎市街地建築法改正

十五日官報内務省令を以て大正九年十月内務省令第三十七號市街地建築物法施行規則中左の通り改正發布された

第四十條中「煙突の高さ」を「煙突の高さ及口徑」と改む

第四十條の二、地方長官は機關其他多量の燃料を使用する設備に對し其燃料の種類量及土地の狀況に依り煤煙を發せざる設備を命ずることを得

附則本令は公布の日より之れを施行す

◎都計法新施行都市

内務省では客臘來一宮、岡崎、大垣、高岡長岡、津、松本、大分、佐世保、高松の十市に新に都市計畫法を適用すべく勅令案作成中であつたがいよ〳〵大臣の決裁を得たので十四日法制局に廻付したから近く公布實施されるだらう

◎住宅過剩の珍現象

數年前から叫ばれた住宅難、殊に震災直後それが極度に甚だしかつたゞけに今も現實の生活苦として強い響きを持つか、事實は昨年秋頃から住宅難は非常に緩和されてきて家賃も一と頃に比し一割乃至一割五分下落した、東京市社會局住宅紹介統計に現れた處によると震災直後の十二年十二月の一日平均は貸家七、五二に對し、借り手四四、四三(需要は供給の約六倍)貸間一五、七〇に對し、借り手六四〇〇(需要超過四倍強)であつたものが、昨十三年十二月の一日平均は貸家一三、四三に對し、借り手二一、二一(需要超過一倍半)貸間一三、四三に對し借り手二七三四(需要超過二倍強)と需給は殆ど逆轉

した、家賃が下押傾向を取つてきた主なる原因は經濟界の不況と郊外住宅の發展過剰が數へられるが、現在では家賃が一頃に比し一割乃至一割五分の下押を見たばかりでなく、鬼家主が敷金撤廢を斷行して、佛家主と軟化したと云ふ事實も方々かな聞かれるやうになつた、市の紹介統計には此頃八十圓乃至百圓以上と云ふ上流向空家が續々現はれる、これは節約の爲めに大抵手廣い家を空けて、廉い貸家に赴くことを語る、貸間も續々增加の傾向だが、これは家屋經濟から貸間札を出す向が多く、又夫婦二人暮し位の家庭であると家を疊んで間借りするのが多いから需要も多い、但し貸間は自炊可一疊に付市内二圓五十錢、郊外はその一割五分安、賄附一疊に付二圓と云ふ昨春來の標準に下らぬが、これも家賃下落に順應して早晩下落は免れぬこと勿論である市の紹介に現はれた面白い事實は假に家主が紹介票に八十圓と記入して置く、一週間經つても借り手が來ない、そこで家主は票面の數字を七十五圓と書き換へる、最近斯うした家主が遂に八十圓の家賃が六十三圓で契約濟みになつたと云ふ事があつた、それで今後は借り手の腕次第で隨分値切り倒すことが出來る、鬼店子の世が近づいた譯だ、市社會局の吉野住宅紹介主任は語る『市内はまだ需給關係で多少の住宅難もあつて家賃も相當高いがそれでも手廣い家は大分空が多くなつて家賃も下つて來た、郊外は昨年中出來た住宅が府下全體で三萬六千七百八十八戸前年來に數倍する建て方で、郊外は住宅過剰建築會社は畑の上に家を立腐らせてシリ〳〵してゐる有樣、今後家賃は下るの一方だ、この四五月先には住宅難は全く跡を絶つだらう』

◎東大圖書館再附

ロックフエラー氏から寄附された四百萬圓の使途を一任された東大圖書館の三管理委員古在總長、姉崎館長、圓塚磨氏は直にその具體的方針を相談することゝなつた、これについては大學議決機關議決を經た上でなくては確定を見れい譯だが、大體姉崎館長の腹案は左の通りである。敷地は從前の場所を中心として二千坪で四階建の鐵筋コンクリート耐震と防火設備に最も意を注ぐ外に電車通りに接近して從來同館が一番惱んでゐた音響の矯止には十二分の注意をする外、電力應用の粉塵取收と消毒設備を施し無線、電話も取つけ約七百人收容の大閱覽室を加へて我國では見なかつた個別的、閱覽室を設けよは學者學生その他訪邦の外國學者が獨占的に部屋を占有して閱覽研究する室も數多取附けるやうである、工事はこの夏から取かゝり二年半の時日を要する見込である政府の圖會館復興費約百三十萬圓では極めて不完全な設備しか出來ず、なほ且つ本年中には到底工事に着手することさへ難かしかつたのに思ひがけない好都合を濟したものである、なほ寄附金の一部を割いて歐米、印度、支那方面から寄贈の書籍寫本を買入れ永久に記念の意を示すさうである、寄附金と政府の豫算合せて約五百萬圓あれば、世界に誇るに足る立派な圖書館は先づ設立される見込だと

◎本建築の建造

帝都の復興は興行物から始まつたといふ本建築の物としいへば帝劇あり歌舞伎座あり、邦樂座あり、四月頃には新橋演舞場が市村座の引越し興行菊五郎一派の芝居が年三四回づゝ定期的に興行するといふからコレも本建築の劇場に勘定していゝだらう、劇場以外にこれを見ると淺草の活動常設館がバラックなるが故に——今となつては感じの余りよろしくない——却て市内館へ客を拐ばれるのではないかといふ疑ひさへ起つてきてゐる、これは物見以外の客の潮流を調べた松竹が早くも心づいたと同時に淺草公園に興行場を幾つももつてゐる新井與四郎君などは名譽職などをして市政に關係してゐるだけに早くも氣がついた、そこで先づ本建築を以て客に滿足を與えればならぬとしてそろ〳〵その計畫にかゝり出した、新井君がもつてゐる數ある興行場の中で第一に手をつけるのは淺草電氣館らしい、多分今年の夏、客足のよろしくない時季をはかり、約三ヶ月間で鐵筋コンクリートの本建築を始めるらしい、但しまだ此話は具體的になつてはゐないが十中八九は實現されるさうなると競爭上外でも其の儘指を咥へてゐられなくなる、我も我もと屹度やり出す、之は犧牲を拂ふ事になるだらうが兎に角もやり出す、そして淺草六區の興行街は恐らく東京のどこよりも早く本建築の街となる、貸席は一時雨後の筍の如く出來過ぎて今日は困つてゐる、多きが故に賃貸料が引下げられてきた一夜十五圓の借り料は珍しくない五圓でもある勿論それは正面からの値段ではないが裏へ廻ればそんなのもある、しかしこれも追ひ追ひに自然淘汰が行はれて行くらしい、由緒の古い藏前の植木屋などは余程前に復興してゐるが常盤木俱樂部はまだだ、日本橋俱樂部は從來の殿樣俱樂部でなくもつと民衆的に方針をたてゝやがて實現する筈だといふ、今のところ帝國ホテル演藝場を始め二三あるがいろ〳〵の缺點や不便がある、この間にあつて漁夫の利をしめたのは萬世橋ヤーケット演藝場である、これも日本橋俱樂部が出來ると現在の如く萬世黃金時代が一變しないとも限らない、寄席はバラックでも本建築でも大した差がない、立派になればそれだけ居心がいゝ譯だが一昨秋前と雖もバラック型の物があつた、それに滿足してゐたのだからこの方面には格別のあらはれない——先づ帝都の復興は劇場に始まり次が以上の如く淺草六區これは先づ今の處確な話しだ

主要建築材料値段

◎**耐火リノリウム**　市内施工
大阪耐火リノリウム會社
チョコレート色　四分仕上坪　八、五〇〇
褐　色同　同　八、五〇〇
赤　色同　同　九、〇〇〇
青　色同　同　三、〇〇〇
マグネシアセメント市内倉庫渡し　一トンニ付　九、五〇〇
ドロマイトプラスター　同　八、〇〇〇
一號品　一タル四切半　七、〇〇〇
三號品　同

ストロブロック（模造天然石）工事中
寒水石大理石類　尺坪　八五
花崗石類　同　一、二〇〇
防水劑ボースイ　一封度入　一、五〇〇
三封度入　二、三五〇
五封度入　三、〇〇〇
四〇封度入

◎**リノリユーム**　英國子ーアン製
奥村重兵衛商店
巾六呎　長九〇呎（十五坪巻）　一坪ニ付　七、八〇〇
X　一、九ミリ　同　八、六五〇
E　二、二同　同　三、〇〇〇
B　三、〇同　同

◎**ウオールボード**
英國ゼームス純製　一坪　四、二〇〇
寸法　巾三呎　巾四呎
長六呎　長八呎

◎**メタルラス**（和製）
廿六番　巾二呎長六呎　一枚　〇、四八〇
廿四番　巾六呎長六呎　同　〇、五五〇
廿　番　巾三呎六六呎　同　三、〇〇〇
十八番　巾三呎長六呎　同　三、八〇〇
十三番　巾五呎長六呎　同　四、八〇〇

◎**壁紙**
英國製　巾一尺七寸　長三十六尺（張上約一坪五合）　一巻　一、〇〇〇以上各種
米國製　巾一尺五寸　長五十三尺（張上約二坪）　一巻　一、二〇〇以上各種

張手間　一坪　一圓四十錢以上

◎**金屬天井**
材料　蛇腹　逃板付　一坪　三、〇〇以上
同　逃板ナシ　同　一〇、〇同
張工賃　同　二、〇〇同

◎**日の出印便利瓦**
日本建築紙工　大阪出張所
半號　巾三尺二寸　長七十二尺　附屬品及ペイント添　一巻　四、五〇〇
一號　一巻同　七、五〇〇
二號　一巻同　一一、五〇〇
三號　一巻同　一五、五〇〇

◎**鶴印便利瓦**
半號　一巻　巾三尺二寸　長七十二尺　附屬品及ペイント添　一巻　三、五〇〇
一號　同　同　五、五〇〇
二號　同　同　八、五〇〇
三號　同　同　一一、五〇〇

◎**日の出印砂付便利瓦**
半號　一巻　巾三尺二寸　長七十二尺　附屬品及ペイント添　一巻　六、〇〇〇
一號　同　同　九、〇〇〇
二號　同　同　一三、〇〇〇
三號　同　同　一七、〇〇〇

◎**日の出印建築用紙**　ピルヂングペーパー
一號　一巻　巾三尺二寸　長七十二尺　三、〇〇
二號　同　同　四、二〇〇
三號　同　同　五、三〇〇

◎**日の出印パーマネントルーフ井ング**
一號　巾三尺長三十六尺　三十六坪ヲ以テ一巻トス　坪平方尺七、〇〇〇

◎**日の出印衛生疊下用紙**
一號　一巻　巾三尺二寸　長七十二尺　三、二〇〇
二號　同　同　四、四〇〇

◎**日の出印瀝靑**（モスパービール）
一號　一枚　巾二尺八寸　長三尺二寸　一、三五〇
二號　一枚　同　同　一、三〇〇
三號　同　同　五、三五〇

◎**日の出印アスファルトフエルト**
一號　一巻　巾三尺二寸　長七十二尺　三、二〇〇
二號　同　同　四、二〇〇
三號　同　同　五、三五〇

◎**スレート**
淺野スレート販賣株式會社

灰白色　一六吋　一枚ニ付　一、二〇〇
同　一二吋同　一、二五〇
同　八吋同　〇、九八〇
灰黑色　一六吋同　二、三五〇
同　一二吋同　一、六三〇
同　八吋同　〇、八三五
董　色　一六吋同　二、三五五
同　一二吋同　一、六三五
同　八吋同　〇、九三五
赤　色　一六吋同　二、七〇〇
同　一二吋同　一、九六〇
同　八吋同　〇、九八〇
二吋　一〇、三〇　一二、五〇　一三、〇〇

◎**一文字葺**（十六吋角ニッ切使用）
葺　五寸　三、五〇　三、五〇　三、八〇　四、五〇
足　五寸五分　三、五〇　四、五〇　四、八〇　五、五〇

◎**淺野波形板**
長六尺　巾二尺二寸　一枚　三、三〇〇
長七尺　巾二尺二寸　同　三、八〇〇
附屬亞鉛木捻釘一本　〇、三五
長六尺　巾三尺厚一分五ノ一枚　二、八〇〇
長六尺　巾三尺厚二分一枚　三、三〇〇
附屬銅鋲　一本ニ付　〇、〇六
同亞鉛寸釘　同　六毛
同　銅釘　同　〇、〇三

◎**菱形葺十六吋角使用**
重　ネ　灰白　灰黑　董　赤
二吋半　七、五〇　八、三〇　八、三五　八、七〇
三　吋　七、九〇　八、五〇　八、七〇　九、二〇

◎**同上十二吋角使用**
二　吋　九、二〇　一〇、一〇　一〇、六〇
二吋半　一〇、〇〇　一〇、八〇　一一、〇〇　一一、五〇

◎**鋼瓦板**　巾一尺　長一尺二寸
井筒牧藏商店（大阪）

名稱　一枚目付　薄增値　單價和
自拾二代　一二〇匁　建値　壱、〇〇
至八代　八〇匁　壱、〇〇
七代　七〇匁　壱、〇〇
六代　六〇匁　四〇〇　七、〇〇
五代　五〇匁　八、〇〇
四代　四〇匁　六、〇〇
三代　三〇匁　三、〇〇
二代　二〇匁　二、〇〇
同　店

◎石綿盤葺上標準値段

（一面坪單價）
野澤幸三郎商店
網目葺（菱形）フエルト一號品敷込材料手間賃共
色合　十六吋角　十二吋角　八吋角
寸法　十六吋角　十二吋角　八吋角
灰白色　一、三　各色共　十六吋
淡黒色　一、三
黒色　一、四　一、五、六　角値段ノ四分ノ一
董色　一、四、五　一、五、九
赤色　一、六、九
綠色　二、〇、二

◎ロツコー瓦葺上標準値段

（阪神間ニテ）
平瓦各號共一尺一寸角葺足九寸
一坪約四十三枚葺、軒先及蟻羽棟伏等道具瓦完備
灰白色、黒色、董色、赤色共フエルト敷込
一面坪ニツキ
棟鬚斗二段半圓形伏　一間　八、五〇
同　同　箱歷振伏　同　三、七〇
鬚　斗一段積　同　五、八〇
綠色ハ三割高

◎亞鉛引平鐵板

		円
月星印20（米一）	品切	一、二四
タヒ印30（米一）	品切	
犬印30（米一）	品切	
三星印30（米一）	品切	一、三三
太陽印30（米一）	品切	一、三三
エビ印20（米二）	品切	
船印30（米二）	品切	一、九〇
月星錨印30（米二）		一、三〇
山星印20（米二）		一、一〇
五寸切レ（米板）		〇、一四
蝶印10（英一）	品切	
ラクダ印20（英一）	品切	一、九〇
地球印30（英一）	品切	一、九〇
赤丸一印30（英一）	品切	
桃印30（英一）	品切	一、七
首印30（英二）		一、四
		一、五五
		二、三〇
		一九、〇〇

◎同浪板

同店

#28	一級品	六尺	〇、九八
#26	一級品	七尺	一、一六
#24	一級品	八尺	一、二九
#22	一級品	百斤ニ付	

#30		六尺	一、三二
#30		七尺	一、二〇
#30		八尺	一、七

各參錢上り

◎材料の部

石綿スレート株式會社大阪支店

#28	灰白色	十六吋	角	一枚　〇、三一〇
	淡黒色	十二吋	同	同　〇、一四三
		八吋	同	同　〇、〇五五
#28	灰黒色	十六吋	同	同　〇、二四〇
		十二吋	同	同　〇、一五六
		八吋	同	同　〇、〇六一
#28	董色	十六吋	同	同　〇、二四五
		十二吋	同	同　〇、一九五
		八吋	同	同　〇、〇六一
#28	赤色	十六吋	同	同　〇、二五〇
		十二吋	同	同　〇、一九五
		八吋	同	同　〇、〇六一
#2426	綠色	十六吋	同	同　〇、三一〇
		十二吋	同	同　〇、二〇三
		八吋	同	同　〇、〇八八

#28	六尺	各尺百斤ニ付	七、〇
#28	七尺		六、五〇
#28	八尺		
#30			

◎葺上標準値段

（一號アスフアルトフエルト下葺銅鋲、亞鉛鍍鐵釘使用手間賃共）

◎菱形葺（網目葺）十六吋角使用

	重ヂ	灰白	淡黒	黒	董	赤	綠
二吋半		七、五〇	八、一〇	八、三〇	八、七〇	一〇、三〇	
三吋		八、〇〇	八、五〇	八、七〇	九、一〇	一〇、七〇	

◎同上十二吋角使用

二吋	九、二五	九、八五	一〇、二五	一〇、六五	一三、四〇		
二吋半	九、九〇	一〇、七〇	一〇、九五	一一、三五	一三、八〇		

◎同上八吋角使用

二吋	一〇、三五	一一、一〇	一一、三五	一一、九〇	一三、八〇		

◎一文字葺（額飾共）二吋角二切使用

葺足	灰白	淡黒	黒	董	赤	綠	
五寸五分	一一、五〇	一一、八〇	一二、五〇	一三、八〇	一六、〇〇		
五寸	一二、三五	一二、五五	一二、八五	一四、五五	一七、三五		

◎パイプ

金剛商會大阪支店

	厚サ	長	價格
内經		六呎	一、二〇
二吋	四分ノ一吋	同	一、七〇
二時半	同	同	二、〇〇
三吋	十六分ノ五吋	同	二、五〇
三吋半	同	同	三、五〇
四吋	八分ノ三吋	同	四、五〇
五吋	同	同	七、〇〇
六吋	二分ノ一吋	同	

◎金剛板

巾三尺　長六尺　一枚ニ付

	重量	円
二分	五貫二五	三、六〇〇
三分	七貫五〇	五、六三〇
四分	一〇貫五〇	七、五〇〇
五分	一二貫七五	九、七五〇
六分	一五貫〇〇	二、二五〇

◎金剛ストレート（葺上値段）

色合	十六吋菱形	円	八吋菱形	円
灰白色		七、〇〇〇		一〇、〇〇〇
黒色		七、五〇〇		一〇、八〇〇
スミレ色		八、〇〇		一一、五〇〇
赤色		八、五〇〇		一二、五〇〇

大阪及東京渡値段

◎アラバスチン會社製品

田中源太郎商店

性質	品名	種類	
水性、壁、塗料	アラバスチン	白	單價
電略	容器		三、三
アシ	五封度入		各色
同			三、八
アイ	同		

同　同(樽入)　白
アク　三五〇封度入　格安
同　同(樽入)　白
アク　一〇〇封度入　格安
シミ止　アラバスチンコーター
アコ小瓶入　二
パテ材料　アラバスチンパテ
アハ小袋入　一〇六
型紙　アラバスチンステンシル
アス　四〇ヨリ　一、三〇迄

インピリアルバニス及エンタアプライズペイント會社製品

性質	品名	種類	
艶消ペンキ	赤三角又ハ紅葉印サテン艶消ペンキ	各色	
電略	容器	單價	
エサ	一ガロン入	一、五〇〇	
同	同	同	
エテ	八分ノ一ガロン入	二、四〇	
ジンクペンワンダー代用	外部用ホワイト	白	
エカ	一ガロン入	一〇、八〇	
同	紅葉印コーバルバニシ		
コイ	一ガロン入	六、五〇	
同	ワンダーホワイト	艶消白	一〇、八〇
エツ	一ガロン入		
同	同	同	
エケ	二分ノ一ガロン入	五、七五	
エナメル代用	ワンダーホワイト	エナメル白	
エナ	一ガロン入	一一、一〇	
同	同	同	
エル	二分ノ一ガロン入	五、八五	

自動車塗料　ホートフイニシュ　各色
エオ　八分ノ一ガロン入　三、三〇
コンクリート塗料　コンクレライト　各色
エコ　五ガロン入　四九、八〇

◎ルーカス塗料會社製品

性質	品名	種類	
汽車屋根塗料	ルーカスルーフセメント	黒色	
電略	容器	單價	
ルセ	一ガロン入	四、七五	

シエツドウオータープロダクト會社製品

性質	品名	種類	
リノリユームホワイトリノリ防水塗料	ユームパニシュ		
電略	容器	單價	
ウリ	四分ノ一ガロン入	三、八五	

◎防水劑

日本セメント防水劑製造所

ウオータイト　一〇ポンド入　五、五〇〇
同　七〇ポンド入　三五、〇〇〇
ウヰツクウオータイト　一〇ポンド入　六、〇〇〇
同　六〇ポンド入　三〇、〇〇〇

◎木材其他

田村商會(神戸)

◎金屬天井

平板　一坪ニ付　九、〇〇以上
蛇腹　長サ六尺物　一、〇〇以上
鈕飾　同　六〇以上
中眞飾　同　三、五〇〇以上

◎建築用壁紙

パプコボード　一尺平方　一、五〇
アイボリボード　同　一、五〇

◎メタルサイデング

平飯石角　一坪ニ付　八、五〇〇

◎メタルラス(引伸金網)

船來品#26　一坪　二、八五〇
船來品#24　一坪　三、二〇〇
和製品#26　同　一、五〇〇
同　#24　同　一、六〇〇

◎米松角材(木場渡し)

大角材　一八吋角上　長　二四呎以上　一、〇〇以上
中角材　一二吋角上　長　二四呎以上　九五〇以上
小角材　取合　一〇吋角　長一三呎　一〇呎　八五〇以上
　　四吋角　四吋四分ノ一角　長一三呎　一〇呎　九〇〇以上
　　四吋四分ノ三角　長一三呎　一〇呎　九五〇以上
平材No.8　厚六吋巾一二吋上長二〇呎　一、四五〇

◎米栂角材

大角材　一〇吋角上　長二四呎上　一、〇〇以上
小角取合　一〇吋角　長三呎　八五〇以上
四吋角　四吋四分ノ一角　長三呎　九〇〇以上
四吋四分ノ三角　長三呎　二〇呎　九五〇以上

◎米杉(尺〆一本ニ付)

丸太　一等級　末口一八吋上長一三呎　一五、五〇〇
割材一等級　——
平材NO1　——

◎米檜(尺〆一本ニ付)

丸太NO1クリヤ級末口二四吋上　長一三呎　二七、〇〇〇以上
同　末口一八吋上　長　一三呎上　一一、〇〇〇以上
米松床板(神戸同店渡し一延呎ニ付)　〇、四五以上
巾六吋マーチヤンタブル級　〇、六八以上
巾六吋板目無節　〇、六五以上
巾六吋柾目無節　〇、六五以上
上巾四吋板目無節　〇、五〇以上
巾四吋柾目無節　〇、五〇以上
同　二等級　同　二、〇〇〇
同　三等級　同　七、五〇〇

◎樞、椿、赤樺、白樺、櫻、栓、

(建築家具用)

新田ベニヤ製造所

三枚合、片面　巾二尺以上ハ厚サ一分五厘ノ(十六分三)
巾二尺一寸以上ハ厚サ二分(四分一)
何れも一平方尺ニ付キ

巾	長	青二ツ星	青一ツ星
一尺	六四寸	三、三〇	三、三〇
同	同	三、二五	三、二〇
同	六尺	三、一〇	三、〇〇
同	同	三、〇五	二、九五
同	同	三、〇〇	二、九〇
同	同	二、九五	二、八五
同	同	二、九〇	二、八〇
同	同	二、八五	二、七五
同	同	二、八〇	二、七〇
同	同	二、七五	二、六五
同	同	二、七〇	二、六〇
同	同	二、六五	二、五五
同	同	二、六〇	二、五〇
同	同	二、五五	二、四五
同	同	二、五〇	二、四〇
同	同	二、四五	二、三五
同	同	二、四〇	二、三〇
同	同	二、三五	二、二五
同	同	二、三〇	二、二〇
同	同	二、二五	二、一五
同	同	二、二〇	二、一〇
同	同	二、一五	二、〇五
同	同	二、一〇	二、〇〇

◎二等品(家具用)

厚一分九ノ(十六分ノ三)又ハ二分(四分ノ一)

三枚合	片面	代價(一平方尺)
巾	長	表三枚又四枚刈混合
二尺	六尺	三、三〇
同	同	三、〇〇
三、五	同	二、五〇
三、〇	同	二、二〇

◎天井用(一坪ニ付)

巾	長	青二ツ星	青一ツ星

尺	尺	円	円
一、一五	六、四	九、五〇〇	二、五〇〇
一、三五 同	一〇、四〇〇	三、一〇〇	
一、六五 同	一二、一〇〇	四、三〇〇	
以上一分五——厚			
二、一五	六尺四寸	三、一〇〇	五、七〇〇
三、二〇 同		四、八〇〇	九、六〇〇

◎日本間用杉天井板

杉柾、杉本 一坪 一〇、〇〇〇以上
神代杉 同 三〇、〇〇〇以上
屋久杉 同 三五、〇〇〇以上
以上二分厚

◎格天井用（厚一分五厘）

檜榊樺 櫻しな 栓 黄檗		
寸法	樹種	代價
二尺角	青二ッ星	一〇、四四〇
同	青一ッ星	三、六八〇
楓 二尺角	青二ッ星	三、三一〇
同 同	青一ッ星	六、九一〇

◎同 厚 二分

檜榊樺 櫻しな 栓 黄檗		
二尺五寸角	青二ッ星	一五、〇〇〇
〃 二尺五寸角	青二ッ星	一四、二四〇
檜榊樺 櫻しな 栃 黄檗		
三尺角	青一ッ星	一一、八四〇
栓 三尺角		一五、一一〇
檜榊樺 櫻しな 栓 黄檗		
三尺五寸角	青二ッ星	青一ッ星 一九、七二〇
楓 三尺五寸角		二四、七二〇

◎腰羽目用（一枚二付）（一分五厘）

厚 檜榊樺 櫻 なし 黄檗
巾 長 青二ッ星 青一ッ星

一尺三寸五分	三尺二寸	一、〇四〇	一、三三〇
楓一尺三寸五分	三尺二寸	一、二六〇	一、七二〇
檜榊樺 櫻 栓 黄檗			
一尺六寸 五分	三尺二寸	一、三九〇	一、八〇〇
楓一尺六寸五分	三尺二寸七、五		二、一三〇
檜榊樺 栓 しな 黄檗			
二尺	三尺	一、七〇〇	二、二八〇
楓三尺	二尺	一、三〇	二、八三〇

◎同 二分厚

檜榊樺 櫻 栓 しな 黄檗		
二尺五寸	三尺	二、三三〇
楓二尺五寸	三尺	二、八五〇

◎障子腰板用（一分五厘厚）

三枚合 両面 一枚二付
巾 長 青二ッ星 青一ッ星

一尺五	二尺五	九四〇
一尺二五	二尺三	一、一八〇
一尺〇五	三尺一	一、二一〇
一尺一五	三尺一	一、五二〇

◎床地板用（五分厚五枚合片面）

檜榊樺 櫻
巾 長 青二ッ星 青一ッ星

二尺	六尺四寸	八、九〇〇	九、五〇〇
同 樹種			
二尺五寸	六尺四寸	九、九〇〇	一二、八〇〇
三尺二寸	六尺四寸	一五、〇〇	〇一九、五二〇

◎舞良戸及帯戸用（二分厚）

三枚合 片面及両面
檜榊樺 櫻 しな 栓 黄檗
巾 長 青二ッ星 青一ッ星

二尺三	六尺	片	三、九〇〇	五、二〇〇
		両	五、三〇〇	七、〇一〇
楓		片	四、九〇〇	六、五〇〇
二尺三	六尺	両	六、七〇〇	八、七二〇

檜榊樺 櫻 しな 栓 黄檗

巾	長	青二ッ星	青一ッ星
二尺	四尺	三、二〇	四、七〇
二尺	五尺	三、二〇	四、七〇
二尺	六尺	三、二〇	四、七〇
同品	二分厚三枚合片面		
巾	長	青二ッ星	青一ッ星
二尺五	五尺	三、八〇	五、五〇
二尺五	六尺	四、二〇	五、四〇
三尺	六尺	四、二〇	五、四〇
三尺五	七尺	六、八〇	八、二〇
三尺五	八尺	七、三〇	九、四〇
四尺		八、二〇	一、三〇

◎楓

一分五厘厚三枚合
片面 一平方尺二付
巾 長 青二ッ星 青一ッ星

三尺五分	六尺	片	五、九四〇	七、七四〇
		両	八、〇三〇	一〇、四五〇
楓		片	七、五六〇	九、七一〇
三尺五分	六尺	両	一〇、二二〇	一三、二三〇

◎楓柾目（一分五厘又八二分）

三枚合 片面 一平方尺二付
巾 長

二尺	六尺	二、七一〇	三、五二〇
二尺五	同	三、三九〇	四、三七〇
三尺	同	四、〇七〇	五、二九〇
三尺五	同	四、七四〇	六、一六〇
四尺	同	五、四二〇	七、〇四〇

◎製圖版楓

七分厚 三尺巾 四尺長一枚 一三、〇〇
同 二尺五寸 三尺五 同 一一、〇二〇

◎ベニヤドーア、檜、榊、櫻、楓

◎銅瓦板

吉田定七商店
定尺巾一尺長一尺二寸（一枚目付）（和百斤二付）

一二〇代	増値	一二〇匁建	七、〇〇
八〇代		八〇匁値	七五、〇〇
七代		七〇匁	七五、〇〇
六代		六〇匁	七七、〇〇
五代		五〇匁	八一、〇〇
四代		四〇匁	八九、〇〇
三代		三〇匁	一〇三、〇〇

◎丸鐵

山本東作商店

径	長サ	
二分	十二尺	五五〇
	十五尺	六八〇
	十八尺	八二〇
	二十尺	九〇〇
二分五厘	十二尺	五五〇

| | | |

二寸二分　同　四四〇
二寸二分　同　四四〇
三寸　同　四四〇
三寸二分　同　四四五
三寸半　同　四五〇
四寸　同　四六〇
四寸半　同　四七〇
五寸　同　四八〇
五寸半　同　四九〇
六寸　同　五〇〇
六寸半　同　五一〇
七寸　同　五二〇
七寸半　同　五三〇
八寸　同　五四〇

◎角鐵

一分五厘　十二尺位　六一〇
二分　同　五六〇
二分五厘　同　五一〇
三分　同　四九〇
四分　同　四六〇
五分　同　四二〇
六分　十五尺以上十八尺位　四一〇
七分　同　四〇〇
八分　同　三九〇
九分　同　三八〇
一寸　同　三七〇
一寸二分　同　三六〇
一寸四分　同　三五〇
一寸六分　同　三四〇
二寸　同　三三〇
三寸　同　三二〇
四寸　同　三一〇
五寸　同　三〇〇

◎平鐵

一分　三分　十二尺位　六三〇
一分五厘　四分　同　五四〇
二分　四分五厘　同　五三〇
二分五厘　五分　同　五二〇
三分　六分　同　五一〇
四分　七分　同　五〇〇
五分　八分　同　四九〇
六分　一寸　同　四八〇
七分　一寸二分　同　四七〇
八分　一寸四分　十五尺以上十八尺位　四六〇
九分　一寸六分　同　四五〇
一寸　二寸　同　四四〇
一寸二分　二寸二分　同　四三〇
一寸四分　三寸　同　四二〇
一寸六分　三寸半　同　四一〇
二寸　四寸　同　四〇〇
二寸二分　四寸半　同　三九〇
二寸四分　五寸　同　三八〇
二寸六分　五寸半　同　三七〇
三寸　六寸　同　三六〇
三寸二分　六寸半　同　三五〇
三寸四分　七寸　同　三四〇
三寸六分　七寸半　同　三三〇
三寸八分　八寸　同　三二〇
四寸　八寸半　同　三一〇
四寸二分　九寸　同　三〇〇
四寸四分　九寸半　同　二九〇
四寸六分　十寸　同　二八〇
四寸八分　十寸半　同　二七〇
五寸　十一寸　同　二六〇
五寸二分　十一寸半　同　二五〇
五寸四分　十二寸　同　二四〇
五寸六分　十二寸半　同　二三〇
五寸八分　十三寸　同　二二〇
六寸　十三寸半　同　二一〇
六寸二分　十四寸　同　二〇〇
六寸四分　十四寸半　同　一九〇
六寸六分　十五寸　同　一八〇
六寸八分　十五寸半　同　一七〇
七寸　十六寸　同　一六〇
七寸二分　十六寸半　同　一五〇
七寸四分　十七寸　同　一四〇
七寸六分　十七寸半　同　一三〇
七寸八分　十八寸　同　一二〇
八寸　十八寸半　同　一一〇
八寸二分　十九寸　同　一〇〇
八寸四分　十九寸半　同　九〇
八寸六分　二十寸　同　八〇
八寸八分　二十寸半　同　七〇
九寸　二十一寸　同　六〇
九寸二分　二十一寸半　同　五〇
九寸四分　二十二寸　同　四〇
九寸六分　二十二寸半　同　三〇
九寸八分　二十三寸　同　二〇
十寸　二十三寸半　同　一〇
十寸二分　二十四寸　同　〇
十寸四分　二十四寸半　同　九〇
十寸六分　二十五寸　同　八〇
十寸八分　二十五寸半　同　七〇
十一寸　二十六寸　同　六〇
十一寸二分　二十六寸半　同　五〇
十一寸四分　二十七寸　同　四〇
十一寸六分　二十七寸半　同　三〇
十一寸八分　二十八寸　同　二〇
十二寸　二十八寸半　同　一〇
十二寸二分　二十九寸　同　〇
十二寸四分　二十九寸半　同　九〇
十二寸六分　三十寸　同　八〇
十二寸八分　三十寸半　同　七〇
十三寸　三十一寸　同　六〇
十三寸二分　三十一寸半　同　五〇
十三寸四分　三十二寸　同　四〇
十三寸六分　三十二寸半　同　三〇
十三寸八分　三十三寸　同　二〇
十四寸　三十三寸半　同　一〇
十四寸二分　三十四寸　同　〇
十四寸四分　三十四寸半　同　九〇
十四寸六分　三十五寸　同　八〇
十四寸八分　三十五寸半　同　七〇
十五寸　三十六寸　同　六〇
十五寸二分　三十六寸半　同　五〇
十五寸四分　三十七寸　同　四〇
十五寸六分　三十七寸半　同　三〇
十五寸八分　三十八寸　同　二〇
十六寸　三十八寸半　同　一〇
十六寸二分　三十九寸　同　〇
十六寸四分　三十九寸半　同　九〇
十六寸六分　四十寸　同　八〇
十六寸八分　四十寸半　同　七〇
十七寸　四十一寸　同　六〇
十七寸二分　四十一寸半　同　五〇
十七寸四分　四十二寸　同　四〇
十七寸六分　四十二寸半　同　三〇
十七寸八分　四十三寸　同　二〇
十八寸　四十三寸半　同　一〇
十八寸二分　四十四寸　同　〇
十八寸四分　四十四寸半　同　九〇
十八寸六分　四十五寸　同　八〇
十八寸八分　四十五寸半　同　七〇
十九寸　四十六寸　同　六〇
十九寸二分　四十六寸半　同　五〇
十九寸四分　四十七寸　同　四〇
十九寸六分　四十七寸半　同　三〇
十九寸八分　四十八寸　同　二〇
二十寸　四十八寸半　同　一〇
二十寸二分　四十九寸　同　〇
二十寸四分　四十九寸半　同　九〇
二十寸六分　五十寸　同　八〇
二十寸八分　五十寸半　同　七〇
二十一寸　五十一寸　同　六〇
二十一寸二分　五十一寸半　同　五〇
二十一寸四分　五十二寸　同　四〇
二十一寸六分　五十二寸半　同　三〇
二十一寸八分　五十三寸　同　二〇
二十二寸　五十三寸半　同　一〇
二十二寸二分　五十四寸　同　〇
二十二寸四分　五十四寸半　同　九〇
二十二寸六分　五十五寸　同　八〇
二十二寸八分　五十五寸半　同　七〇
二十三寸　五十六寸　同　六〇
二十三寸二分　五十六寸半　同　五〇
二十三寸四分　五十七寸　同　四〇
二十三寸六分　五十七寸半　同　三〇
二十三寸八分　五十八寸　同　二〇
二十四寸　五十八寸半　同　一〇
二十四寸二分　五十九寸　同　〇
二十四寸四分　五十九寸半　同　九〇
二十四寸六分　六十寸　同　八〇
二十四寸八分　六十寸半　同　七〇
二十五寸　六十一寸　同　六〇
二十五寸二分　六十一寸半　同　五〇
二十五寸四分　六十二寸　同　四〇
二十五寸六分　六十二寸半　同　三〇
二十五寸八分　六十三寸　同　二〇
二十六寸　六十三寸半　同　一〇
二十六寸二分　六十四寸　同　〇
二十六寸四分　六十四寸半　同　九〇
二十六寸六分　六十五寸　同　八〇
二十六寸八分　六十五寸半　同　七〇
二十七寸　六十六寸　同　六〇
二十七寸二分　六十六寸半　同　五〇
二十七寸四分　六十七寸　同　四〇
二十七寸六分　六十七寸半　同　三〇
二十七寸八分　六十八寸　同　二〇
二十八寸　六十八寸半　同　一〇
二十八寸二分　六十九寸　同　〇
二十八寸四分　六十九寸半　同　九〇
二十八寸六分　七十寸　同　八〇
二十八寸八分　七十寸半　同　七〇
二十九寸　七十一寸　同　六〇
二十九寸二分　七十一寸半　同　五〇
二十九寸四分　七十二寸　同　四〇
二十九寸六分　七十二寸半　同　三〇
二十九寸八分　七十三寸　同　二〇
三十寸　七十三寸半　同　一〇
三十寸二分　七十四寸　同　〇
三十寸四分　七十四寸半　同　九〇
三十寸六分　七十五寸　同　八〇
三十寸八分　七十五寸半　同　七〇
三十一寸　七十六寸　同　六〇
三十一寸二分　七十六寸半　同　五〇
三十一寸四分　七十七寸　同　四〇
三十一寸六分　七十七寸半　同　三〇
三十一寸八分　七十八寸　同　二〇
三十二寸　七十八寸半　同　一〇
三十二寸二分　七十九寸　同　〇
三十二寸四分　七十九寸半　同　九〇
三十二寸六分　八十寸　同　八〇
三十二寸八分　八十寸半　同　七〇
三十三寸　八十一寸　同　六〇
三十三寸二分　八十一寸半　同　五〇
三十三寸四分　八十二寸　同　四〇
三十三寸六分　八十二寸半　同　三〇
三十三寸八分　八十三寸　同　二〇
三十四寸　八十三寸半　同　一〇
三十四寸二分　八十四寸　同　〇
三十四寸四分　八十四寸半　同　九〇
三十四寸六分　八十五寸　同　八〇
三十四寸八分　八十五寸半　同　七〇
三十五寸　八十六寸　同　六〇
三十五寸二分　八十六寸半　同　五〇
三十五寸四分　八十七寸　同　四〇
三十五寸六分　八十七寸半　同　三〇
三十五寸八分　八十八寸　同　二〇
三十六寸　八十八寸半　同　一〇
三十六寸二分　八十九寸　同　〇
三十六寸四分　八十九寸半　同　九〇
三十六寸六分　九十寸　同　八〇
三十六寸八分　九十寸半　同　七〇
三十七寸　九十一寸　同　六〇
三十七寸二分　九十一寸半　同　五〇
三十七寸四分　九十二寸　同　四〇
三十七寸六分　九十二寸半　同　三〇
三十七寸八分　九十三寸　同　二〇
三十八寸　九十三寸半　同　一〇
三十八寸二分　九十四寸　同　〇
三十八寸四分　九十四寸半　同　九〇
三十八寸六分　九十五寸　同　八〇
三十八寸八分　九十五寸半　同　七〇
三十九寸　九十六寸　同　六〇
三十九寸二分　九十六寸半　同　五〇
三十九寸四分　九十七寸　同　四〇
三十九寸六分　九十七寸半　同　三〇
三十九寸八分　九十八寸　同　二〇
四十寸　九十八寸半　同　一〇
四十寸二分　九十九寸　同　〇
四十寸四分　九十九寸半　同　九〇
四十寸六分　百寸　同　八〇
四十寸八分　百寸半　同　七〇
四十一寸　百一寸　同　六〇
四十一寸二分　百一寸半　同　五〇
四十一寸四分　百二寸　同　四〇
四十一寸六分　百二寸半　同　三〇
四十一寸八分　百三寸　同　二〇
四十二寸　百三寸半　同　一〇
四十二寸二分　百四寸　同　〇
四十二寸四分　百四寸半　同　九〇
四十二寸六分　百五寸　同　八〇
四十二寸八分　百五寸半　同　七〇
四十三寸　百六寸　同　六〇
四十三寸二分　百六寸半　同　五〇
四十三寸四分　百七寸　同　四〇
四十三寸六分　百七寸半　同　三〇
四十三寸八分　百八寸　同　二〇
四十四寸　百八寸半　同　一〇
四十四寸二分　百九寸　同　〇
四十四寸四分　百九寸半　同　九〇
四十四寸六分　百十寸　同　八〇
四十四寸八分　百十寸半　同　七〇
四十五寸　百十一寸　同　六〇
四十五寸二分　百十一寸半　同　五〇
四十五寸四分　百十二寸　同　四〇
四十五寸六分　百十二寸半　同　三〇
四十五寸八分　百十三寸　同　二〇
四十六寸　百十三寸半　同　一〇
四十六寸二分　百十四寸　同　〇
四十六寸四分　百十四寸半　同　九〇
四十六寸六分　百十五寸　同　八〇
四十六寸八分　百十五寸半　同　七〇
四十七寸　百十六寸　同　六〇
四十七寸二分　百十六寸半　同　五〇
四十七寸四分　百十七寸　同　四〇
四十七寸六分　百十七寸半　同　三〇
四十七寸八分　百十八寸　同　二〇
四十八寸　百十八寸半　同　一〇
四十八寸二分　百十九寸　同　〇
四十八寸四分　百十九寸半　同　九〇
四十八寸六分　百二十寸　同　八〇
四十八寸八分　百二十寸半　同　七〇
四十九寸　百二十一寸　同　六〇
四十九寸二分　百二十一寸半　同　五〇
四十九寸四分　百二十二寸　同　四〇
四十九寸六分　百二十二寸半　同　三〇
四十九寸八分　百二十三寸　同　二〇
五十寸　百二十三寸半　同　一〇
五十寸二分　百二十四寸　同　〇
五十寸四分　百二十四寸半　同　九〇
五十寸六分　百二十五寸　同　八〇
五十寸八分　百二十五寸半　同　七〇
五十一寸　百二十六寸　同　六〇
五十一寸二分　百二十六寸半　同　五〇
五十一寸四分　百二十七寸　同　四〇
五十一寸六分　百二十七寸半　同　三〇
五十一寸八分　百二十八寸　同　二〇
五十二寸　百二十八寸半　同　一〇
五十二寸二分　百二十九寸　同　〇
五十二寸四分　百二十九寸半　同　九〇
五十二寸六分　百三十寸　同　八〇
五十二寸八分　百三十寸半　同　七〇
五十三寸　百三十一寸　同　六〇
五十三寸二分　百三十一寸半　同　五〇
五十三寸四分　百三十二寸　同　四〇
五十三寸六分　百三十二寸半　同　三〇
五十三寸八分　百三十三寸　同　二〇
五十四寸　百三十三寸半　同　一〇
五十四寸二分　百三十四寸　同　〇
五十四寸四分　百三十四寸半　同　九〇
五十四寸六分　百三十五寸　同　八〇
五十四寸八分　百三十五寸半　同　七〇
五十五寸　百三十六寸　同　六〇
五十五寸二分　百三十六寸半　同　五〇
五十五寸四分　百三十七寸　同　四〇
五十五寸六分　百三十七寸半　同　三〇
五十五寸八分　百三十八寸　同　二〇
五十六寸　百三十八寸半　同　一〇
五十六寸二分　百三十九寸　同　〇
五十六寸四分　百三十九寸半　同　九〇
五十六寸六分　百四十寸　同　八〇
五十六寸八分　百四十寸半　同　七〇
五十七寸　百四十一寸　同　六〇
五十七寸二分　百四十一寸半　同　五〇
五十七寸四分　百四十二寸　同　四〇
五十七寸六分　百四十二寸半　同　三〇
五十七寸八分　百四十三寸　同　二〇
五十八寸　百四十三寸半　同　一〇
五十八寸二分　百四十四寸　同　〇
五十八寸四分　百四十四寸半　同　九〇
五十八寸六分　百四十五寸　同　八〇
五十八寸八分　百四十五寸半　同　七〇
五十九寸　百四十六寸　同　六〇
五十九寸二分　百四十六寸半　同　五〇
五十九寸四分　百四十七寸　同　四〇
五十九寸六分　百四十七寸半　同　三〇
五十九寸八分　百四十八寸　同　二〇
六十寸　百四十八寸半　同　一〇
六十寸二分　百四十九寸　同　〇
六十寸四分　百四十九寸半　同　九〇
六十寸六分　百五十寸　同　八〇
六十寸八分　百五十寸半　同　七〇
六十一寸　百五十一寸　同　六〇
六十一寸二分　百五十一寸半　同　五〇
六十一寸四分　百五十二寸　同　四〇
六十一寸六分　百五十二寸半　同　三〇
六十一寸八分　百五十三寸　同　二〇
六十二寸　百五十三寸半　同　一〇
六十二寸二分　百五十四寸　同　〇
六十二寸四分　百五十四寸半　同　九〇
六十二寸六分　百五十五寸　同　八〇
六十二寸八分　百五十五寸半　同　七〇
六十三寸　百五十六寸　同　六〇
六十三寸二分　百五十六寸半　同　五〇
六十三寸四分　百五十七寸　同　四〇
六十三寸六分　百五十七寸半　同　三〇
六十三寸八分　百五十八寸　同　二〇
六十四寸　百五十八寸半　同　一〇
六十四寸二分　百五十九寸　同　〇
六十四寸四分　百五十九寸半　同　九〇
六十四寸六分　百六十寸　同　八〇
六十四寸八分　百六十寸半　同　七〇
六十五寸　百六十一寸　同　六〇
六十五寸二分　百六十一寸半　同　五〇
六十五寸四分　百六十二寸　同　四〇
六十五寸六分　百六十二寸半　同　三〇
六十五寸八分　百六十三寸　同　二〇
六十六寸　百六十三寸半　同　一〇
六十六寸二分　百六十四寸　同　〇
六十六寸四分　百六十四寸半　同　九〇
六十六寸六分　百六十五寸　同　八〇
六十六寸八分　百六十五寸半　同　七〇
六十七寸　百六十六寸　同　六〇
六十七寸二分　百六十六寸半　同　五〇
六十七寸四分　百六十七寸　同　四〇
六十七寸六分　百六十七寸半　同　三〇
六十七寸八分　百六十八寸　同　二〇
六十八寸　百六十八寸半　同　一〇
六十八寸二分　百六十九寸　同　〇
六十八寸四分　百六十九寸半　同　九〇
六十八寸六分　百七十寸　同　八〇
六十八寸八分　百七十寸半　同　七〇
六十九寸　百七十一寸　同　六〇
六十九寸二分　百七十一寸半　同　五〇
六十九寸四分　百七十二寸　同　四〇
六十九寸六分　百七十二寸半　同　三〇
六十九寸八分　百七十三寸　同　二〇
七十寸　百七十三寸半　同　一〇
七十寸二分　百七十四寸　同　〇
七十寸四分　百七十四寸半　同　九〇
七十寸六分　百七十五寸　同　八〇
七十寸八分　百七十五寸半　同　七〇
七十一寸　百七十六寸　同　六〇
七十一寸二分　百七十六寸半　同　五〇
七十一寸四分　百七十七寸　同　四〇
七十一寸六分　百七十七寸半　同　三〇
七十一寸八分　百七十八寸　同　二〇
七十二寸　百七十八寸半　同　一〇
七十二寸二分　百七十九寸　同　〇
七十二寸四分　百七十九寸半　同　九〇
七十二寸六分　百八十寸　同　八〇
七十二寸八分　百八十寸半　同　七〇
七十三寸　百八十一寸　同　六〇
七十三寸二分　百八十一寸半　同　五〇
七十三寸四分　百八十二寸　同　四〇
七十三寸六分　百八十二寸半　同　三〇
七十三寸八分　百八十三寸　同　二〇
七十四寸　百八十三寸半　同　一〇
七十四寸二分　百八十四寸　同　〇
七十四寸四分　百八十四寸半　同　九〇
七十四寸六分　百八十五寸　同　八〇
七十四寸八分　百八十五寸半　同　七〇
七十五寸　百八十六寸　同　六〇
七十五寸二分　百八十六寸半　同　五〇
七十五寸四分　百八十七寸　同　四〇
七十五寸六分　百八十七寸半　同　三〇
七十五寸八分　百八十八寸　同　二〇
七十六寸　百八十八寸半　同　一〇
七十六寸二分　百八十九寸　同　〇
七十六寸四分　百八十九寸半　同　九〇
七十六寸六分　百九十寸　同　八〇
七十六寸八分　百九十寸半　同　七〇
七十七寸　百九十一寸　同　六〇
七十七寸二分　百九十一寸半　同　五〇
七十七寸四分　百九十二寸　同　四〇
七十七寸六分　百九十二寸半　同　三〇
七十七寸八分　百九十三寸　同　二〇
七十八寸　百九十三寸半　同　一〇
七十八寸二分　百九十四寸　同　〇
七十八寸四分　百九十四寸半　同　九〇
七十八寸六分　百九十五寸　同　八〇
七十八寸八分　百九十五寸半　同　七〇
七十九寸　百九十六寸　同　六〇
七十九寸二分　百九十六寸半　同　五〇
七十九寸四分　百九十七寸　同　四〇
七十九寸六分　百九十七寸半　同　三〇
七十九寸八分　百九十八寸　同　二〇
八十寸　百九十八寸半　同　一〇
八十寸二分　百九十九寸　同　〇
八十寸四分　百九十九寸半　同　九〇
八十寸六分　二百寸　同　八〇
八十寸八分　二百寸半　同　七〇
八十一寸　二百一寸　同　六〇
八十一寸二分　二百一寸半　同　五〇
八十一寸四分　二百二寸　同　四〇
八十一寸六分　二百二寸半　同　三〇
八十一寸八分　二百三寸　同　二〇
八十二寸　二百三寸半　同　一〇
八十二寸二分　二百四寸　同　〇
八十二寸四分　二百四寸半　同　九〇
八十二寸六分　二百五寸　同　八〇
八十二寸八分　二百五寸半　同　七〇
八十三寸　二百六寸　同　六〇
八十三寸二分　二百六寸半　同　五〇
八十三寸四分　二百七寸　同　四〇
八十三寸六分　二百七寸半　同　三〇
八十三寸八分　二百八寸　同　二〇
八十四寸　二百八寸半　同　一〇
八十四寸二分　二百九寸　同　〇
八十四寸四分　二百九寸半　同　九〇
八十四寸六分　二百十寸　同　八〇
八十四寸八分　二百十寸半　同　七〇
八十五寸　二百十一寸　同　六〇
八十五寸二分　二百十一寸半　同　五〇
八十五寸四分　二百十二寸　同　四〇
八十五寸六分　二百十二寸半　同　三〇
八十五寸八分　二百十三寸　同　二〇
八十六寸　二百十三寸半　同　一〇
八十六寸二分　二百十四寸　同　〇
八十六寸四分　二百十四寸半　同　九〇
八十六寸六分　二百十五寸　同　八〇
八十六寸八分　二百十五寸半　同　七〇
八十七寸　二百十六寸　同　六〇
八十七寸二分　二百十六寸半　同　五〇
八十七寸四分　二百十七寸　同　四〇
八十七寸六分　二百十七寸半　同　三〇
八十七寸八分　二百十八寸　同　二〇
八十八寸　二百十八寸半　同　一〇
八十八寸二分　二百十九寸　同　〇
八十八寸四分　二百十九寸半　同　九〇
八十八寸六分　二百二十寸　同　八〇
八十八寸八分　二百二十寸半　同　七〇
八十九寸　二百二十一寸　同　六〇
八十九寸二分　二百二十一寸半　同　五〇
八十九寸四分　二百二十二寸　同　四〇
八十九寸六分　二百二十二寸半　同　三〇
八十九寸八分　二百二十三寸　同　二〇
九十寸　二百二十三寸半　同　一〇
九十寸二分　二百二十四寸　同　〇
九十寸四分　二百二十四寸半　同　九〇
九十寸六分　二百二十五寸　同　八〇
九十寸八分　二百二十五寸半　同　七〇
九十一寸　二百二十六寸　同　六〇
九十一寸二分　二百二十六寸半　同　五〇
九十一寸四分　二百二十七寸　同　四〇
九十一寸六分　二百二十七寸半　同　三〇
九十一寸八分　二百二十八寸　同　二〇
九十二寸　二百二十八寸半　同　一〇
九十二寸二分　二百二十九寸　同　〇
九十二寸四分　二百二十九寸半　同　九〇
九十二寸六分　二百三十寸　同　八〇
九十二寸八分　二百三十寸半　同　七〇
九十三寸　二百三十一寸　同　六〇
九十三寸二分　二百三十一寸半　同　五〇
九十三寸四分　二百三十二寸　同　四〇
九十三寸六分　二百三十二寸半　同　三〇
九十三寸八分　二百三十三寸　同　二〇
九十四寸　二百三十三寸半　同　一〇
九十四寸二分　二百三十四寸　同　〇
九十四寸四分　二百三十四寸半　同　九〇
九十四寸六分　二百三十五寸　同　八〇
九十四寸八分　二百三十五寸半　同　七〇
九十五寸　二百三十六寸　同　六〇
九十五寸二分　二百三十六寸半　同　五〇
九十五寸四分　二百三十七寸　同　四〇
九十五寸六分　二百三十七寸半　同　三〇
九十五寸八分　二百三十八寸　同　二〇
九十六寸　二百三十八寸半　同　一〇
九十六寸二分　二百三十九寸　同　〇
九十六寸四分　二百三十九寸半　同　九〇
九十六寸六分　二百四十寸　同　八〇
九十六寸八分　二百四十寸半　同　七〇
九十七寸　二百四十一寸　同　六〇
九十七寸二分　二百四十一寸半　同　五〇
九十七寸四分　二百四十二寸　同　四〇
九十七寸六分　二百四十二寸半　同　三〇
九十七寸八分　二百四十三寸　同　二〇
九十八寸　二百四十三寸半　同　一〇
九十八寸二分　二百四十四寸　同　〇
九十八寸四分　二百四十四寸半　同　九〇
九十八寸六分　二百四十五寸　同　八〇
九十八寸八分　二百四十五寸半　同　七〇
九十九寸　二百四十六寸　同　六〇
九十九寸二分　二百四十六寸半　同　五〇
九十九寸四分　二百四十七寸　同　四〇
九十九寸六分　二百四十七寸半　同　三〇
九十九寸八分　二百四十八寸　同　二〇
百寸　二百四十八寸半　同　一〇
百寸二分　二百四十九寸　同　〇
百寸四分　二百四十九寸半　同　九〇
百寸六分　二百五十寸　同　八〇
百寸八分　二百五十寸半　同　七〇
百一寸　二百五十一寸　同　六〇
百一寸二分　二百五十一寸半　同　五〇
百一寸四分　二百五十二寸　同　四〇
百一寸六分　二百五十二寸半　同　三〇
百一寸八分　二百五十三寸　同　二〇
百二寸　二百五十三寸半　同　一〇
百二寸二分　二百五十四寸　同　〇
百二寸四分　二百五十四寸半　同　九〇
百二寸六分　二百五十五寸　同　八〇
百二寸八分　二百五十五寸半　同　七〇
百三寸　二百五十六寸　同　六〇
百三寸二分　二百五十六寸半　同　五〇
百三寸四分　二百五十七寸　同　四〇
百三寸六分　二百五十七寸半　同　三〇
百三寸八分　二百五十八寸　同　二〇
百四寸　二百五十八寸半　同　一〇
百四寸二分　二百五十九寸　同　〇
百四寸四分　二百五十九寸半　同　九〇
百四寸六分　二百六十寸　同　八〇
百四寸八分　二百六十寸半　同　七〇
百五寸　二百六十一寸　同　六〇
百五寸二分　二百六十一寸半　同　五〇
百五寸四分　二百六十二寸　同　四〇
百五寸六分　二百六十二寸半　同　三〇
百五寸八分　二百六十三寸　同　二〇
百六寸　二百六十三寸半　同　一〇
百六寸二分　二百六十四寸　同　〇
百六寸四分　二百六十四寸半　同　九〇
百六寸六分　二百六十五寸　同　八〇
百六寸八分　二百六十五寸半　同　七〇
百七寸　二百六十六寸　同　六〇
百七寸二分　二百六十六寸半　同　五〇
百七寸四分　二百六十七寸　同　四〇
百七寸六分　二百六十七寸半　同　三〇
百七寸八分　二百六十八寸　同　二〇
百八寸　二百六十八寸半　同　一〇
百八寸二分　二百六十九寸　同　〇
百八寸四分　二百六十九寸半　同　九〇
百八寸六分　二百七十寸　同　八〇
百八寸八分　二百七十寸半　同　七〇
百九寸　二百七十一寸　同　六〇
百九寸二分　二百七十一寸半　同　五〇
百九寸四分　二百七十二寸　同　四〇
百九寸六分　二百七十二寸半　同　三〇
百九寸八分　二百七十三寸　同　二〇
百十寸　二百七十三寸半　同　一〇
百十寸二分　二百七十四寸　同　〇
百十寸四分　二百七十四寸半　同　九〇
百十寸六分　二百七十五寸　同　八〇
百十寸八分　二百七十五寸半　同　七〇
百十一寸　二百七十六寸　同　六〇
百十一寸二分　二百七十六寸半　同　五〇
百十一寸四分　二百七十七寸　同　四〇
百十一寸六分　二百七十七寸半　同　三〇
百十一寸八分　二百七十八寸　同　二〇
百十二寸　二百七十八寸半　同　一〇
百十二寸二分　二百七十九寸　同　〇
百十二寸四分　二百七十九寸半　同　九〇
百十二寸六分　二百八十寸　同　八〇
百十二寸八分　二百八十寸半　同　七〇
百十三寸　二百八十一寸　同　六〇
百十三寸二分　二百八十一寸半　同　五〇
百十三寸四分　二百八十二寸　同　四〇
百十三寸六分　二百八十二寸半　同　三〇
百十三寸八分　二百八十三寸　同　二〇
百十四寸　二百八十三寸半　同　一〇
百十四寸二分　二百八十四寸　同　〇
百十四寸四分　二百八十四寸半　同　九〇
百十四寸六分　二百八十五寸　同　八〇
百十四寸八分　二百八十五寸半　同　七〇
百十五寸　二百八十六寸　同　六〇
百十五寸二分　二百八十六寸半　同　五〇
百十五寸四分　二百八十七寸　同　四〇
百十五寸六分　二百八十七寸半　同　三〇
百十五寸八分　二百八十八寸　同　二〇
百十六寸　二百八十八寸半　同　一〇
百十六寸二分　二百八十九寸　同　〇
百十六寸四分　二百八十九寸半　同　九〇
百十六寸六分　二百九十寸　同　八〇
百十六寸八分　二百九十寸半　同　七〇
百十七寸　二百九十一寸　同　六〇
百十七寸二分　二百九十一寸半　同　五〇
百十七寸四分　二百九十二寸　同　四〇
百十七寸六分　二百九十二寸半　同　三〇
百十七寸八分　二百九十三寸　同　二〇
百十八寸　二百九十三寸半　同　一〇
百十八寸二分　二百九十四寸　同　〇
百十八寸四分　二百九十四寸半　同　九〇
百十八寸六分　二百九十五寸　同　八〇
百十八寸八分　二百九十五寸半　同　七〇
百十九寸　二百九十六寸　同　六〇
百十九寸二分　二百九十六寸半　同　五〇
百十九寸四分　二百九十七寸　同　四〇
百十九寸六分　二百九十七寸半　同　三〇
百十九寸八分　二百九十八寸　同　二〇
百二十寸　二百九十八寸半　同　一〇
百二十寸二分　二百九十九寸　同　〇
百二十寸四分　二百九十九寸半　同　九〇
百二十寸六分　三百寸　同　八〇
百二十寸八分　三百寸半　同　七〇
百二十一寸　三百一寸　同　六〇
百二十一寸二分　三百一寸半　同　五〇
百二十一寸四分　三百二寸　同　四〇
百二十一寸六分　三百二寸半　同　三〇
百二十一寸八分　三百三寸　同　二〇
百二十二寸　三百三寸半　同　一〇
百二十二寸二分　三百四寸　同　〇
百二十二寸四分　三百四寸半　同　九〇
百二十二寸六分　三百五寸　同　八〇
百二十二寸八分　三百五寸半　同　七〇
百二十三寸　三百六寸　同　六〇
百二十三寸二分　三百六寸半　同　五〇
百二十三寸四分　三百七寸　同　四〇
百二十三寸六分　三百七寸半　同　三〇
百二十三寸八分　三百八寸　同　二〇
百二十四寸　三百八寸半　同　一〇
百二十四寸二分　三百九寸　同　〇
百二十四寸四分　三百九寸半　同　九〇
百二十四寸六分　三百十寸　同　八〇
百二十四寸八分　三百十寸半　同　七〇
百二十五寸　三百十一寸　同　六〇
百二十五寸二分　三百十一寸半　同　五〇
百二十五寸四分　三百十二寸　同　四〇
百二十五寸六分　三百十二寸半　同　三〇
百二十五寸八分　三百十三寸　同　二〇
百二十六寸　三百十三寸半　同　一〇
百二十六寸二分　三百十四寸　同　〇
百二十六寸四分　三百十四寸半　同　九〇
百二十六寸六分　三百十五寸　同　八〇
百二十六寸八分　三百十五寸半　同　七〇
百二十七寸　三百十六寸　同　六〇
百二十七寸二分　三百十六寸半　同　五〇
百二十七寸四分　三百十七寸　同　四〇
百二十七寸六分　三百十七寸半　同　三〇
百二十七寸八分　三百十八寸　同　二〇
百二十八寸　三百十八寸半　同　一〇
百二十八寸二分　三百十九寸　同　〇
百二十八寸四分　三百十九寸半　同　九〇
百二十八寸六分　三百二十寸　同　八〇
百二十八寸八分　三百二十寸半　同　七〇
百二十九寸　三百二十一寸　同　六〇
百二十九寸二分　三百二十一寸半　同　五〇
百二十九寸四分　三百二十二寸　同　四〇
百二十九寸六分　三百二十二寸半　同　三〇
百二十九寸八分　三百二十三寸　同　二〇
百三十寸　三百二十三寸半　同　一〇
百三十寸二分　三百二十四寸　同　〇
百三十寸四分　三百二十四寸半　同　九〇
百三十寸六分　三百二十五寸　同　八〇
百三十寸八分　三百二十五寸半　同　七〇
百三十一寸　三百二十六寸　同　六〇
百三十一寸二分　三百二十六寸半　同　五〇
百三十一寸四分　三百二十七寸　同　四〇
百三十一寸六分　三百二十七寸半　同　三〇
百三十一寸八分　三百二十八寸　同　二〇
百三十二寸　三百二十八寸半　同　一〇
百三十二寸二分　三百二十九寸　同　〇
百三十二寸四分　三百二十九寸半　同　九〇
百三十二寸六分　三百三十寸　同　八〇
百三十二寸八分　三百三十寸半　同　七〇
百三十三寸　三百三十一寸　同　六〇
百三十三寸二分　三百三十一寸半　同　五〇
百三十三寸四分　三百三十二寸　同　四〇
百三十三寸六分　三百三十二寸半　同　三〇
百三十三寸八分　三百三十三寸　同　二〇
百三十四寸　三百三十三寸半　同　一〇
百三十四寸二分　三百三十四寸　同　〇
百三十四寸四分　三百三十四寸半　同　九〇
百三十四寸六分　三百三十五寸　同　八〇
百三十四寸八分　三百三十五寸半　同　七〇
百三十五寸　三百三十六寸　同　六〇
百三十五寸二分　三百三十六寸半　同　五〇
百三十五寸四分　三百三十七寸　同　四〇
百三十五寸六分　三百三十七寸半　同　三〇
百三十五寸八分　三百三十八寸　同　二〇
百三十六寸　三百三十八寸半　同　一〇
百三十六寸二分　三百三十九寸　同　〇
百三十六寸四分　三百三十九寸半　同　九〇
百三十六寸六分　三百四十寸　同　八〇
百三十六寸八分　三百四十寸半　同　七〇
百三十七寸　三百四十一寸　同　六〇
百三十七寸二分　三百四十一寸半　同　五〇
百三十七寸四分　三百四十二寸　同　四〇
百三十七寸六分　三百四十二寸半　同　三〇
百三十七寸八分　三百四十三寸　同　二〇
百三十八寸　三百四十三寸半　同　一〇
百三十八寸二分　三百四十四寸　同　〇
百三十八寸四分　三百四十四寸半　同　九〇
百三十八寸六分　三百四十五寸　同　八〇
百三十八寸八分　三百四十五寸半　同　七〇
百三十九寸　三百四十六寸　同　六〇
百三十九寸二分　三百四十六寸半　同　五〇
百三十九寸四分　三百四十七寸　同　四〇
百三十九寸六分　三百四十七寸半　同　三〇
百三十九寸八分　三百四十八寸　同　二〇
百四十寸　三百四十八寸半　同　一〇
百四十寸二分　三百四十九寸　同　〇
百四十寸四分　三百四十九寸半　同　九〇
百四十寸六分　三百五十寸　同　八〇
百四十寸八分　三百五十寸半　同　七〇
百四十一寸　三百五十一寸　同　六〇
百四十一寸二分　三百五十一寸半　同　五〇
百四十一寸四分　三百五十二寸　同　四〇
百四十一寸六分　三百五十二寸半　同　三〇
百四十一寸八分　三百五十三寸　同　二〇
百四十二寸　三百五十三寸半　同　一〇
百四十二寸二分　三百五十四寸　同　〇
百四十二寸四分　三百五十四寸半　同　九〇
百四十二寸六分　三百五十五寸　同　八〇
百四十二寸八分　三百五十五寸半　同　七〇
百四十三寸　三百五十六寸　同　六〇
百四十三寸二分　三百五十六寸半　同　五〇
百四十三寸四分　三百五十七寸　同　四〇
百四十三寸六分　三百五十七寸半　同　三〇
百四十三寸八分　三百五十八寸　同　二〇
百四十四寸　三百五十八寸半　同　一〇
百四十四寸二分　三百五十九寸　同　〇
百四十四寸四分　三百五十九寸半　同　九〇
百四十四寸六分　三百六十寸　同　八〇
百四十四寸八分　三百六十寸半　同　七〇
百四十五寸　三百六十一寸　同　六〇
百四十五寸二分　三百六十一寸半　同　五〇
百四十五寸四分　三百六十二寸　同　四〇
百四十五寸六分　三百六十二寸半　同　三〇
百四十五寸八分　三百六十三寸　同　二〇
百四十六寸　三百六十三寸半　同　一〇
百四十六寸二分　三百六十四寸　同　〇
百四十六寸四分　三百六十四寸半　同　九〇
百四十六寸六分　三百六十五寸　同　八〇
百四十六寸八分　三百六十五寸半　同　七〇
百四十七寸　三百六十六寸　同　六〇
百四十七寸二分　三百六十六寸半　同　五〇
百四十七寸四分　三百六十七寸　同　四〇
百四十七寸六分　三百六十七寸半　同　三〇
百四十七寸八分　三百六十八寸　同　二〇
百四十八寸　三百六十八寸半　同　一〇
百四十八寸二分　三百六十九寸　同　〇
百四十八寸四分　三百六十九寸半　同　九〇
百四十八寸六分　三百七十寸　同　八〇
百四十八寸八分　三百七十寸半　同　七〇
百四十九寸　三百七十一寸　同　六〇
百四十九寸二分　三百七十一寸半　同　五〇
百四十九寸四分　三百七十二寸　同　四〇
百四十九寸六分　三百七十二寸半　同　三〇
百四十九寸八分　三百七十三寸　同　二〇
百五十寸　三百七十三寸半　同　一〇
百五十寸二分　三百

編輯小言

□内容の一つ〳〵に就いての批判は、自らその人あつて、別の問題ですが、それらを綜合し按排し使ひこなして出來上る雜誌そのものは、誰が何んと云へ、わたくしは、まつたく一つの藝術だと信じて居ります。

□その藝術とやらの雜誌も、わたくしの多年に於ける經驗は、雜誌の出來上つたとき、最早や、わたしの藝術としての感觸は、いつも消へて終います。——いや、寧ろ、その物に對して厭やな氣持ちがします。時によると眼に觸れるのさへ不快な氣持ちがします。

□けれども、どんな拙いものでも、出來るまでの道程は、いつも可成り強い興趣を以て歩んで居ります。そして、出來る事にいつも心は躍つて居り、輝しい希望を感じて居ります。——其處には、やなごで〳〵や、一種の壓迫染みた事や、等、等、等、そんな事に犬して侵されない積りで來ました。

□とは云へ、無責任な盲評と、無理解な態度を押し附けられるには、操觚者としての矜持（プライド）を蹴足にされたような氣持を禁じ得ません。——わたしには小哲學がありますから、そんなときは他の或る廣い世界にわたしの心は旅立ちます。——どうぞ折角御ひいきをお願ひ致します。（郊郎）

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅	廣告料	種別	金額
	一册	七拾五錢	貳錢		半頁	八圓
十二册					一頁	拾五圓
九圓			貳拾四錢		特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ	

（毎月壹回）
（一日發行）

大正十四年一月三十日印刷
大正十四年二月一日發行

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人 江村恒一

大阪市東區內淡路町一丁目廿一番地
印刷所 大阪活版所

大阪市北區堂島濱通一丁目一番地
發行所 日本建築協會
電話北四二九一一番
振替口座大阪三九九七五

大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店 柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

●第八集　第二号　掲載広告一覧（掲載順）

日本エレベーター製造
飾磨化学工業
大野正営業所
大塚鉄工所
日米板硝子
井上幸三商店
浅野スレート販売
政正
石綿スレート
二和商会
南満鉱業
原田商会
福田製作所
大阪ビトロライト工事
日本セメント防水剤製造所
浅野物産
ベニア商会
田村商会
東洋コルク工業
高田松太郎商店
浅野スレート販売大阪出張所
金剛商会

HANKEN SEISAKUSYO
横河橋梁製作所
大平工業所
油脂化工社
日本ホロタイル
駒崎化学建材研究所
湯浅蓄電池製造
共益社
長山施工店
今崎製作所
中村グラニット商会
早苗会
野沢幸三郎商店
森川組
田中昌司商店
大福海上火災保険
大阪鉄管商会
東亜ペイント製造
浅海商店
出浦建築事務所
新海建築工務所
大阪建築相談所

小笠原建築事務所
岡部顯則建築事務所
大阪建築所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
野村橋本建築事務所
国枝工務所
安井武雄建築事務所
柳下建築事務所
増田清建築事務所
前田松本建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
西原衛生工業所大阪支店
大阪窯業
池田勘蔵

大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯工務所
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
藤木工務店
正木工務店
岡本工務店
鴻池組営業所
有山組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
米山製作所

山田大理石製作所
矢橋大理石商店
須賀商会
大理石工業
栄進社
松尾
山本窯業商店
境川文庫
新田ベニヤ製造所
大阪青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
日本木材工芸
高島屋呉服店
城口汚水処理研究所大阪支店
サカイブン建築鉄工所
ベニス工房
浜口商店
岩崎商業
小野田セメント製造
日本建築紙工大阪出張所
高田商会
セール、フレザー
星製薬
河村青写真調製所

阿部鉄工所
東京建鉄
大阪耐火リノリウム工業
日本工剤
内外土木建築材料
山中商会
木下商店
桐田商会
裳華房
日本耐火スレート
淡陶
塩路塗料工業所
大東塗料
長田商店